

# 日本語 hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha

---

## リリース・ノート

2003 年 3 月

本書では、HP DECwindows Motif for HP OpenVMS Alpha V1.3 ソフトウェアに関する修正点、既知の問題、および制限事項について説明します。

改訂情報:                      本書は改訂版です。

オペレーティング・システム: HP OpenVMS Alpha V7.3-1

ソフトウェア・バージョン:    HP DECwindows Motif for  
                                  HP OpenVMS Alpha V1.3

日本ヒューレット・パッカード株式会社

---

2003年3月

本書の著作権は日本ヒューレット・パッカー株式会社保有しており、本書中の解説および図、表は日本ヒューレット・パッカーの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パッカーは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア(対象ソフトウェア)は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© 2003 日本ヒューレット・パッカー株式会社

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

---

# 目次

まえがき	xv
1 はじめに	
2 一般ユーザ向けリリース・ノート	
2.1 OpenVMS ディスプレイ・デバイスとレイヤード・プロダクトのインタフェース	2-1
2.1.1 OpenVMS ディスプレイ・デバイス (SET DISPLAY)	2-1
2.1.1.1 誤解を招きやすい SET DISPLAY/REVOKE のエラー・メッセージ	2-1
2.1.1.2 Kerberos が有効な場合に SET DISPLAY/GENERATE が失敗する問題	2-2
2.1.1.3 SET DISPLAY/REVOKE 使用時に入出力エラーが表示される問題	2-2
2.1.1.4 SET DISPLAY/REVOKE で X サーバがクラッシュする問題	2-2
2.1.1.5 終了時にディスプレイ・デバイスが削除されない問題	2-3
2.1.2 デバッグ	2-3
2.1.2.1 OpenVMS デバッグの DECwindows Motif インタフェースが正しく動作しない問題	2-3
2.1.3 DECTPU	2-4
2.1.3.1 小さなディスプレイ・モニタと DECTPU	2-4
2.2 一般的な DECwindows Motif 環境	2-4
2.2.1 Web ブラウザのサポート	2-5
2.2.2 要求が集中したアプリケーションがクローズ前に一時停止する問題	2-5
2.2.3 アプリケーションの競合状態によって X サーバがクラッシュする問題	2-6
2.2.4 Display PostScript のサポートの終了	2-6
2.2.5 「テア・オフ」メニューのサポートの制限	2-7

2.2.6	"System Menu Bar: Pseudo Mouse Not Available"のメッセージの意味 .....	2-7
2.2.7	OSF/Motif リリース 1.1.3 に対してリンクされたアプリケーションからの印刷 .....	2-7
2.3	New Desktop 環境 .....	2-8
2.3.1	完全なファイル指定の DTPAD のバナーへの表示 .....	2-8
2.3.2	マルチヘッド・システムでスタイル・マネージャが誤ったセキュリティ・オプションを表示する問題 .....	2-8
2.3.3	ホーム・セッションを設定するとデスクトップ・アプリケーションが消える問題 .....	2-9
2.3.4	DTSESSION ログ記録の問題 .....	2-9
2.3.5	拡張ファイル指定でのファイル・マネージャの問題 .....	2-10
2.3.6	DECwrite アイコンで DECwrite プログラムが起動しない .....	2-11
2.3.7	TPU ウィンドウをオープンしたままでセッションを終了したときの遅延 .....	2-12
2.3.8	dximageview による TIF ファイルの参照 .....	2-12
2.3.9	テキスト・エディタの制限事項 .....	2-13
2.3.10	UNIX 形式で表示されるファイル名 .....	2-13
2.3.11	フロントパネルの時計はアイコンのみ .....	2-14
2.3.12	ToolTalk アクションの未サポート .....	2-14
2.3.13	セッション・マネージャの保存および復元の制約 .....	2-14
2.3.14	ファイル・マネージャのサーチ・リストの制約 .....	2-15
2.3.15	[ログイン]画面と[一時停止]画面のテキスト・フィールドの制限 .....	2-16
2.3.15.1	ユーザ名入力時に認識されない制御文字 .....	2-16
2.3.15.2	RETURN キーを使用した[ログイン]テキスト・フィールド間の移動 .....	2-17
2.3.15.3	[一時停止]画面でのパスワード入力時の最初の文字の無視 .....	2-17
2.3.15.4	最初の画面に文字が表示されない .....	2-17
2.3.16	フォント選択の制約 .....	2-17
2.3.17	省略時のワークスペースの制約 .....	2-18
2.4	アプリケーション .....	2-18
2.4.1	ブックリーダー .....	2-18
2.4.1.1	ライブラリの切り替え時にブックリーダーがハングする .....	2-18
2.4.1.2	Display PostScript のサポートの終了 .....	2-19
2.4.1.3	マルチバイト文字の制限 .....	2-19
2.4.1.4	DECWSBOOKSHELF ファイルへのコメント文字の追加 .....	2-19

2.4.2	CDA .....	2-19
2.4.2.1	eXcursion V7.1 による色付きの大きな DDIF ファイルの表示 .....	2-20
2.4.2.2	Display PostScript のサポートの終了.....	2-20
2.4.3	漢字端末エミュレータ .....	2-20
2.4.3.1	Kerberos が有効な状態で漢字端末エミュレータの起動に失敗する問題 .....	2-21
2.4.3.2	eXcursion 使用時にユーロ通貨記号が正しく表示されない問題 .....	2-21
2.4.3.3	マルチヘッド・システムでウィンドウ・テキストが正しく表示されない問題 .....	2-21
2.4.3.4	ワイルドカードで Agfa Monotype TrueType フォントを指定すると漢字端末エミュレータのロード時にクラッシュが発生する問題.....	2-22
2.4.3.5	漢字端末エミュレータ・ウィンドウが縮む問題.....	2-22
2.4.3.6	漢字端末エミュレータのリソース・ファイル名.....	2-22
2.4.3.7	漢字端末エミュレータのウィンドウ数の上限 .....	2-23
2.4.3.8	端末のサイズ変更 .....	2-23
2.4.3.9	漢字端末エミュレータ・ウィンドウ・サイズの報告 .....	2-24
2.4.3.10	オート・リピート設定の変更 .....	2-24
2.4.3.11	漢字端末エミュレータ・ウィンドウの配置 .....	2-24
2.4.3.12	著作権についての注意書きの表示のタイムアウト .....	2-24
2.4.3.13	フォントの選択 .....	2-25
2.4.3.14	漢字端末エミュレータの論理名のサポート .....	2-25
2.4.3.15	接続されたプリンタへの印刷 .....	2-26
2.4.3.16	画面ホールドの応答時間の改善 .....	2-27
2.4.3.17	漢字端末エミュレータのグラフィックス.....	2-27
2.4.3.18	漢字端末エミュレータのリソース使用 .....	2-28
2.4.3.19	診断クラッシュ・ファイルおよびメッセージ .....	2-29
2.4.3.20	デバッガの使用 .....	2-29
2.4.3.21	仮想端末のサポート.....	2-30
2.4.3.22	VT330 および VT340 端末エミュレータの制限事項 .....	2-30
2.4.3.23	CREATE/TERMINAL/DETACHED/PROCESS の使用 .....	2-31
2.4.3.24	ReGIS ロケータ・レポート .....	2-31
2.4.4	DECwindows CD プレーヤ .....	2-32
2.4.4.1	必要な特権 .....	2-32

2.4.5	電子メール	2-32
2.4.5.1	ドローア圧縮操作のアクセス違反に関する問題の解決	2-32
2.4.5.2	Display PostScript のサポートの終了	2-32
2.4.5.3	ディレクトリ・ウィンドウからのメッセージのペースト	2-33
2.4.5.4	キーボード操作への応答	2-33
2.4.5.5	電子メールでカラー・カスタマイザを使用する	2-34
2.4.6	ノートパッド	2-34
2.4.6.1	ノートパッドと OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットとのリンク	2-34
2.4.7	ペイント	2-34
2.4.7.1	個人のカラーマップ	2-35
2.4.7.2	特定のペイント操作の性能が遅い	2-35
2.4.8	セッション・マネージャ	2-35
2.4.8.1	[ユーザの構成]への、予約文字を含むノード名の指定	2-35
2.4.8.2	セッション・マネージャでのカラー・カスタマイザの使用	2-36
2.4.8.3	省略時に生成される独立プロセスがあるために他のアプリケーションが開けないことがある	2-36
2.4.8.4	プライベート・ロゴを使用する際の入力フォーカスの変更	2-37
2.4.8.5	セッション・マネージャ・プロセスの停止	2-38
2.4.9	ウィンドウ・マネージャ	2-38
2.4.9.1	アイコン・ボックス・タイトルの変更	2-39
2.4.9.2	マルチヘッド・システムのすべてのスクリーンでヘルプ・テキストを表示できない問題	2-39
2.4.9.3	Alt + Space キーでウィンドウ・メニューが表示されない	2-39
2.4.9.4	DECwindows Motif ウィンドウ・マネージャでのカラー・カスタマイザの使用	2-40
2.4.9.5	ウィンドウ・マネージャの構成ファイルを使用した、ファンクション・キーのバインディングの変更	2-40
2.4.9.6	ウィンドウ・マネージャの再起動	2-41
2.4.9.7	モノクロ・モニタの色に関連するリソースのカスタマイズ	2-41
2.4.9.8	マルチヘッド・システムでの色のカスタマイズ	2-42
2.4.9.9	アイコン・ボックスの画面外への移動	2-42
2.4.9.10	マルチライン・アイコン・タイトルのセンタリングのずれ	2-42

2.5	ツールとユーティリティ	2-42
2.5.1	X 権限ユーティリティ (xauth)	2-43
2.5.1.1	論理名使用時のファイル・ロックのサポート	2-43
2.5.1.2	ファイル・タイプなしのファイル名指定時の問題	2-43
2.5.2	画面印刷	2-44
2.5.2.1	画面印刷で PostScript 出力が欠ける問題	2-44
3	システム管理者向けリリース・ノート	
3.1	インストールおよびアップグレードに関する情報	3-1
3.1.1	DECwindows Motif のバージョンと互換性	3-1
3.1.2	共有可能リンクを使用したイメージのインストール	3-2
3.1.3	DECW\$COMPARE_VERSIONS コマンド・ファイルの制限	3-3
3.2	システムのチューニングと性能	3-3
3.2.1	一部のグラフィックス・カードでシステムがハングする	3-4
3.2.2	起動時に表示されるエラー・メッセージ	3-4
3.2.3	起動の性能向上	3-6
3.2.4	非 VGA モニタ用のシステムの調整	3-7
3.3	セキュリティと承認	3-10
3.3.1	セキュリティ・オプション設定時に誤った X 権限ファイルが参照される問題	3-10
3.3.2	Kerberos を有効にしたときに認識できないコードのエラーが表示される	3-11
3.3.3	非トラステッド接続でアプリケーションを実行したときに不正なアトム・エラーが表示される問題	3-12
3.3.4	XINERAMA 拡張と SEC_XAG 拡張が存在すると非トラステッド接続で実行されるアプリケーションが動作しない問題	3-13
3.3.5	非トラステッド・クライアントがサーバのアクセス制御を変更する問題	3-13
3.3.6	Kerberos および TCP/IP がノード名 0 を解釈できない問題	3-14
3.3.7	サーバの X 権限ファイルから Kerberos の設定を初期化する際の DECwindows Motif ログインの使用禁止	3-14
3.3.8	Kerberos ログイン・ボックスのヘルプの問題	3-15
3.3.9	省略時の X 権限ファイルにおけるクッキーの生成	3-15
3.3.10	アクセス制御の有効化と無効化	3-16
3.4	デスクトップ管理	3-16
3.4.1	DECW\$EXAMPLES グローバル・シンボル移動時の DECW\$UTILS グローバル・シンボルの定義	3-16
3.4.2	DECwindows ログイン画面の色に関する問題点	3-17

3.4.3	カスタマイズしたログイン・ロゴの表示 .....	3-18
3.5	フォントとキーマップの管理 .....	3-18
3.5.1	ユーロ通貨記号の制限 .....	3-19
3.5.2	Mode_switch がオンの場合にマウスでウィンドウをグラフできない問題 .....	3-19
3.5.3	特定のキーマップでの性能の問題 .....	3-20
3.6	プロキシ・サーバの管理 .....	3-22
3.6.1	LBX プロキシ・サーバがあると一部のアプリケーションの信頼性がなくなる問題 .....	3-22
3.6.2	プロキシ・マネージャ・プロセスが自動的に再起動しない問題 .....	3-23
3.6.3	プロキシ・マネージャ構成ファイルの制限事項 .....	3-24
3.7	Xディスプレイ・サーバの管理 .....	3-24
3.7.1	サポートされていないサーバ拡張の組み合わせ .....	3-24
3.7.2	XINERAMA を使用した垂直マルチヘッド構成で XMAG を実行しているときに余分な文字が表示される問題 .....	3-24
3.7.3	XINERAMA を使用したマルチヘッド構成でカスケード・メニューが誤った位置に表示される問題 .....	3-25
3.7.4	XINERAMA の 3D モードでのサポート .....	3-25
<b>4</b>	<b>プログラミングに関するリリース・ノート</b>	
4.1	一般的なプログラミング .....	4-1
4.1.1	OSF/Motif ツールキットのサポートと互換性 .....	4-1
4.1.2	ランタイムおよびプログラミング環境 .....	4-2
4.1.3	スタック要件の増加 .....	4-3
4.1.4	ICE, プロキシ・マネージャ, および LBX サーバ・プロセスに必要な特権 .....	4-4
4.1.5	Display PostScript のサポート終了 .....	4-4
4.1.5.1	DECwindows Motif アプリケーションへの影響 .....	4-5
4.1.5.2	Java アプリケーションへの影響 .....	4-6
4.1.6	DECWSINCLUDE:INTRINSIC.H ファイル使用上の問題 .....	4-7
4.1.7	DECWSWML_TOKENS.DAT を現在のディレクトリで検索する DECWSWML.EXE .....	4-7
4.1.8	_Xm ルーチンの使用 .....	4-8
4.1.9	Fortran で記述したアプリケーションのコンパイル .....	4-8
4.1.10	C で作成したアプリケーションのコンパイル .....	4-9
4.2	トランスポート・プログラミング .....	4-10
4.2.1	ローカル・エリア・トランスポート (LAT) とユーザ作成トランスポートが V1.3 環境ではサポートされない問題 .....	4-10

4.3	X Window System ライブラリ (Xlib) . . . . .	4-11
4.3.1	廃止されたエントリ・ポイントと変更されたエントリ・ポイント . . . . .	4-11
4.3.2	XConnectionNumber と ConnectionNumber の意味の変更 . . . . .	4-12
4.3.3	OpenVMS システムでのロケールのサポート . . . . .	4-13
4.3.4	XSelectAsyncEvent ルーチンと XSelectAsyncInput ルーチン . . . . .	4-14
4.3.5	コマンド・プロシージャが.PEN ファイルを作成 . . . . .	4-14
4.3.6	パラメータ/プロトコルのデータ・サイズの不適合 . . . . .	4-15
4.4	X Window System ツールキット (Xt) . . . . .	4-16
4.4.1	複合クラス拡張レコードの実行時警告 . . . . .	4-16
4.4.2	XtOpenDisplay ルーチンと大文字/小文字の区別 . . . . .	4-16
4.5	X Window System の拡張とプロトコル . . . . .	4-17
4.5.1	EVI 拡張とカラーマップの競合 . . . . .	4-17
4.5.2	Dead Mouse のサポート . . . . .	4-17
4.5.3	AccessX 拡張のサポート終了 . . . . .	4-17
4.5.4	セキュリティおよびアプリケーション・グループの拡張でグループがチェックされない問題 . . . . .	4-18
4.5.5	オープン中の ICE 接続からの watch プロシージャの削除 . . . . .	4-18
4.5.6	ICE 使用時の BAD_LOCAL_NODE エラー . . . . .	4-18
4.5.7	SmsGenerateClientId が ID を生成しない . . . . .	4-19
4.5.8	拡張 include ファイルの使用法 . . . . .	4-19
4.6	X Window System 国際化ライブラリ (XNL) . . . . .	4-19
4.6.1	xnl_parsedatetime . . . . .	4-19
4.6.2	xnl_langinfo . . . . .	4-20
4.7	Motif に対する DECwindows 拡張 (DXm) . . . . .	4-20
4.7.1	DXmNlayoutDirection リソース定数リストの訂正 . . . . .	4-20
4.7.2	DXmFormSpaceButtonsEqually の制限 . . . . .	4-21
4.7.3	水平方向のライブ・スクロールをサポートしていない SVN ウィジェット . . . . .	4-21
4.8	アプリケーション・プログラミング . . . . .	4-22
4.8.1	CDA ビューアのプログラミング . . . . .	4-22
4.8.1.1	SYSSLIBRARY:DDIF\$VIEWSHR.EXE のイメージ ident の修正 . . . . .	4-22
4.8.1.2	スタイル・ガイドのフォールバックのメッセージ . . . . .	4-22
4.8.1.3	CONVERT コマンドでの論理名の使用 . . . . .	4-23
4.8.2	漢字端末エミュレータ・プログラミング . . . . .	4-23
4.8.2.1	DECCRA シーケンス . . . . .	4-24
4.8.2.2	DECLFKC シーケンス . . . . .	4-24

5	関連ドキュメントに関するリリース・ノート	
5.1	『New Desktop 使用概説書』	5-1
5.1.1	ファイル指定の訂正	5-1
5.2	『DECwindows Motif for OpenVMS Applications Guide』	5-2
5.2.1	ロゴの変更例の訂正	5-2
5.3	『Using DECwindows Motif for OpenVMS』	5-2
5.3.1	[印刷終了]オプションの明確化	5-2
5.3.2	アプリケーション・メニュー項目へのターゲット画面オプションの追加についての例の訂正	5-3
5.4	『DECwindows Motif for OpenVMS Guide to Non-C Bindings』	5-3
5.4.1	GET_CHAR_STRUCT 関数へのアクセスについての訂正	5-3
5.5	『DECwindows Motif Guide to Application Programming』	5-3
5.5.1	OpenVMS DECburger サンプル・アプリケーションの UIL ソース・コードの位置	5-4
5.5.2	Help ウィジェットのドキュメントの訂正	5-4
6	日本語機能に関するリリース・ノート	
6.1	日本語 DECwindows Motif V1.3 の新機能	6-1
6.1.1	X Window System Version 11 Release 6.6 のサポート	6-1
6.1.2	DEC 日本語入力サーバのアップデート	6-1
6.1.3	日本語入力プロトコル	6-2
6.1.4	ja_JP.deckanji2000 ロケールのサポート	6-3
6.1.5	多国語対応	6-3
6.1.5.1	キットの構成	6-3
6.1.5.2	システムのデフォルト言語	6-4
6.2	日本語 DECwindows Motif V1.2-6 の新機能	6-4
6.2.1	日本語 DECwindows Motif キットの PCSI 化	6-4
6.2.2	既知の問題点の解決	6-5
6.3	日本語 DECwindows Motif V1.2-5A の新機能	6-5
6.3.1	日本語ファイル名サポート	6-5
6.4	制限事項	6-7
6.4.1	ノートパッド	6-7
6.4.2	スタイル・マネージャ	6-8
6.4.3	セッション・マネージャ	6-8
6.4.4	CSText ウィジェット	6-8
6.4.5	CSWB (Compaq Secure Web Browser) の日本語入力サポート	6-9
6.4.6	日本語 EVE の DECwindows インタフェース	6-9

6.4.7	日本語ファイル名使用時の制限	6-10
-------	----------------	------

## A OSF/Motif リリース 1.2 リリース・ノート

A.1	性能向上	A-1
A.2	下位の互換性	A-2
A.2.1	表示と動作の面での互換性	A-2
A.3	OSF/Motif リリース 1.2 の変更と新機能	A-3
A.3.1	ツールキットの全般的変更	A-3
A.3.1.1	組み込みファイルの変更	A-3
A.3.2	XT 変換における変更	A-4
A.3.3	ANSI C 準拠	A-5
A.3.4	表示と画面特有のデータ	A-5
A.3.5	ドラッグ・ドロップ	A-5
A.3.6	「ティア・オフ」メニュー	A-5
A.3.7	非依存表示	A-6
A.3.8	他の表示の変更	A-7
A.3.9	フレーム用のタイトル	A-7
A.3.10	警告音	A-7
A.3.11	色の改良	A-8
A.3.12	ベース行の位置合せ	A-8
A.3.13	拡大移動セット	A-8
A.3.14	2次元のメニュー内の移動	A-8
A.3.15	入力フォーカス	A-9
A.3.16	移動アクセス機能	A-9
A.3.17	仮想キー	A-9
A.3.18	リソース管理	A-11
A.3.19	CUA および Windows 準拠の変更	A-11
A.4	特定ウィジェットに関する変更と改善	A-12
A.4.1	XmClipboard	A-12
A.4.2	XmCommand	A-12
A.4.3	XmList	A-13
A.4.4	XmMessageBox	A-14
A.4.5	XmRowColumn とメニュー	A-14
A.4.6	XmScrollBar	A-14
A.4.7	XmScrolledWindow	A-15
A.4.8	XmSelectionBox , XmFileSelectionBox	A-15
A.4.9	XmText	A-15
A.4.10	XmTextField	A-16
A.4.11	XmToggleButton , XmToggleButtonGadget	A-17
A.5	Motif ウィンドウ・マネージャの改良	A-17

A.5.1	MWM に対する変更 .....	A-17
A.5.2	新規または改良された MWM リソース .....	A-18
A.5.3	新規および改良された MWM の諸機能 .....	A-19
A.5.4	MWM の新しい動作 .....	A-20
A.6	ユーザ・インタフェース言語 (UIL) の変更 .....	A-20
<b>B</b>	<b>OSF/Motif ツールキットに関する情報</b>	
B.1	OSF/Motif リリース 1.2.2 と X11R5 またはそれ以降の共有可能ライブラリ .....	B-1
B.2	OSF/Motif リリース 1.1.3 プログラミング・サポートと XUI .....	B-4
B.3	DECwindows OSF/Motif ツールキット .....	B-9
B.3.1	呼び出し可能 OSF/Motif UIL コンパイラ .....	B-10
B.3.2	Motif テキスト・ウィジェットの変換 .....	B-10
B.3.3	上位互換性 .....	B-10
B.3.3.1	Motif ウィジェットと XUI ウィジェットの混合に関する制約 .....	B-11
B.3.4	Motif ヘッダ・ファイルでのコンパイル時の非互換性 .....	B-12
B.4	OSF/Motif のプログラム例 .....	B-13
B.4.1	Cutpaste のプログラム例 .....	B-13
B.4.2	DNDDemo プログラム例 .....	B-13
B.4.3	Dogs プログラム例 .....	B-15
B.4.3.1	dog ウィジェット .....	B-16
B.4.3.2	square ウィジェット .....	B-16
B.4.4	Helloint プログラム例 .....	B-17
B.4.5	Hellomotif プログラム例 .....	B-18
B.4.6	Motifanim プログラム例 .....	B-18
B.4.7	MOTIFGIF および PICT 表示プログラム .....	B-19
B.4.8	Motifshell プログラム例 .....	B-20
B.4.9	Periodic プログラム例 .....	B-21
B.4.10	Textedit プログラム例 .....	B-21
B.4.10.1	追加のトランスレーション .....	B-23
B.4.11	View プログラム例 .....	B-24
B.4.12	Xmpiano プログラム例 .....	B-26
B.4.13	Motif サンプル・プログラム .....	B-28
B.4.14	Xmtravel プログラム例 .....	B-29
B.4.15	プログラム例のリソース・ファイル .....	B-30
B.4.16	プログラム例用 UID ファイル .....	B-31
B.5	OSF/Motif の既知の問題のリスト .....	B-31

## 索引

### 例

3-1	メモリ不足のため表示されるエラー・メッセージ .....	3-5
-----	------------------------------	-----

### 表

1-1	DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧 .....	1-1
2-1	漢字端末エミュレータがサポートする論理名 .....	2-25
3-1	DECwindows Motif のサポート・バージョン .....	3-1
3-2	システム調整用の推奨されるクォータ値 .....	3-8
4-1	16 ビット値としてのみ送出されるルーチンの名前と引数 .....	4-15
B-1	X11R5 またはそれ以降をベースにする共有可能ライブラリの名称 ...	B-2
B-2	OSF/Motif リリース 1.2.2 準拠の共有可能ライブラリ名 .....	B-3
B-3	XUI , Motif 旧バージョンのプログラミング環境用ディレクトリ .....	B-7
B-4	表示メニューのオプション .....	B-21
B-5	Textedit ソース・ファイル .....	B-22
B-6	Motif サンプル・プログラム .....	B-28



---

## まえがき

本リリース・ノートは、HP DECwindows Motif for HP OpenVMS Alpha V1.3 (DECwindows Motif) に関する修正点、既知の問題、および制限事項について説明しています。

また本リリース・ノートでは、DECwindows Motifの以前のバージョンからの問題点で、既存のドキュメントでは改訂されておらず、このソフトウェアにまだ該当する問題点について説明しています。各説明に記載されているラベルは、修正点や問題が最初に発生したときのバージョン番号を示しています。

### 対象読者

本書は、DECwindows Motif ソフトウェアで作業を行う一般ユーザ、システム管理者、プログラマ用の情報を提供するものです。

### 本書の構成

本書には以下の情報が掲載されています。

- 第1章では現在のリリースの概要を説明しています。
- 第2章は一般ユーザを対象としたリリース・ノートです。
- 第3章はシステム管理者を対象としたリリース・ノートです。
- 第4章はアプリケーション・プログラマとシステム・プログラマを対象としたリリース・ノートです。
- 第5章ではDECwindows Motif ドキュメント・キットの訂正事項について説明しています。

- 第 6 章では日本語機能に関する新規機能および制限事項について説明しています。
- 付録 A は OSF/Motif リリース 1.2 を対象としたリリース・ノートです。
- 付録 B は DECwindows OSF/Motif ツールキットを対象としたリリース・ノートです。

## 関連ドキュメント

OpenVMS や DECwindows Motif の製品およびサービスについての詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://openvms.compaq.co.jp>

## 表記法

本書では、OpenVMS は HP OpenVMS Alpha オペレーティング・システムを意味します。

特に指定がないかぎり、OpenVMS Cluster、VMSccluster あるいはクラスタは HP OpenVMS Cluster を意味します。

また、本書では次の表記法も使用しています。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Return</span>	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。

表記法	意味
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文中のオプションの引数が省略されている。</li> <li>• 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。</li> <li>• パラメータや値などの情報をさらに入力できる。</li> </ul>
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
( )	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[ ]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[   ]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 つのオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i> )、コマンド・ライン (たとえば <i>PRODUCER=name</i> )、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i> ) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。

表記法	意味
-	コマンド形式の記述の最後，コマンド・ライン，コード・ラインにおいて，ハイフンは，要求に対する引数とその後の行に続くことを示します。
数字	特に明記しない限り，本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数，8 進数，16 進数) は，その旨を明記してあります。

---

## はじめに

この章では、本リリースにおける修正点、制限事項、および既知の問題について、概要を説明します。表 1-1 に、本リリースで新たに適用されるリリース・ノートの一覧とその参照先を示します。

このリリースで導入された機能や拡張についての詳細は、『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

表 1-1 DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧

タイトル	参照先
OpenVMS ディスプレイ・デバイスとレイヤード・プロダクトのインタフェース	
SET DISPLAY: 誤解を招きやすい SET DISPLAY/REVOKE のエラー・メッセージ	第 2.1.1.1 項
SET DISPLAY: SET DISPLAY/REVOKE 使用時に入出力エラーが表示される問題	第 2.1.1.3 項
SET DISPLAY: SET DISPLAY/REVOKE で X サーバがクラッシュする問題	第 2.1.1.4 項
SET DISPLAY: Kerberos が有効な場合に SET DISPLAY/GENERATE が失敗する問題	第 2.1.1.2 項
SET DISPLAY: 終了時にディスプレイ・デバイスが削除されない問題	第 2.1.1.5 項
デバッガ: OpenVMS デバッガの DECwindows Motif インタフェースが正しく動作しない問題	第 2.1.2.1 項
一般ユーザに関するリリース・ノート	
Web ブラウザのサポート	第 2.2.1 項

(次ページに続く)

表 1-1 (続き) DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧

タイトル	参照先
要求が集中したアプリケーションがクローズ前に一時停止する問題	第 2.2.2 項
New Desktop に関するリリース・ノート	
完全なファイル指定の DTPAD のバナーへの表示	第 2.3.1 項
マルチヘッド・システムでスタイル・マネージャが誤ったセキュリティ・オプションを表示する問題	第 2.3.2 項
アプリケーションに関するリリース・ノート	
CDA: eXcursion V7.1 による色付きの大きな DDIF ファイルの表示	第 2.4.2.1 項
漢字端末エミュレータ: Kerberos が有効な状態で漢字端末エミュレータの起動に失敗する問題	第 2.4.3.1 項
漢字端末エミュレータ: eXcursion 使用時にユーロ通貨記号が正しく表示されない問題	第 2.4.3.2 項
漢字端末エミュレータ: マルチヘッド・システムでウィンドウ・テキストが正しく表示されない問題	第 2.4.3.3 項
漢字端末エミュレータ: ワイルドカードで Agfa Monotype TrueType フォントを指定すると漢字端末エミュレータのロード時にクラッシュが発生する問題	第 2.4.3.4 項
DECwindows Mail: ドロア圧縮操作のアクセス違反に関する問題の解決	第 2.4.5.1 項
ウィンドウ・マネージャ: アイコン・ボックス・タイトルの変更	第 2.4.9.1 項
ウィンドウ・マネージャ: マルチヘッド・システムのすべてのスクリーンでヘルプ・テキストを表示できない問題	第 2.4.9.2 項
ツールとユーティリティに関するリリース・ノート	
xauth: 論理名使用時のファイル・ロックのサポート	第 2.5.1.1 項
xauth: ファイル・タイプなしのファイル名指定時の問題	第 2.5.1.2 項
インストレーションとアップグレードに関するリリース・ノート	
DECwindows Motif のバージョンと互換性	第 3.1.1 項

(次ページに続く)

表 1-1 (続き) DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧

タイトル	参照先
セキュリティと承認に関するリリース・ノート	
セキュリティ・オプション設定時に誤った X 権限ファイルが参照される問題	第 3.3.1 項
Kerberos を有効にしたときに認識できないコードのエラーが表示される	第 3.3.2 項
非トラステッド接続でアプリケーションを実行したときに不正なアトム・エラーが表示される問題	第 3.3.3 項
XINERAMA 拡張と SEC_XAG 拡張が存在すると非トラステッド接続で実行されるアプリケーションが動作しない問題	第 3.3.4 項
非トラステッド・クライアントがサーバのアクセス制御を変更する問題	第 3.3.5 項
Kerberos および TCP/IP がノード名 0 を解釈できない問題	第 3.3.6 項
サーバの X 権限ファイルから Kerberos の設定を初期化する際の DECwindows Motif ログインの使用禁止	第 3.3.7 項
Kerberos ログイン・ボックスのヘルプの問題	第 3.3.8 項
省略時の X 権限ファイルにおけるクッキーの生成	第 3.3.9 項
フォントとキーマップの管理に関するリリース・ノート	
ユーロ通貨記号の制限	第 3.5.1 項
Mode_switch がオンの場合にマウスでウィンドウをグラブできない問題	第 3.5.2 項
プロキシ・サーバの管理に関するリリース・ノート	
LBX プロキシ・サーバがあると一部のアプリケーションの信頼性がなくなる問題	第 3.6.1 項
プロキシ・マネージャ・プロセスが自動的に再起動しない問題	第 3.6.2 項
プロキシ・マネージャ構成ファイルの制限事項	第 3.6.3 項
X ディスプレイ・サーバの管理に関するリリース・ノート	
サポートされていないサーバ拡張の組み合わせ	第 3.7.1 項
XINERAMA を使用した垂直マルチヘッド構成で XMAG を実行しているときに余分な文字が表示される問題	第 3.7.2 項

(次ページに続く)

表 1-1 (続き) DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧

タイトル	参照先
XINERAMA を使用したマルチヘッド構成でカスケード・メニューが誤った位置に表示される問題	第 3.7.3 項
XINERAMA の 3D モードでのサポート	第 3.7.4 項
一般的なプログラミングに関するリリース・ノート	
OSF/Motif ツールキットのサポートと互換性	第 4.1.1 項
ランタイムおよびプログラミング環境	第 4.1.2 項
スタック要件の増加	第 4.1.3 項
ICE, プロキシ・マネージャ, および LBX サーバ・プロセスに必要な特権	第 4.1.4 項
トランスポートのプログラミングに関するリリース・ノート	
ローカル・エリア・トランスポート (LAT) とユーザ作成トランスポートが V1.3 環境ではサポートされない問題	第 4.2.1 項
X Window System ライブラリ (Xlib) に関するリリース・ノート	
廃止されたエントリ・ポイントと変更されたエントリ・ポイント	第 4.3.1 項
XConnectionNumber と ConnectionNumber の意味の変更	第 4.3.2 項
X Window System ツールキット (Xt) に関するリリース・ノート	
複合クラス拡張レコードの実行時警告	第 4.4.1 項
X Window System の拡張とプロトコルに関するリリース・ノート	
EVI: EVI 拡張とカラーマップの競合	第 4.5.1 項
XKB: Dead Mouse のサポート	第 4.5.2 項
XKB: AccessX 拡張のサポート終了	第 4.5.3 項
SECURITY: セキュリティおよびアプリケーション・グループの拡張でグループがチェックされない問題	第 4.5.4 項
ICE: オープン中の ICE 接続からの watch プロシージャの削除	第 4.5.5 項

(次ページに続く)

表 1-1 (続き) DECwindows Motif V1.3 に関連するリリース・ノート一覧

タイトル	参照先
ICE: ICE 使用時の BAD_LOCAL_NODE エラー	第 4.5.6 項
XSMP: SmsGenerateClientId が ID を生成しない	第 4.5.7 項
アプリケーションのプログラミングに関するリリース・ノート	
CDA: SYSSLIBRARY:DDIF\$VIEWSHR.EXE のイメージ ident の修正	第 4.8.1.1 項
日本語機能に関するリリース・ノート	
日本語 DECwindows Motif V1.3 の新機能	第 6.1 節
ノートパッド	第 6.4.1 項
スタイル・マネージャ	第 6.4.2 項
セッション・マネージャ	第 6.4.3 項
CSText ウィジェット	第 6.4.4 項
CSWB (Compaq Secure Web Browser) の日本語入力サポート	第 6.4.5 項
日本語 EVE の DECwindows インタフェース	第 6.4.6 項



---

## 一般ユーザ向けリリース・ノート

この章では、DECwindows Motif V1.3 に関する一般ユーザ向けの情報について説明します。

---

### 2.1 OpenVMS ディスプレイ・デバイスとレイヤード・プロダクトのインタフェース

この節は、OpenVMS ディスプレイ・デバイス (SET DISPLAY) と DECwindows Motif レイヤード・プロダクトのインタフェースに関するリリース・ノートです。

#### 2.1.1 OpenVMS ディスプレイ・デバイス (SET DISPLAY)

この項は、SET DISPLAY コマンドと SHOW DISPLAY コマンドを使用して作成および管理される OpenVMS ディスプレイ・デバイスに関するリリース・ノートです。

##### 2.1.1.1 誤解を招きやすい SET DISPLAY/REVOKE のエラー・メッセージ V1.3

タイムアウトによるクッキーの無効化に関するエラー・メッセージは、誤解を招きやすいものとなっています。このエラー・メッセージ%SYSTEM-F-BADPARAM は、不正なパラメータ値があることを示しています。これはエラーの本質を示すものではありません。

#### 2.1.1.2 Kerberos が有効な場合に SET DISPLAY/GENERATE が失敗する問題 V1.3

Kerberos 認証プロトコルを使用している場合，次のコマンドは機能しません。

```
$ SET DISPLAY/GENERATE=(PROTOCOL=MIT-KERBEROS-5)
```

この問題の回避方法はありません。

#### 2.1.1.3 SET DISPLAY/REVOKE 使用時に入出力エラーが表示される問題 V1.3

SET DISPLAY/REVOKE コマンドを使用して，生成されたトラステッド・クッキーを破棄すると，次のような入出力エラーが発生することがあります。

```
XI0: fatal IO error 65535 (connection aborted) on X server ":0.0"  
      after 10 requests (8 known processed) with 0 events remaining.
```

このエラーは，SET DISPLAY/REVOKE コマンドがサーバへ接続するときに使用していたクッキーが原因で発生します。このクッキーを破棄すると，ディスプレイ・サーバへの接続が中断されます。

このエラーは致命的に見えますが，取り消し操作は実際には正常に完了していません。

#### 2.1.1.4 SET DISPLAY/REVOKE で X サーバがクラッシュする問題 V1.3

次のようなコマンドを実行すると，X サーバがクラッシュする場合があります。

```
$ SET DISPLAY/CREATE/TRANSPORT=DECNET/GENERATE=(TRUSTED)  
$ SET DISPLAY/REVOKE
```

この問題は，DECNET の代わりに TCPIP を指定した場合にも発生します。

この問題を回避するためには，以下のいずれかの操作を行います。

- セキュリティ (SECURITY) およびアプリケーション・グループ (XC-APPGROUP) 拡張を有効にしないでください。

SYSSMANAGER:DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM で、  
DECW\$SERVER\_EXTENSIONS の定義に SEC\_XAG を含めないようにしま  
す。

- LOCAL トランスポートを使用を使用します。

```
$ SET DISPLAY/CREATE/TRANSPORT=LOCAL/GENERATE=(TRUSTED)
```

- SYSSMANAGER:DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM ファイルで  
DECW\$SERVER\_AUDIT\_LEVEL サーバ・パラメータの値を 4 以上に設定し  
て、セキュリティ監視を有効にします。

#### 2.1.1.5 終了時にディスプレイ・デバイスが削除されない問題

##### V1.2

DCL SET DISPLAY コマンドでユーザ・モードのディスプレイ・デバイスを作成  
する際に、DECwindows Motif からログ・アウトしたときに、未使用デバイスが  
削除されないことがあります。SET DISPLAY で作成されたディスプレイ・デバ  
イスは、X クライアント・アプリケーションが使用するまで恒久的デバイスと見な  
されるため、終了時に破壊されません。

この問題を回避するには、スーパーバイザ・モードのディスプレイ・デバイスを作成  
してください。

#### 2.1.2 デバッガ

この項は、OpenVMS デバッガの DECwindows Motif インタフェースに関するリ  
リース・ノートです。

##### 2.1.2.1 OpenVMS デバッガの DECwindows Motif インタフェースが正しく動作し ない問題

##### V1.3

OpenVMS Alpha V7.3-1 デバッガの DECwindows Motif インタフェースは、  
DECwindows Motif V1.3 では正しく機能しません。この問題を修正する、  
OpenVMS Alpha デバッガ用のアップデート・キットが用意されています。この問  
題に対応する TIMA kit for OpenVMS Alpha V7.3-1 の入手については、弊社のカ  
スタマ・サポート担当者にご連絡ください。

### 2.1.3 DECTPU

この項は、DECTPU の DECwindows Motif インタフェースに関するリリース・ノートです。

#### 2.1.3.1 小さなディスプレイ・モニタと DECTPU

*V1.0*

小さなディスプレイ・モニタ上で DECTPU for DECwindows Motif を実行している場合、メイン・ウィンドウが完全には表示されないことがあります。

この状態を解決するには、次の手順に従います。

1. 次のリソースを DECTPU X リソース・ファイルに追加します。

```
Tpu.Tpu$MainWindow.X:          0
Tpu.Tpu$MainWindow.Y:          0
Tpu.Tpu$MainWindow.Rows:       21
Tpu*condensedFont:             on
Tpu*fontSetSelection:          1
```

2. SYSSLIBRARY:EVE.DAT からリソース・ファイルをコピーして、前述の行を追加します。
3. 論理名 TPU\$DEFAULTS を使用して、新しいリソース・ファイルをポイントします。

次の例では、ログイン・ディレクトリ内の `eve_small_window.dat` という名前の X リソース・ファイルを使用して EVE DECwindows Motif ユーザ・インタフェースを起動し、LOGIN.COM ファイルを編集します。

```
$ DEFINE TPU$DEFAULTS SYS$LOGIN:EVE_SMALL_WINDOW.DAT
$ EDIT/TPU/INTER=DECWINDOWS LOGIN.COM
```

---

## 2.2 一般的な DECwindows Motif 環境

この節は、一般的な DECwindows Motif ユーザ環境に関するリリース・ノートです。ここでは、New Desktop 環境と従来の DECwindows Desktop 環境の両方に共通の修正、制限事項、および既知の問題について説明しています。

## 2.2.1 Web ブラウザのサポート

### V1.3

CSWB (Compaq Secure Web Browser) は、OpenVMS Alpha 用に正式にサポートされている Web ブラウザであり、その使用ライセンスは HP OpenVMS オペレーティング・システムのライセンスに含まれます。CSWB は、Mozilla Web ブラウザをベースとしており、標準への準拠、性能、および移植性を考慮して設計されています。

CSWB は、次の OpenVMS Web ページから入手できます。

<http://www.openvms.compaq.com/openvms/products/ips/apache/cswb.html>

このページには、インストール手順と実行手順の他、ハードウェアとソフトウェアの前提条件、システム・パラメータ、アカウント・クォータ、および障害報告に関する情報が掲載されています。

## 2.2.2 要求が集中したアプリケーションがクローズ前に一時停止する問題

### V1.3

ローカル・ネットワーク・コネクション上で動作していて、要求が集中しているアプリケーションがウィンドウ・マネージャによって強制的にクローズされた場合、多少の遅延が発生することがあります。たとえば、DECW\$EXAMPLES:ICO アプリケーションをローカル・ディスプレイからクローズしようとするとき、アプリケーション・ウィンドウがクローズするまでに少し時間がかかります。

この現象は、ウィンドウ・マネージャ (DTWM) とサーバ・プロセスの間のリソースの競合によって発生します。この問題を回避するには、サーバ・プロセス (DECW\$SERVER\_0) のスタートアップ優先順位を 4 に下げます。

### 2.2.3 アプリケーションの競合状態によって X サーバがクラッシュする問題

V1.2-6

マルチヘッド・システムで複数のクライアント・アプリケーション・プロセスを急激にスワップしたり kill したりすると、X サーバのクラッシュが発生する場合があります。サーバへの接続が完了する前にクライアント・アプリケーションを突然停止させると、サーバ・クラッシュの原因となる競合状態が発生することがあります。

この問題を回避するためには、各アプリケーションのサーバ接続の時間を十分確保した後でアプリケーション・プロセスを停止させてください。

### 2.2.4 Display PostScript のサポートの終了

V1.2-6

1998 年 8 月 1 日から、Adobe Display PostScript ソフトウェアはサポートされなくなりました。これは、Adobe Systems 社が Display PostScript のサポートを打ち切ったことに伴う措置です。

この措置により、Adobe Display PostScript ソフトウェアを使用していた DECwindows Motif アプリケーションの動作に及ぼした影響はさまざまです。たとえば、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.2-6 から、ブックリーダーは PostScript フォーマットのグラフィックスを表示することができません。

この措置により個々の DECwindows アプリケーションに及ぼした影響については、次のリリース・ノートを参照してください。

- ブックリーダー — 第 2.4.1.2 項
- CDA — 第 2.4.2.2 項
- DECwindows メール — 第 2.4.5.2 項

DECwindows Motif 環境用に設計されたユーザ作成のアプリケーションやサード・パーティ製のアプリケーションに及ぼすおそれのある影響については、第 4.1.5 項を参照してください。

## 2.2.5 「テア・オフ」メニューのサポートの制限

*V1.2-3*

次のアプリケーションは「テア・オフ」メニューをサポートしていません。

- CDA ビューア
- ノートパッド
- 画面印刷

## 2.2.6 "System Menu Bar: Pseudo Mouse Not Available"のメッセージの意味

*V1.2-3*

"System Menu Bar: Pseudo Mouse not available"は、セッションを実行したときに DECW\$USER\_DEFAULTS:DECW\$SM.LOG ファイルに書き込まれる情報メッセージです。これはエラー・メッセージではありません。このメッセージが書き込まれるのは、OpenVMS セッション・マネージャが、非 OpenVMS サーバに対してリモートで実行されたときです。OpenVMS サーバでは疑似マウス・モードが提供され、矢印キーを使用してマウス・カーソルを動かすことができます。

## 2.2.7 OSF/Motif リリース 1.1.3 に対してリンクされたアプリケーションからの印刷

*V1.2*

プリント・キューを持たないシステム上で印刷を実行しようとしたとき、OSF/Motif リリース 1.1.3 にリンクされているアプリケーションが異常終了することがあります。OSF/Motif リリース 1.1.3 のライブラリにリンクされ、DECwindows

標準の印刷ダイアログ ([印刷ウィジェット]) を使用するレイヤード製品も影響を受けます。

考えられる解決策としては、DECwindows 印刷ダイアログを表示しないようにするか、自分のシステムでプリント・キューを定義するようにします。プリント・ジョブを受け付けるだけであれば、プリント・キューがプリンタに接続されている必要はありません。プリント・キューがプリンタに接続されていないことを意味するキューの名前 (例: NULL\_PRINTER) を指定してください。

---

## 2.3 New Desktop 環境

この節は、New Desktop 環境に関するリリース・ノートです。

### 2.3.1 完全なファイル指定の DTPAD のバナーへの表示

*V1.3*

ファイル・マネージャ (DTFILE) からファイルを選択して、DTPAD でオープンして編集するときに、ウィンドウ・バナーに完全なファイル指定 (ノード、ディスク、ディレクトリ、およびファイル名) が表示されなくなりました。ファイル指定のうち、ファイル名の部分だけが表示されます。

### 2.3.2 マルチヘッド・システムでスタイル・マネージャが誤ったセキュリティ・オプションを表示する問題

*V1.3*

スクリーン 0 以外のスクリーンから、スタイル・マネージャを使用して [スタイル・マネージャ — セキュリティ] ダイアログ・ボックスにアクセスすると、このダイアログ・ボックスに表示される設定が誤っていることがあります。

この現象を回避するには、[スタイル・マネージャ — セキュリティ] ダイアログ・ボックスを必ずスクリーン 0 から表示します。アプリケーション・マネージャから起

動される[デスクトップツール]に含まれている[デフォルト画面の設定]ツールを使用して、スタイル・マネージャを表示するスクリーンを選択します。

この問題は、XINERAMA 無しで構成したマルチヘッド・システムでのみ発生します。XINERAMA の場合、論理スクリーンは 1 つしかありません。

### 2.3.3 ホーム・セッションを設定するとデスクトップ・アプリケーションが消える問題

V1.2-6

スタイル・マネージャで[起動]を選択したのちに[ホームセッションを設定]を選択すると、アプリケーション・マネージャを使用して以前に起動したアプリケーションが消えます。これは、アプリケーション・マネージャでこれらのアプリケーションを起動したのち、ホーム・セッションを設定する前にアプリケーション・マネージャをクローズした場合に起こることがあります。

解決策として、[アプリケーション・マネージャ]ウィンドウをオープンしたままにしておいてください。

### 2.3.4 DTSESSION ログ記録の問題

V1.2-5

ディスクの空き領域がなくなるまで、DTSESSION がログ・ファイルにエラーを記録し続ける場合があります。たとえば、DECW\$DISPLAY を不正な値に設定している場合や CDE\$SYSTEM\_DEFAULTS:[BIN]DTSCREEN.EXE が正常にインストールされていない場合などに、この問題が発生する可能性があります。

New Desktop のセッション・マネージャ (DTSESSION) は、スクリーン・サーバ (DTSCREEN) を起動できない場合、ログ・ファイル *device:[user.DT]ERRORLOG* にエラーを記録します。DTSESSION は、スタイル・マネージャの "ロック画面の切り替え時間" パラメータで指定された間隔でこのエラーを書き込みます。この間隔はユーザによる設定が可能です。

この問題を回避するには、"ロック画面の切り替え時間"パラメータの値を大きくして最大値(120分)にします。あるいは、この問題が発生した場合には、画面をロックする代わりに New Desktop を終了します。

### 2.3.5 拡張ファイル指定でのファイル・マネージャの問題

#### V1.2-5

- [選択/移動]メニュー項目では、大文字と小文字の区別はサポートされません。ファイルは正常に移動されますが、大文字と小文字の区別は保持されません。
- 現在、ファイル・マネージャで特殊文字の入ったファイル名を作成した場合、大文字と小文字の区別はサポートされません。たとえば、"Special^&Characters"は"SPECIAL^&CHARACTERS.;1"に変換されます。
- [選択/ごみ箱に入れる]メニュー項目は、EFS の印の付いた ODS-5 ボリュームには使用できません。この問題は、拡張ファイル名を持つフォルダでのみ発生します。次のようなエラー・メッセージが表示されます。

File Manipulation Error

```
Cannot create "sys$sysroot:[sysmgr.dt.trash]qwertyuiopasdfghjklzxcvbnm-
  QWERTYUIOPASDFGHJKLZXCVBNM.LONG_NAME;1"
The most common cause is that you do not have
the correct permissions for the involved
files or folders.
To view permissions, select the object and
then select "Change Permissions..." from the
Selected or popup menu.
```

これらのファイルは、DCL レベルで削除することができます。

- 拡張ファイル名のファイルまたはフォルダをごみ箱にドラッグすると、エラー・メッセージが表示されます。ODS-2 ボリュームでは、短い名前のファイルまたはフォルダをごみ箱にドラッグした後で、それを復元することができます。ODS-5 ボリュームでは、短い名前のファイルまたはフォルダをごみ箱にドラッグすることはできますが、ODS-5 ボリュームの短い名前のファイルであっても、復元することはできません。これらのファイルは、DCL レベルで削除することができます。

- [ファイル/フォルダの新規作成]メニュー項目では、パス名の長さが 255 文字を超えると、フォルダの新規作成は行えますが、フォルダを画面に表示することはできません (非表示となります)。これらのファイルは、DCL レベルで表示することができます。
- [ファイル/検索/ファイル]メニュー項目では、ダイアログのフォーム・フィールドに完全なファイル名を入力したとき、ファイル名が 235 文字を超えるファイルの検索はできません。この問題を回避するには、ワイルドカードを使用して検索を実行します。
- [選択/ページ]メニュー項目は、EFS (Extended File System) の印の付いた ODS-5 ボリューム上の長いファイル名には使用できません。短いファイル名では、この問題は発生しません。次のようなエラー・メッセージが表示されません。

File Manipulation Error

```
Cannot create "sys$sysroot:[sysmgr.dt.trash]qwertyuiopasdfghjklzxcvbnm-
  QWERTYUIOPASDFGHJKLZXCVBNM.LONG_NAME;1"
```

The most common cause is that you do not have the correct permissions for the involved files or folders.

To view permissions, select the object and then select "Change Permissions..." from the Selected or popup menu.

長いファイル名のファイルでも、DCL レベルではページすることができます。

- [ファイルビュー/コマンド/保護]を呼び出したときに、実際には更新されているにもかかわらず、更新後の保護設定が表示されません。新しい設定を確認するには、DCL コマンドを使用するか、[ファイルビュー/コマンド/ファイル表示]を呼び出してください。

## 2.3.6 DECwrite アイコンで DECwrite プログラムが起動しない

V1.2-5

DECwindows に DECwrite プログラムは含まれていませんが、New Desktop には DECwrite アイコンがあらかじめ用意されています。DECwrite 製品をインストールしていない場合、DECwrite アイコンをクリックすると、次のエラー・メッセージが表示されます。

```
> RCV'D (pid 000000CA): %DCL-W-IVVERB, unrecognized command verb -
                        check validity and spelling
-> RCV'D (pid 000000CA):  \DECWRITE\
-> RCV'D (pid 000000CA):  TESTER      logged out at
29-JUL-1998 17:56:44.63
```

DECwrite 製品をインストールしているにもかかわらずこのエラーが発生する場合は、SYSTARTUP\_VMS.COM 内で DECwrite を起動しているかどうかを確認してください。

### 2.3.7 TPU ウィンドウをオープンしたままでセッションを終了したときの遅延

#### *V1.2-4*

セッション終了時またはホーム・セッション保存時に、DECwindows テキスト・プロセッシング・ユーティリティ (TPU) のウィンドウが表示されるまでに 1 分間の遅延が発生します。

TPU (EVE エディタ) の DECwindows インタフェースは、状態を保存する必要があるかどうかの通知を必要としますが、セッション・マネージャから送信される通知には応答しません。セッション・マネージャは、1 分間だけ応答を待ってから処理を続けます。このために遅延が発生します。

### 2.3.8 dximageview による TIF ファイルの参照

#### *V1.2-4*

dximageview を使用して、CDE\$SYSTEM\_DEFAULTS:[APPCONFIG.HELP.C.GRAPHICS]ディレクトリから TIF フォーマットのファイルを表示しようとした場合、次の警告メッセージが表示されます。

TIFFOpen: Warning, unknown field with tag 34209 (0x85a1) ignored.  
TIFFOpen: XResolution: Rational with zero denominator (num = 200).

このエラーは、CDE\$SYSTEM\_DEFAULTS:[APPCONFIG.HELP.C.GRAPHICS]ディレクトリ内にある TIF ファイルが対象の場合にのみ発生します。これは単なる警告メッセージで、ファイルはイメージ・ビューアによって正しく表示されます。

### 2.3.9 テキスト・エディタの制限事項

#### *V1.2-4*

New Desktop に組み込まれているテキスト・エディタについては、『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』の第 10 章で説明しています。現在、次の問題と制限事項があります。

- テキスト・エディタのリファレンス・ページに、「テキスト・エディタにはクライアント/サーバ機能が備わっている」という説明がありますが、本バージョンのテキスト・エディタは「スタンドアローン」オプションのみをサポートし、クライアント/サーバ・アプリケーションとしては構成されていません。
- 「スペルミスの語を修正するには」の節で説明しているスペルチェック機能は、本バージョンのテキスト・エディタには組み込まれていません。
- New Desktop のテキスト・エディタのベースであるテキスト・ウィジェットは、タブ幅を厳密に 8 文字に設定してはなりません。通常、8 文字よりやや多くなります。スペースとタブの組み合わせでテキストを表示すると、行が縦に揃わなくなることがあります。

### 2.3.10 UNIX 形式で表示されるファイル名

#### *V1.2-4*

アプリケーション・マネージャの[検索]ダイアログ・ボックスおよびヘルプ・ビューアによって報告されるエラー・メッセージは、ファイル名が OpenVMS 標準形式でなく UNIX 形式で表示されます。たとえば、

SYSSYSROOT:[SYSMGR]LOGIN.COM は、/sys\$sysroot/sysmgr/login.com と表示されます。

### 2.3.11 フロントパネルの時計はアイコンのみ

V1.2-4

New Desktop のフロントパネルの時計は、アナログ時計表示でシステムの現時刻を表示するアイコンです。このアイコンにはその他の機能はなく、このアイコンをクリックまたはダブル・クリックしても何も起こりません。

### 2.3.12 ToolTalk アクションの未サポート

V1.2-4

『共通デスクトップ環境: 上級ユーザー及びシステム管理者ガイド』の説明にある、アクション定義ファイル(\*.dt)への ToolTalk アクションの定義は、サポートされていません。本バージョンでインストールされているアクション定義ファイルには、ToolTalk アクションの一部が入っていますが、これらのアクションの変更はサポートされていません。このため、変更した場合には New Desktop の一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

### 2.3.13 セッション・マネージャの保存および復元の制約

V1.2-4

New Desktop に装備されているセッション・マネージャは、ブックリーダー、漢字端末エミュレータ、カレンダーの各 DECwindows Motif アプリケーションについて、WM\_SAVE\_YOURSELF プロトコルをサポートしています。

---

#### 注意

---

このセッション・マネージャ・アプリケーションは、DECwindows Motif V1.3 システムで利用でき、X11R6.6 に組み込まれているセッション・マネージャ・プロトコルとは異なります。

---

このプロトコルを活用するよう作成されたアプリケーションでは、次の処理が可能です。

- ユーザがセッションを終了したときに、その時点の状態を保存
- ユーザが新しいセッションを開始したときに、保存した状態を復元

New Desktop の各アプリケーションは保存および復元機能をサポートしていますが、既存の DECwindows Motif アプリケーションの多くは、WM\_SAVE\_YOURSELF プロトコルをサポートするように変更されていません。

既存のアプリケーションと新しいアプリケーションの違いは、次のようなログインおよびログアウト時に見られます。

- 保存および復元機能をサポートしているアプリケーションでは、ユーザのログアウト時にそのアプリケーションを実行中であれば、メイン・ウィンドウを作成します。
- 保存および復元機能をサポートしていないアプリケーションでは、ログイン時に自動的に再起動されません。

既存の DECwindows Motif アプリケーションであっても、DECwindows 電子メールなど保存および復元機能をサポートしているものがあります。

## 2.3.14 ファイル・マネージャのサーチ・リストの制約

### *V1.2-4*

ファイル・マネージャ・アプリケーションには、New Desktop 環境でのサーチ・リストについて、次のような制約があります。

- サーチ・リストを使用してディレクトリの内容を表示させようとする時、サーチ・リストの最初のディレクトリだけが表示されます。
- 装置名がサーチ・リストになっているディレクトリを表示した場合、指定したファイル名が付いているすべてのファイルが表示され、ユーザはそのファイルがどのディレクトリに入っているか判別することができません。

たとえば、SYSS\$SPECIFIC:[SYSMGR]TOOLS.DIR;1 というファイルと SYSS\$COMMON:[SYSMGR]TOOLS.DIR;1 というファイルが存在しているシステムでは、ユーザが SYSS\$SYSROOT:[SYSMGR]ディレクトリに切り替えると、TOOLS.DIR ファイルを表すアイコンが2つ表示されます。この2つのアイコンのラベルは同一で区別がつかず、どちらかのアイコンをクリックして起こる動作は予測できません。

この問題を回避するには、重複する可能性があるファイルに SYSS\$SPECIFIC:[SYSMGR]または SYSS\$COMMON:[SYSMGR]のように、完全なディレクトリ名を指定するようにしてください。

## 2.3.15 [ログイン]画面と[一時停止]画面のテキスト・フィールドの制限

### V1.2-4

以降の各項では、[ログイン]画面と[一時停止]画面のテキスト・フィールドについて説明します。

#### 2.3.15.1 ユーザ名入力時に認識されない制御文字

New Desktop は、ログイン・ユーザ名のテキスト・フィールドでの制御文字の入力を受け付けません。制御文字を入力しても破棄されます。これに対して、DECwindows のログイン・ユーザ名テキスト・フィールドは、次のキー・シーケンスをサポートしています。

- Ctrl/U, Ctrl/J または F13 (行頭まで削除)
- Ctrl/H または F11 (行頭にカーソル移動)
- Ctrl/E (行末にカーソル移動)

New Desktop は、Ctrl/U をサポートしています。ログインでのパスワード入力時または画面の一時停止の解除時に Ctrl/U を入力すると、その位置までの入力文字がすべて消去されます。

### 2.3.15.2 RETURN キーを使用した[ログイン]テキスト・フィールド間の移動

New Desktop では、[ユーザ名]テキスト・フィールドと[パスワード]テキスト・フィールドは異なるダイアログ・ボックスであるため、[ユーザ名]から[パスワード]のテキスト・フィールドに移動する場合は、RETURN キーを使用します。Tab キーでは、次のテキスト・フィールドにカーソルが移動しません。Tab キーでは、[確認]ボタンが強調表示されるだけです。

### 2.3.15.3 [一時停止]画面でのパスワード入力時の最初の文字の無視

ワークステーションが一時停止しており、[パスワード]ダイアログ・ボックスが表示されていない場合、入力した最初の文字は無視されます。これに対して、DECwindows の[一時停止]画面では、入力した文字はすべて受け付けられます。

New Desktop の使用時には、実際の文字を入力しない Shift などのキーを使用するか、あるいはマウスを使用して[一時停止]ダイアログ・ボックスを再表示させてから、パスワードを入力してください。入力した文字が不明な場合には、Ctrl/U を使用して[パスワード]テキスト・フィールドに入力した文字を消去することができます。

### 2.3.15.4 最初の画面に文字が表示されない

X サーバのフォント・パスに 100 dpi フォントが入っていない場合、ログイン直後の青い最初の画面に「ようこそ」の文字が表示されません。リモートの X サーバにセッションを表示している場合にも、この問題が発生する可能性があります。

## 2.3.16 フォント選択の制約

### *V1.2-4*

New Desktop では、フォント・サイズを選択するダイアログ・ボックスを表示する機能が備わっています。これで設定した新しいフォント・サイズは New Desktop のアプリケーションにのみ適用され、既存の DECwindows Motif のアプリケーションには適用されません。

### 2.3.17 省略時のワークスペースの制約

#### *V1.2-4*

New Desktop では省略時の 4 枚のワークスペースに対して省略時の背景が設定されています。ワークスペースの背景は、スタイル・マネージャの[背景]機能で変更したり、[背景なし]を選択することができます。

[背景なし]を選択すると、デスクトップの背景にアイコンをドラッグしてドロップすることができなくなります。アイコンをドラッグしてボタンを放しても、そのアイコンはファイル・マネージャあるいはアプリケーション・マネージャに戻ってしまいます。

[背景なし]を選択する前に背景にドロップされたアイコンはそのまま残り、正常に機能します。

---

## 2.4 アプリケーション

この節は、個々の DECwindows Motif アプリケーションに関するリリース・ノートです。

### 2.4.1 ブックリーダー

この項は、ブックリーダー・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

#### 2.4.1.1 ライブラリの切り替え時にブックリーダーがハングする

##### *V1.2-6*

OpenVMS Alpha Version 7.3-1 システムで DECwindows Motif Version 1.2-6 以上を実行している場合、セミコロンまたはバージョン番号で終わるライブラリ・ファイル指定を[ライブラリの切り替え]ダイアログ・ボックスの[選択]フィールドに入力すると、ブックリーダーがハングします。

この問題を回避するには、ファイル指定の最後にセミコロンやバージョン番号を指定しないでください。

#### 2.4.1.2 Display PostScript のサポートの終了

*V1.2-6*

DECwindows Motif の現在のバージョンでは Display PostScript がサポートされていないため、ブックリーダーでは、オンライン・マニュアルの PostScript の図の表示がサポートされていません。ブックリーダーが PostScript の図を検出すると、フルサイズの図のウィンドウに大きな "X" を表示するとともに、エラー・メッセージ・ボックスに次のメッセージを表示します。

```
Unable to display PostScript(R) graphic.  
This feature is no longer available.
```

これに対する回避策はありません。

#### 2.4.1.3 マルチバイト文字の制限

*V1.2-4*

マルチバイト文字 (日本語, 中国語, 韓国語またはタイ語) が含まれる文書を印刷するには、DECwindows Motif V1.2-3 for OpenVMS の各国語対応製品で提供されているバージョンのブックリーダーを使用する必要があります。このブックリーダーは、SYSSYSTEM:DECW\$MBOOKREADER.EXE として提供されています。

#### 2.4.1.4 DECW\$BOOKSHELF ファイルへのコメント文字の追加

*V1.2-3*

DECW\$BOOKSHELF ファイルの最終行にコメント文字 (! または #) を追加した場合、予約オペランド・フォルトでブックリーダーは異常終了します。これを避けるために、ファイルの最終行にはコメント文字を追加しないようにしてください。

#### 2.4.2 CDA

この節は、DECwindows Motif の CDA (Compound Document Architecture) ランタイム・サービスおよび CDA ビューア構成要素に関するリリース・ノートです。

#### 2.4.2.1 eXcursion V7.1 による色付きの大きな DDIF ファイルの表示

V1.3

eXcursion X サーバ・セッションから CDA ビューアを実行しているときに、色付きの大きな DDIF ファイルを表示できない場合は、次の手順のいずれかを実行することをお勧めします。

- eXcursion 外にあるローカル・トランスポートまたは DECnet トランスポートを使用する CDA ビューア・セッションから DDIF ファイルを表示する。
- HP PATHWORKS 32 ソフトウェアを、V7.2 またはそれ以降にアップグレードする。このソフトウェアの入手方法については、OpenVMS の Web サイト (<http://www.openvms.compaq.com>) を参照してください。

#### 2.4.2.2 Display PostScript のサポートの終了

V1.2-6

DECwindows Motif の現在のバージョンでは Display PostScript がサポートされていないため、CDA は PostScript ソースの表示をサポートしていません。PostScript オプションは CDA ビューアから削除されています。文字セル・インタフェースの CDA ビューアから PostScript ファイルを表示しようとすると、ビューアは次のようなメッセージを表示します。

```
%CDA-E-UNSUPFMT, unsupported document format.
```

これに対する回避策はありません。

#### 2.4.3 漢字端末エミュレータ

この項は、漢字端末エミュレータのアプリケーションに関するリリース・ノートです。

#### 2.4.3.1 Kerberos が有効な状態で漢字端末エミュレータの起動に失敗する問題 V1.3

Kerberos 認証を使用している場合、漢字端末エミュレータの起動に失敗する場合があります。この問題を回避するためには、SYLOGIN.COM の MODE\_OTHER セクション内で Kerberos を起動するように SYLOGIN.COM を変更します (@SYSS\$MANAGER:KRB\$SYMBOLS.COM)。

#### 2.4.3.2 eXcursion 使用時にユーロ通貨記号が正しく表示されない問題 V1.3

eXcursion と DECwindows Motif でのユーロ記号のサポート方法の違いにより、eXcursion 経由で起動された漢字端末エミュレータ・ウィンドウにはユーロ記号が正しく表示されないことがあります。漢字端末エミュレータは Latin-9 フォントを、同等の Latin-1 フォントに置き換えます。これにより、ユーロ記号の表示で問題が発生します。

フォントの置き換えが起こらないようにするには、eXcursion のフォント・エイリアス・ファイルを、eXcursion のリリース・ノートで説明されているように変更します。このリリース・ノートには、エイリアス・ファイルの編集方法の他、ユーロ通貨記号のサポートに関連するその他の制限事項が説明されています。

#### 2.4.3.3 マルチヘッド・システムでウィンドウ・テキストが正しく表示されない問題 V1.3

XINERAMA 拡張と Powerstorm 4d20 グラフィック・カードを使用するマルチヘッド構成では、漢字端末エミュレータ・ウィンドウにテキストが正しく表示されないことがあります。ただしそれでも、キーボード入力は処理されます。

各ウィンドウ内で XREFRESH ユーティリティを実行して漢字端末エミュレータの再表示を行うことにより、正しく表示できるようになります。XREFRESH は次のようにして実行できます。

```
$ RUN DECW$UTILS:XREFRESH
```

#### 2.4.3.4 ワイルドカードで Agfa Monotype TrueType フォントを指定すると漢字端末エミュレータのロード時にクラッシュが発生する問題

V1.3

ワイルドカードを使用して Agfa Monotype TrueType フォント (DECterm フォントなど) を指定しようとする、漢字端末エミュレータがクラッシュします。この問題を回避するためには、ワイルドカードを使用せず、フォントの X Logical Font Description (XLFD) 名 (『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照) を使用してフォント指定を行ってください。

#### 2.4.3.5 漢字端末エミュレータ・ウィンドウが縮む問題

V1.2-5

XUI ウィンドウ・マネージャの使用時に、[端末の自動サイズ変更]をオンにしているときに、マウスを使用して漢字端末エミュレータ・ウィンドウをサイズ変更すると、漢字端末エミュレータ・ウィンドウが縮んでしまいます。この問題を回避するには、漢字端末エミュレータのリソース・ファイル `DECW$TERMINAL_DEFAULT.DAT` あるいは `DECW$TERMINAL_DEFAULT_JA_JP.DAT` ファイルに次の行を追加します。

```
DECW$TERMINAL.main.terminal.useWMHints: false
```

この変更を行うと、ウィンドウ・マネージャが文字数でなくピクセル値で漢字端末エミュレータ・ウィンドウのサイズを表示するようになることに注意してください。また、漢字端末エミュレータ・ウィンドウを最大化すると、正常に元のサイズに戻らない場合があるかもしれませんが、縮んでしまうことはなくなります。

#### 2.4.3.6 漢字端末エミュレータのリソース・ファイル名

V1.2-4

現在は、ディスプレイのロケールを使用して、漢字端末エミュレータのリソース・ファイル名を作成します。たとえば、ロケールが「`ja_JP`」に設定されている場合は、デフォルトのリソース・ファイル名は `DECW$TERMINAL_DEFAULT_JA_JP.DAT` になります。

ただし、ユーザが特定のロケールで1回以上「保存」オプションを選択するまで、漢字端末エミュレータでは古いリソース・ファイル名を使用します。漢字端末エミュレータのデフォルトのリソース・ファイル名はロケールが次のいずれかに該当する場合、継続してDECW\$TERMINAL\_DEFAULT.DATとなります。

- "C"の場合
- "en\_US"で始まる場合
- "8859-1"が入っている場合

#### 2.4.3.7 漢字端末エミュレータのウィンドウ数の上限

V1.2-4

漢字端末エミュレータのコントローラは、漢字端末エミュレータのウィンドウを最高23枚まで作成できます。これは、使用する各ウィンドウについてイベント・フラグ1個が必要で、漢字端末エミュレータは23個までイベント・フラグを使用できるためです。イベント・フラグ0とイベント・フラグ24～32は、漢字端末エミュレータでは使用することができません。

ウィンドウを24枚以上必要とする場合は、新しいコントローラを作成する必要があります。新しいコントローラを作成するには、次のコマンドを入力してください。

```
$ MCR DECW$TERMINAL
```

このコマンドは最後のウィンドウが閉じるまで戻らないため、このコマンドを実行するウィンドウはこれ以外の用途には使用できないことに注意してください。この方法でコントローラを起動した後は、DCLコマンドのCREATE/TERMINALで新たに23枚のウィンドウを作成することができます。

#### 2.4.3.8 端末のサイズ変更

V1.2-3

[端末ウィンドウの自動サイズ変更]オプションを有効にして漢字端末エミュレータ・ウィンドウを最大化すると、最も近いセル境界までウィンドウが拡大しますが、必ずしも全画面に拡大されるわけではありません。[元のサイズに戻す]オプションの機能は従来どおりです。

#### 2.4.3.9 漢字端末エミュレータ・ウィンドウ・サイズの報告

V1.2-3

ウィンドウ・マネージャの[ワークスペース・オプション]ダイアログ・ボックスで[フィードバックを表示]オプションを有効にして、漢字端末エミュレータ・ウィンドウのサイズを変更すると、ピクセル値ではなく文字数でウィンドウ・サイズが報告されます。

#### 2.4.3.10 オート・リピート設定の変更

V1.2-3

漢字端末エミュレータの[キーボード・オプション]ダイアログ・ボックスでは、[オート・リピート]設定を変更することはできません。設定を変更する場合は、セッション・マネージャ (従来の DECwindows Desktop) あるいはスタイル・マネージャ (New Desktop) の[キーボード]ダイアログ・ボックスを使用してください。

#### 2.4.3.11 漢字端末エミュレータ・ウィンドウの配置

V1.2-3

DECW\$TERMINAL.x と DECW\$TERMINAL.y リソースで指定されている場所に、漢字端末エミュレータ・ウィンドウが表示されないことがあります。従来の DECwindows Desktop では、Mwm\*clientAutoPlace リソースに True が設定されている場合、漢字端末エミュレータ・ウィンドウが誤った位置に表示されます。回避策としては、このリソースに False を設定して、MWM を再起動してください。

New Desktop のワークスペース・マネージャ DTWM を使用している場合は、対応するリソースは Dtwm\*clientAutoPlace です。このリソースに False を設定して、ワークスペース・マネージャを再起動してください。

#### 2.4.3.12 著作権についての注意書きの表示のタイムアウト

V1.2-3

著作権についての注意書きは、端末に表示されてから 10 秒間キーボードまたはマウスの操作がないと、漢字端末エミュレータの画面から消えます。

### 2.4.3.13 フォントの選択

#### V1.2

漢字端末エミュレータでは、正しく動作しないフォントもあります。漢字端末エミュレータは文字セル端末をエミュレートしているため、フォントは各文字間隔が同数のピクセルで構成されている等幅のフォントであることを前提にしています。このため、プロポーションアル・フォントを選択することもできますが、その結果を保証することはできません。

さらに、漢字端末エミュレータのフォントは 26 種の関連するフォント・ファミリーとして提供されます。この中には太字、横倍画、縦横倍画、通常、縮小等の種類があります。また、漢字端末エミュレータには、線画文字および弊社技術文字セットなどの特殊文字が含まれています。漢字端末エミュレータのフォント・ファミリーは、フォント名の表記法によって識別されます。

関連するすべてのフォント・ファミリー変形文字を持たないフォント、必要な特殊文字を含まないフォント、漢字端末エミュレータのフォント・ファミリーの表記法に従わないフォント・ファミリーでは、表示その他の面で望まれる結果が期待できない場合があります。

### 2.4.3.14 漢字端末エミュレータの論理名のサポート

#### V1.1

表 2-1 には、漢字端末エミュレータがサポートする論理名が記載されています。これらの論理名が LOGIN.COM ファイルで定義されていない場合、コントロールは省略時の値を使用します。

表 2-1 漢字端末エミュレータがサポートする論理名

論理名	説明
DECTERM_DIAG	診断メッセージを可能にします。
DECTERM_SHOW_PARSING	構文解析どおりに文字を表示します。

(次ページに続く)

表 2-1 (続き) 漢字端末エミュレータがサポートする論理名

論理名	説明
DECW\$DECTERM_OUTPUT	診断出力ファイル名。省略時は SYSS\$OUTPUT。
DECW\$DECTERM_REGIS_CURSOR	ReGIS に使用するカーソルを指定します。
DECW\$TERMINAL_NODENAME	コントローラが別の名前を見つけれないときに使用するノード名。
DECW\$DECTERM_CTRL_SSRWAIT	コントローラ用の SSRWAIT フラグに 1 を設定します。
DECW\$DECTERM_CTRL_PSWAPM	コントローラ用の PSWAPM フラグに 1 を設定します。
DECW\$DECTERM_CTRL_WSEXTENT	コントローラ用に WSEXTENT クォータを設定します。
DECW\$DECTERM_CTRL_WSQUOTA	コントローラ用に WSQUOTA クォータを設定します。
DECW\$DECTERM_DISABLE_QUOTA_CHECKING	クォータ・チェックをオフにします。
DECW\$DECTERM_MEM_DIAG	コントローラのクォータ計算を表示します。

#### 2.4.3.15 接続されたプリンタへの印刷

##### *VI.1*

ポート装置への画面印刷サービスを使用するには、そのポート装置に対する読み込みおよび書き込み特権が必要です。コントローラが装置に対するアクセスを必要とするため、装置を割り当てただけでは画面印刷を行うことはできません。その装置を WORLD:RW に設定してください。

たとえば、VAX 3100 のプリンタ・ポートを使用する場合は、特権アカウントから次のコマンドを入力するか、システム・スタートアップ・ファイルに含めておかなければなりません。

```
$ SET PROTECTION=WORLD:RW TTA3:/DEVICE
```

#### 2.4.3.16 画面ホールドの応答時間の改善

##### *VI.1*

画面ホールド・キーの応答時間が遅すぎる場合には、使用している `DECW$TERMINAL_DEFAULT.DAT` あるいは `DECW$TERMINAL_DEFAULT_JA_JP.DAT` ファイルに次の行を追加します。

```
DECW$TERMINAL.main.terminal.syncFrequency: 1  
DECW$TERMINAL.main.terminal.batchScrollCount: 1
```

これらのリソースの使用によって、漢字端末エミュレータ・ウィンドウの性能が影響を受ける場合があります。影響の度合いはサイトによって異なります。スクロールの速度を犠牲にして画面ホールドの反応時間を向上することができます。画面ホールドの反応速度を速めると、スクロールの速度は遅くなります。省略時には、これらのリソースは、それぞれ 10 と 0 に設定されています。

#### 2.4.3.17 漢字端末エミュレータのグラフィックス

##### *VI.1*

次は、漢字端末エミュレータのグラフィックスに固有の情報です。

- 状況により、漢字端末エミュレータで専用のカラーマップが作成される場合があります。ウィンドウに ReGIS またはシクセル・グラフィックスが表示され、省略時のカラーマップから十分なカラー数をそれらに割り当てることができない場合、この専用のカラーマップが作成されます。結果的に、漢字端末エミュレータ・ウィンドウが入力フォーカスを持つと、全ワークステーション用のカラーマップが変更されます。省略時のカラーマップは、4 プレーン・システムまたはモノクロ・システムでは 4 色であり、4 プレーンより上のカラー・システムでは 16 色です。

漢字端末エミュレータ・ウィンドウを省略時のカラーマップに戻すには、[コマンド]メニューから [画面消去] を選択してそのウィンドウを消去し、さらに [コマンド]メニューから [端末リセット] を選択して端末をリセットしてください。

- 漢字端末エミュレータが専用のカラーマップを使用中に作成されたダイアログ・ボックスはどれも黒く見えます。これを防ぐには、漢字端末エミュレータが省略時のカラーマップを使用している時にダイアログ・ボックスを作成 (つまり、初めての作成) してください。

- グラフィックス・バッキング・ストアには、グラフィックスしか書き込めず、テキストは書き込めません。ウィンドウの一部を漢字端末エミュレータに描き直す必要があった場合、まず最初にそのウィンドウのグラフィックス部分が描かれ、続いてその上にテキストが重ね書きされます。結果的に、最初の表示と同一にはなりません。
- ReGIS は、正確に 24 行 × 80 桁のウィンドウではないウィンドウを指定します。したがって、テキストとグラフィックスの関係は、VT330 または VT340 の状態と必ずしも一致しません。
- ReGIS の次の機能は使用できません。
  - コマンド表示モード
  - スクロールリング
  - 出力カーソル

#### 2.4.3.18 漢字端末エミュレータのリソース使用

##### VI.1

システムのリソースおよびクォータに許可された数よりも多くの端末ウィンドウを作成することはできません。前バージョンの漢字端末エミュレータでは、クォータを超えた場合に漢字端末エミュレータのコントローラ・プロセスがクラッシュし、すべての漢字端末エミュレータ・ウィンドウが消えてしまいました。本バージョンでは、リソースが不足した場合は、ダイアログ・ボックスが表示されて、これ以上は漢字端末エミュレータ・ウィンドウを増やせないことを示すメッセージが通知されます。

各漢字端末エミュレータ・ウィンドウのメモリ要求を減らして、新しい端末ウィンドウを作成するには、[表示]ダイアログ・ボックスの[保存行]の数を減らし、各漢字端末エミュレータ・ウィンドウの桁数を減らしてください。

リソースの上限に達した場合は、一旦ホスト・システム上で実行しているすべての漢字端末エミュレータ・ウィンドウからログ・アウトしないかぎり、端末ウィンドウの数を増やすことはできません。

### 2.4.3.19 診断クラッシュ・ファイルおよびメッセージ

#### VI.1

致命的な重大度レベルの状態コードが返されると、漢字端末エミュレータは診断ファイルを作成します。漢字端末エミュレータが異常終了した場合は、ファイル DECTERM\_ERROR.LOG がログイン・ディレクトリに作成されます。漢字端末エミュレータに問題が発生した場合は、弊社のサービス担当者にログ・ファイルのコピーを提出してください。問題がなくてもログ・ファイルが作成される場合があるので、ログ・ファイルが作成されたからといって問題が発生しているとはかぎりません。したがって、ログ・ファイルだけが単独で作成された場合は、問題が生じたとはいえません。

DECTERM\_DIAG という論理名またはシンボルを定義することによって、追加レベルの診断メッセージを使用することができます。これを定義した場合、拡張された診断メッセージが漢字端末エミュレータによって表示されます。このモードは問題の診断にのみ使用してください。このモードでは、セッション・マネージャから新しい漢字端末エミュレータを作成するたびに、セッション・マネージャのメッセージ・ウィンドウが作成されます。

論理名 DECWS\$DECTERM\_OUTPUT をファイルを指すように定義して、通常の漢字端末エミュレータ診断を有効にすることもできます。

### 2.4.3.20 デバッガの使用

#### VI.0

デバッガからの出力を漢字端末エミュレータ・ウィンドウにリダイレクトするには、次のコマンドを入力します。

```
$ CREATE/TERMINAL/NOPROCESS/DEFINE=xxx
```

このコマンドが生成する漢字端末エミュレータには対応するプロセスはありませんが、端末を指す論理名 "xxx" があります。この手法によって、アプリケーションを実行していない別の漢字端末エミュレータに出力をリダイレクトすることが可能となります。出力をリダイレクトするには次のコマンドを入力します。

```
$ DEFINE /USER DBG$INPUT xxx:
$ DEFINE /USER DBG$OUTPUT xxx:
$ RUN /DEBUG application.EXE
```

#### 2.4.3.21 仮想端末のサポート

*V1.0*

仮想端末を使用するプロセスを作成するには、次のコマンドを入力します。

```
$ CREATE/TERMINAL/NOPROCESS
```

続いて新しく作成した DECterm にフォーカスを設定し、Return キーを押してロケインします。/DEFINE 修飾子は必要でないことに注意してください。

#### 2.4.3.22 VT330 および VT340 端末エミュレータの制限事項

*V1.0*

漢字端末エミュレータには、ReGIS およびシクセル・グラフィックスなどの VT330 および VT340 シリーズ・ビデオ端末の機能のいくつかが組み込まれました。しかし、漢字端末エミュレータは、完全な VT330 および VT340 端末エミュレーション機能を提供するものではありません。

漢字端末エミュレータには次の制限があります。

- ユーザ読み込み可能文字 (DRCS:User loadable characters)、ローカル・モードおよび制御表現モードの機能はありません。
- チェッカー盤文字 (弊社の特殊グラフィックス文字セットの文字 97) が、逆疑問符の代わりにエラー文字として使用されます。
- 漢字端末エミュレータは、8 プレーン以下のサーバでのシクセル描画の省略時の設定として、置換モードを使用します。8 プレーンよりも多くのプレーンを持つサーバでは置換モードは機能せず、漢字端末エミュレータは上書きモードを使用します。

### 2.4.3.23 CREATE/TERMINAL/DETACHED/PROCESS の使用

#### V1.0

ユーザ名と同一のプロセス名を持つプロセスがシステム上で実行されている場合を除き、修飾子/PROCESS=*procnam*は、修飾子/DETACHED とともに使用すると正常に機能しません。

この問題を避けるには、次のコマンド・プロシージャを使用してください。

```
$! CREATE_TERM_PROC.COM
$!
$! Invoke as SPAWN/NOWAIT @CREATE_TERM_PROC procname
$!
$ SET NOON
$!
$! Set Process name to username
$!
$ X = F$CONTEXT("PROCESS", PID, "PRCNAM", "'F$PROCESS()'", "EQL")
$ NAME = F$EDIT(F$GETJPI(X, "USERNAME"), "COLLAPSE")
$ SET PROCESS/NAME="'NAME'"
$ CREATE/TERMINAL/DETACHED/PROCESS="'P1'"
$!
$! Allow new process to RUN LOGINOUT before exiting subprocess
$ WAIT 00:00:10
```

修飾子/PROCESS=*procnam*にすでに使用されているプロセス名を指定した場合、漢字端末エミュレータは作成されますが、漢字端末エミュレータ内部のプロセス作成に失敗します。この場合、DCL コマンドの CREATE/TERMINAL から次のエラー・メッセージが通知されます。

```
%SYSTEM-F-DUPLNAM, duplicate name
```

### 2.4.3.24 ReGIS ロケータ・レポート

#### V1.0

漢字端末エミュレータが R(P(I)) コマンドに応じて、あるいは複数の入力モードで ReGIS ロケータ・レポートを送信し、そのロケータ位置がアドレス可能な領域を外れていた場合、漢字端末エミュレータは座標を省略してロケータ・レポートを送信します。たとえば、A キーを押すと次のレポートを生成します。

A[]<CR>, where <CR> is a carriage return (ASCII code 13).

## 2.4.4 DECwindows CD プレーヤ

この項は、DECwindows CD プレーヤ・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

### 2.4.4.1 必要な特権

*V1.1*

DECWSEXAMPLES ディレクトリの DECwindows CD プレーヤ (DECWSCDPLAYER) アプリケーションでは、PHY\_IO および DIAGNOSE 特権がないと、CD プレーヤのハードウェアを動作させることはできません。ユーザのプロセスまたはイメージのいずれかにこれらの特権が必要です。

## 2.4.5 電子メール

この項は、電子メール・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

### 2.4.5.1 ドロア圧縮操作のアクセス違反に関する問題の解決

*V1.3*

電子メールの "ドロアの圧縮" 操作がアップデートされ、アクセス違反にならなくなりました。

### 2.4.5.2 Display PostScript のサポートの終了

*V1.2-6*

DECwindows Motif の現在のバージョンでは Display PostScript がサポートされていないため、電子メールでは PostScript コードのみのメッセージの表示をサポートしていません。電子メールの以前のバージョンでは、PostScript を含むメール・メッセージがあることを検出すると、Display PostScript を使用してそのメッセージを表示していました。

現在では、電子メールで PostScript コードのみのメッセージを検出すると、次のエラー・メッセージを表示します。

[This PostScript@ message cannot currently be displayed.]

回避策としては、[ファイル]メニューで[Extract]オプションを使用し、([Extract]ダイアログ・ボックスで[Include Header Information]の選択を解除して)、取り出したファイルをプリントします。

#### 2.4.5.3 ディレクトリ・ウィンドウからのメッセージのペースト

*V1.2-4*

電子メールでは、ユーザが MB1 を使用してディレクトリ・ウィンドウで 1 つ以上のメッセージを選択してから、漢字端末エミュレータなどの別のウィンドウで MB2 をクリックすると、選択したメッセージ全部がこの別のウィンドウにペーストされます。選択したメッセージはディレクトリ・ウィンドウでは反転表示されていますが、別のウィンドウにペーストされたテキストは反転表示になりません。

#### 2.4.5.4 キーボード操作への応答

*V1.2-3*

OSF/Motif スタイル・ガイドへの適合性をさらに高めるために DECwindows Mail アプリケーションが拡張されたことで、キーボード操作に対するアプリケーションの応答の一部が変更されました。次の変更点に注意してください。

[作成/送信]ウィンドウで Tab キーを使用してテキスト入力ボックス間を移動する場合、カレント・フィールドが強調表示されなくなりました。フィールドを選択するには、MB1 のダブル・クリックまたはトリプル・クリック、Shift+Alt -> キー・シーケンスなど標準的な Motif 操作アクションのいずれかを使用してください。

いくつかのダイアログ・ボックスでは、Select キーまたはスペース・バーのいずれかを押すことで、キーボードからプッシュ・ボタンをアクティブにすることができます。Return キーと Enter キーはダイアログ・ボックス内のほかのウィジェットにバインドされています。従来どおり MB1 をクリックしてプッシュ・ボタンをアクティブにする方法もあります。

#### 2.4.5.5 電子メールでカラー・カスタマイザを使用する

V1.2

DECWSEXAMPLES ディレクトリに入っているカラー・カスタマイザのサンプル・プログラムを使用して DECwindows メールの色を調節する場合、色の変更に使用する DECwindows メール[カラー設定]ダイアログ・ボックスが、現在のカラー値を正しく反映しないことがあります。これは正常な動作です。これらの値の変更には、DECwindows メール[カラー設定]ダイアログ・ボックスではなく、カラー・カスタマイザを使用してください。別の方法としては、カラー・カスタマイザを終了して、DECwindows メールを再起動します。

#### 2.4.6 ノートパッド

この項は、ノートパッド・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

##### 2.4.6.1 ノートパッドと OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットとのリンク

V1.2-3

ノートパッド・アプリケーションは、OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットとリンクされています。DECwindows Motif V1.3 製品で提供される OSF/Motif リリース 1.2.3 ツールキットとのリンク用には修正されていません。次の制限があります。

- OSF/Motif リリース 1.2 のドラッグ・ドロップ機能は、サポートされていません。解決策として、標準クリップボード操作 (カット、コピー、ペースト) を使用して、テキストをノートパッドに移動してください。
- OSF/Motif リリース 1.2 の「テア・オフ」メニューはサポートされていません。

#### 2.4.7 ペイント

この項は、ペイント・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

#### 2.4.7.1 個人のカラーマップ

##### *V1.1*

カラー・イメージを表示および編集するためのカラーマップ・エントリがワークステーションに不足している場合は、個人のカラーマップが作成されます。この場合、ペイント・イメージの本来の色は保持されますが、ワークステーションの残りの色は変更されてしまいます。色を元の状態に戻すには、別のウィンドウをクリックして、入力フォーカスを別のウィンドウに移動してください。

#### 2.4.7.2 特定のペイント操作の性能が遅い

##### *V1.0*

GPX システムの場合、ブラシ・ストロークを描くなどの簡単な基本操作でも処理に時間がかかることがあります。この理由は、オブジェクトを描くときにピクスマップがピクスマップ・メモリにスワップされるからです。ペイントの処理に時間がかかる場合は、鉛筆ツールをクリックし、鉛筆でイメージ領域に点を描きます。こうすれば、最初に鉛筆をクリックした後の性能が向上します。

イメージ (特にカラー・イメージ) を編集するとき、[オプション]メニューから[絵のサイズ...]項目を選択することによって、イメージ領域のサイズを変更することができます。サイズを小さくすると、イメージ領域に必要なピクスマップ・メモリ量が減ります。

#### 2.4.8 セッション・マネージャ

この項は、セッション・マネージャ・アプリケーションに関するリリース・ノートです。

##### 2.4.8.1 [ユーザの構成]への、予約文字を含むノード名の指定

##### *V1.2*

X サーバにアクセスできるユーザのリストを[ユーザの構成]ダイアログ・ボックスに指定するとき、ノード名に次のいずれかの文字が入っている場合は、引用符で囲んでください。

- 予約文字: スペース, タブ, コンマ (,), 二重引用符 (")

- コロン 2 つ (::)
- ノード名の最後の文字としてのコロン (:)

セッション・マネージャは、ノード名が二重引用符で始まらない場合、必要であればノード名に自動的に引用符を付加します。ノード名が二重引用符で始まっている場合、セッション・マネージャは、ユーザが既にそのノード名に引用符を付けているものと見なして変更を行いません。

引用符に囲まれた文字列の中の二重引用符は、2 つの二重引用符 (") に置き換えてください。たとえば、DEC:.zko."my node" という文字列は次のように変更します。

```
("DEC:.zko.""my node""").
```

#### 2.4.8.2 セッション・マネージャでのカラー・カスタマイザの使用

##### VI.2

DECWSEXAMPLES ディレクトリに入っているカラー・カスタマイザのサンプル・プログラムを使用して、セッション・マネージャの色を調節する場合、色の変更を使用するセッション・マネージャの[色設定]ダイアログ・ボックスが、現在のカラー値を正しく反映しないことがあります。これは正常な動作です。これらの値の変更には、セッション・マネージャ[色設定]ダイアログ・ボックスではなく、カラー・カスタマイザを使用してください。別の方法としては、カラー・カスタマイザを終了してセッション・マネージャを再起動します。カラー・カスタマイザについての詳細は、『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

#### 2.4.8.3 省略時に生成される独立プロセスがあるために他のアプリケーションが開けないことがある

##### VI.1

ファイルビューおよびセッション・マネージャによって生成されるアプリケーションは独立プロセスとなります。

これは、SYSSMANAGER:SYLOGIN.COM および SYSSLOGIN:LOGIN.COM コマンド・プロシージャがアプリケーション起動時に実行されることと密接な関係があります。これらのコマンド・プロシージャで実行される (SYSSINPUT から読み込む) コマンドは、ファイルビューあるいはセッション・マネージャがア

アプリケーション起動に使用するデータを読み込んでしまいます。これによってアプリケーションの起動が妨げられます。INQUIRE, READ/PROMPT, SET TERMINAL/INQUIREなどがこのようなコマンドの例です。

SYLOGIN.COMまたはLOGIN.COM コマンド・プロシージャが大き過ぎる場合、アプリケーションの起動が遅くなります。SYLOGIN.COMやLOGIN.COMで実行される処理の多くはDECwindowsアプリケーションの起動にとって意味がありません。このため、SYLOGIN.COMおよびLOGIN.COMの両ファイルは、DECwindowsアプリケーションの起動性能を高めるために条件付きにする必要があります。DECwindowsアプリケーションを起動するときには、SYLOGIN.COMおよびLOGIN.COM コマンド・プロシージャが最低限のコマンドのみを実行するようにします。実行すべきコマンドとしては、DECW\$USER\_DEFAULTSがある場合はその再定義、DECwindowsアプリケーションのコンテキスト内でユーザがその他の論理名を参照している場合はその論理名の定義などがあります。SYLOGIN.COMとLOGIN.COM内のDECwindowsに必要なコマンドの直後に、次の命令を挿入することが可能です。

```
$ mode = f$mode()
$ tt_devname = f$trnlrm("TT")
$ session_mgr_login = (mode .eqs. "INTERACTIVE") .and. -
    (f$locate("WSA",tt_devname) .ne. f$len(tt_devname))
$ session_detached_process = (mode .eqs. "INTERACTIVE") .and. -
    (f$locate("MBA",tt_devname) .ne. f$len(tt_devname))
$ if session_mgr_login .or. session_detached_process then exit
```

上記の各行をSYLOGIN.COMおよびLOGIN.COMファイルに追加しなくても、アプリケーションは引き続き稼働します。

#### 2.4.8.4 プライベート・ロゴを使用する際の入力フォーカスの変更

##### V1.0

DECwindows Motifにログインし、プライベート・ロゴ・コマンド・ファイルを使用する場合、プライベート・ロゴを起動するときに入力フォーカスが[ユーザ名]フィールドに戻ってしまいます。

#### 2.4.8.5 セッション・マネージャ・プロセスの停止

V1.0

セッション・マネージャ・プロセスを停止すると、特権を持っていないワークステーション・ユーザにとっては深刻な状況になることがあります。次の問題が生じないように DECwindows を再起動しなければなりません。

- 特権を持っていないユーザは新しいセッション・マネージャを起動したり、新しいログイン・ボックスを作成することができません。
- セッションを休止している場合、休止ウィンドウが削除され、不正に別のユーザがそのワークステーションのウィンドウにアクセスすることができてしまいます。
- セッション・マネージャ・プロセスをジョブ・コントローラによって停止すると、ワークステーションが使用不能になることがあります (たとえば、ユーザのアクセス時間 (午前 8 時 ~ 午後 5 時) を超過した場合)。

この問題の解決方法の 1 つは、各ワークステーションで時間外に実行するバッチ・ジョブで DECwindows を再起動することです。

STOP/NOEXIT コマンドを使用してプロセスを停止します。このコマンドを使用しない場合は、セッション・マネージャ・プロセスを停止し、次のコマンドを使用して DECwindows を再起動してください (システム・マネージャ特権が必要)。

```
$ @SYS$MANAGER:DECW$STARTUP RESTART
```

#### 2.4.9 ウィンドウ・マネージャ

この項は、DECwindows Motif ウィンドウ・マネージャに関するリリース・ノートです。

#### 2.4.9.1 アイコン・ボックス・タイトルの変更

V1.3

DECwindows Motif V1.3 以上が実行されているシステムでアイコン・ボックスのタイトルを変更するには、DECW\$USER\_DEFAULTS あるいは DECW\$SYSTEM\_DEFAULTS で DECW\$MWM.DAT ファイルを編集し、Mwm\*iconBoxTitle の代わりに Mwm\*title の値を設定します。

#### 2.4.9.2 マルチヘッド・システムのすべてのスクリーンでヘルプ・テキストを表示できない問題

V1.3

スクリーン 0 以外で右クリックしてヘルプを起動すると、何も内容がない Bookreader ウィンドウが表示されます。

マルチヘッド構成でヘルプを表示したい場合は、スクリーン 0 で右クリックを実行してください。

#### 2.4.9.3 Alt + Space キーでウィンドウ・メニューが表示されない

V1.2-4

多くの Motif 実装では、Alt+space キーの組み合わせにより、ウィンドウ・マネージャがウィンドウ・メニューを表示します。しかし、DECwindows Motif では、Alt+space キーの組み合わせは Compose Character キー機能にマッピングされています。これにより、Compose Character キーを備えていないキーボードでも、その機能を使用できます。

Alt+space キーの組み合わせでウィンドウ・メニューを表示するように変更するには、ご使用のデスクトップ環境に合わせて以下の手順に従ってください。

New Desktop システムの場合:

1. CDE\$SYSTEM\_DEFAULTS:[CONFIG.lang]SYS.DTWMRC を DISK\$:[LOGIN.DT]DTWMRC.DAT にコピーします。

2. Keys DtKeyBindings セクションで、次の行が コメント化されているのを元に戻します。

```
Alt<Key>space icon|window f.post_wmenu
```

3. ワークスペース・マネージャを再起動します。

従来の DECwindows Desktop システムの場合:

1. DECW\$SYSTEM\_DEFAULTS:DECW\$MWM\_RC.DAT を DECW\$USER\_DEFAULTS:DECW\$MWM\_RC.DAT にコピーします。
2. Keys DtKeyBindings セクションで、次の行が コメント化されているのを元に戻します。

```
Alt<Key>space icon|window f.post_wmenu
```

3. ウィンドウ・マネージャを再起動します。

#### 2.4.9.4 DECwindows Motif ウィンドウ・マネージャでのカラー・カスタマイザの使用

##### V1.2

DECWSEXAMPLES ディレクトリで提供されているカラー・カスタマイザを使用して Motif ウィンドウ・マネージャの色を調節する場合、色の変更に使用する Motif ウィンドウ・マネージャの[カラー設定]ダイアログ・ボックスが、現在のカラー値を正しく反映しないことがあります。これは正常な動作です。これらの値を変更するには、Motif ウィンドウ・マネージャの[カラー設定]ダイアログ・ボックスではなく、カラー・カスタマイザを使用してください。別の方法としては、カラー・カスタマイザを終了して、Motif ウィンドウ・マネージャを再起動する方法があります。カラー・カスタマイザについての詳細は、『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

#### 2.4.9.5 ウィンドウ・マネージャの構成ファイルを使用した、ファンクション・キーのバインディングの変更

##### V1.0

構成ファイル DECW\$MWM\_RC.DAT では、ウィンドウ・マネージャでのファンクション・キーの使用方法を定義します。アクセラレータの多くは、Alt キー (または Compose Character キー) とファンクション・キーの組み合わせを使用します (たとえば、Alt+F7)。

アプリケーションがこれらのキーを使用する必要がある場合は、行頭に感嘆符 (!) を付けてコメントにするか、新しいキーボード・バインディングを作成します。続いて、Mwm リソース・ファイルの Mwm\*keyBindings:DefaultKeyBindings を新しいバインディングを指すように変更します。

Motif バインディングでは、漢字端末エミュレータでの Compose Character シーケンスを妨げないように、ウィンドウ・メニューの表示に Alt+Space キーあるいは Compose + Space キーを使用することができないようにしています。ウィンドウ・メニューは Shift+Escape (F11) キーで表示してください。

Alt+Space を再度有効にするには、[ルートメニュー: 設定] ダイアログ・ボックスの適切なオプションを選択し、現在の設定を適用します。あるいは、構成ファイル DECW\$MWM\_RC.DAT の Alt+Space の省略時のボタン対応のコメントを削除するようにします。

#### 2.4.9.6 ウィンドウ・マネージャの再起動

*V1.0*

ファイル SYSS\$MANAGER:DECW\$MWM.COM は、ウィンドウ・マネージャを再起動する方法を指定するために使用します。省略時の設定では、必ずすべての画面で再起動されます。ただし、ウィンドウ・マネージャをセッション・マネージャから起動していない場合、ウィンドウ・マネージャは最初にすべての使用可能な画面で起動されていない可能性があります。このファイルを変更してユーザのシステムでウィンドウを再起動する方法を変更することができます。

#### 2.4.9.7 モノクロ・モニタの色に関連するリソースのカスタマイズ

*V1.0*

Motif ウィンドウ・マネージャは、オプションのダイアログ・ボックスのモノクロ・モニタの色に関連するリソースを完全にカスタマイズすることはできません。色を変えるには、DECW\$MWM\_BW.DAT リソース・ファイルを直接編集してピクスマップ・リソースを変更する必要があります。たとえば、有効なウィンド

ウのタイトルの背景色を変更する場合は、`Mwm*activeBackgroundPixmap`リソースを変更しなければなりません。値としては、`25_foreground`、`50_foreground`、`75_foreground`、`unspecified pixmap`などがあります。

また、省略時の設定では、タイトル・テキストの背景色は白になっています。タイトル・テキスト以外と同じ色を使用する場合は、`Mwm*cleanText`リソースを `FALSE` に設定します。

#### 2.4.9.8 マルチヘッド・システムでの色のカスタマイズ

*V1.0*

異なるモニタ・タイプ(カラー、モノクロ、グレースケール)を持つマルチヘッド・システムを使用している場合は、メイン・モニタ (screen 0) のタイプと一致するモニタでのみ、オプションのダイアログ・ボックスから色をカスタマイズすることができます。他のモニタをカスタマイズするには、そのモニタ・タイプでシステムにログインするか、リソース・ファイルを直接編集しなければなりません。

#### 2.4.9.9 アイコン・ボックスの画面外への移動

*V1.0*

アイコン・ボックスを画面の端に移動し、キーボードからサイズ変更を行うと、画面から消えてしまうことがあります。アイコン・ボックスを探すには、そのウィンドウが見つかるまで `Alt+Tab` を押し、続いて `Shift Escape (F11)` キーを押してそのウィンドウのウィンドウ・メニューを表示させます。それから、ウィンドウを画面上に移動します。

#### 2.4.9.10 マルチライン・アイコン・タイトルのセンタリングのずれ

*V1.0*

ウィンドウ・マネージャは、マルチライン・アイコン・タイトルの各行をセンタリングしません。

---

## 2.5 ツールとユーティリティ

この節は、`DECwindows Motif` に移植された `X Window System` ユーティリティに関するリリース・ノートです。

## 2.5.1 X 権限ユーティリティ (xauth)

この項は、X 権限ユーティリティ (xauth) に関するリリース・ノートです。

### 2.5.1.1 論理名使用時のファイル・ロックのサポート

*V1.3*

論理名を使用してファイルが指定された場合、X 権限ユーティリティ (xauth) はファイル・ロックをサポートしません。xauth は OpenVMS の論理名を解釈しないため、論理名で指定されたディレクトリではなく、現在の省略時のディレクトリにロック・ファイルを作成します。

たとえば、次の xauth コマンドは、ロック・ファイルを論理名 XAUTH\_FILE で指定された USER ディレクトリに作成するのではなく、現在の省略時のディレクトリに作成します。

```
$ DEFINE XAUTH_FILE DISK:[USER]FILE.DECW$XAUTH
$ XAUTH -f XAUTH_FILE
```

xauth で論理名を使用するには、xauth を起動する前に、次のように各論理名を交換します。

```
$ XAUTH_FILE = F$TRNLNM ("XAUTH_FILE")
$ XAUTH -f 'XAUTH_FILE'
```

この制限は、xauth で論理名を使用する場合にだけ該当するもので、SET DISPLAY/XAUTHORITY\_FILE コマンドで論理名を使用する場合には適用されません。

### 2.5.1.2 ファイル・タイプなしのファイル名指定時の問題

*V1.3*

X 権限ユーティリティ (xauth) は、指定されたファイルがディレクトリ内にまだ存在せず、タイプが指定されていない場合は、同じ名前のファイルとディレクトリを区別することができません。たとえば、次の xauth コマンドはロック・ファイルを 1 セット作成しますが、X 権限ファイルは作成しません。

```
$ CREATE/DIRECTORY [.TEST]
$ XAUTH -f TEST
```

この場合、`xauth` はエラーを表示せずに失敗します。

この問題を回避するには、`X` 権限ファイルを指定する場合に必ずファイル・タイプを指定してください。

## 2.5.2 画面印刷

この項は、画面印刷ユーティリティに関するリリース・ノートです。

### 2.5.2.1 画面印刷で PostScript 出力が欠ける問題

*V1.2-3*

画面印刷 (Print Screen) アプリケーションを使用して PostScript を出力するとき、一部のプリンタで出力の一部が欠けることがあります。欠ける部分は、横長モードでの印刷時に左上部、縦長モードでは左下部です。この問題は、PostScript プリンタ間の相違が原因です。この問題を解決するために、DECwindows Motif V1.2-5 for OpenVMS では、`DECW$PRINTSCREEN.DAT` に指定できる次の 4 つのリソースに対するサポートを追加しています。

```
PrintScreen.plxtranslate
PrintScreen.plytranslate
PrintScreen.plxscale
PrintScreen.plyscale
```

これらのリソースは、ページ上の PostScript イメージのサイズと位置を制御します。`plxtranslate` と `plytranslate` リソースは、原点からのインチ数でイメージの `x`、`y` オフセットを制御します。`plxscale` と `plyscale` リソースは、原点移動後にイメージ全体をページに表示するための `x` と `y` のスケール・ファクタです。

---

## システム管理者向けリリース・ノート

この章では、DECwindows Motif システムの管理に関する変更、修正、制限事項、および既知の問題について説明します。

---

### 3.1 インストールおよびアップグレードに関する情報

この節は、DECwindows Motif のインストールおよびアップグレード・プロセスに関するリリース・ノートです。

#### 3.1.1 DECwindows Motif のバージョンと互換性

##### *V1.3*

次の表は、OpenVMS の各バージョンでサポートする DECwindows Motif のバージョンの一覧です。ここでいうサポートとは、OpenVMS V7.3 でサポートしなくなった Display PostScript を除き、すべての機能が利用できることを示します。

表 3-1 DECwindows Motif のサポート・バージョン

DECwindows Motif	OpenVMS Alpha バージョン
Version 1.3	OpenVMS 7.3-1
Version 1.2-6	OpenVMS 7.3-1, 7.3, 7.2-2, 7.2, 6.2
Version 1.2-5	OpenVMS 7.3, 7.2-2, 7.2, 6.2

DECwindows Motif V1.3 リリースは HP OpenVMS Alpha V7.3-1 サーバおよびデバイス・ドライバ・イメージをベースにしているため、DECwindows Motif V1.3 は OpenVMS Alpha Version 7.3-1 がインストールされているシステムでのみサポートされます。

### 3.1.2 共有可能リンクを使用したイメージのインストール

#### V1.2-4

OpenVMS Alpha システムでは、共有可能リンクを使用して DECwindows Motif for OpenVMS にイメージをインストールした場合、次のようなメリットがあります。

- イメージの起動時間が短縮することによる、起動速度の向上
- イメージが使用するメモリの総ページ数が減少することによるメモリ使用量の節約

#### V1.3

省略時の設定では、次のイメージが共有可能リンクを使用して Alpha システムにインストールされます。

- DECW\$XLIBSHR.EXE (Xlib)
- DECW\$XTLIBSHRR5.EXE (Xt Intrinsics)
- DECW\$XMLIBSHR12.EXE (Motif ツールキット)
- DECW\$MRMLIBSHR12.EXE (Motif リソース・マネージャ)
- DECW\$DXMLIBSHR12.EXE (Motif ツールキットに対する DECwindows 拡張)
- CDE\$UNIX\_ROUTINES.EXE (UNIX エミュレーション・ルーチン)
- DECW\$TRANSPORT\_COMMON.EXE (トランスポート)
- DECW\$XPORT\_SERVICES.EXE (トランスポート)
- DECW\$LCNLIBSHR.EXE (論理接続番号)
- DECW\$SETSHODISSHR.EXE (OpenVMS ディスプレイ・デバイス)
- DECW\$XAUSHR.EXE
- DECW\$ICELIB.EXE (ICE)
- DECW\$ICELIB\_PTHREAD.EXE (ICE)

- DECW\$SMshr.EXE (X セッション・マネージャ・プロトコル)

上記のイメージは、/SHARE=ADDRESS\_DATA オプションでインストールすることができます。デフォルトの値を設定すると、上記のイメージは DECwindows Motif の再起動中に置き換えられません。つまり、DECwindows の再起動時に、イメージは置き換えられず、次のメッセージが表示されます。

Shared linkage sections are in use on this system and no images will be reinstalled. If you are restarting DECwindows to reinstall images then you must reboot the system.

/SHARE=ADDRESS\_DATA オプションでインストールした新しいイメージに置き換えるには、システムを再起動します。SYSTARTUP\_VMS.COM コマンド・プロシージャ内で論理名 DECW\$IGNORE\_SHARE\_ADDRESS を定義することによって、共有可能リンクのセクションを使用禁止にすることができることに注意してください。

### 3.1.3 DECW\$COMPARE\_VERSIONS コマンド・ファイルの制限

1.2-4

DECW\$COMPARE\_VERSIONS コマンド・ファイルは、2桁の年数を使用してバージョン識別子を比較しています。したがって、2000年より前に生成されたイメージのバージョン識別子と2000年以降に生成されたイメージのバージョン識別子を正しく比較することができません。

---

## 3.2 システムのチューニングと性能

この節では、DECwindows Motif のチューニングに関する重要な問題や考慮事項について説明します。

### 3.2.1 一部のグラフィックス・カードでシステムがハングする

V1.2-5

Powerstorm 4d20 または ZLXp-E2 グラフィックス・カードを装着したシステムで、多数のアプリケーション・ウィンドウを開いたとき、あるいは特定の CDA ドキュメントを開いたときに、オペレーティング・システムがハングしたり、極端に動作が遅くなることがあります。システム・ハングがこの問題によるものかどうかを確認するには、アプリケーション・マネージャの[デスクトップ・ツール]の[エラーの監視]を使用してください。システム・ハングの原因がこの問題にある場合は、次のようなメッセージが表示されます。

```
-> RCV'D (pid nnnnnnnn): RCV'D (pid nnnnnnnn)
%SYSTEM-F-EXBUFOBJLM, exceeded systemwide buffer object page limit (MAXBOBMEM)
```

現時点では、開いているウィンドウの数を減らす以外にこの問題の回避策はありません (MAXBOBMEM の値を大きくしても問題は解決されません)。この問題が発生した際に、漢字端末エミュレータ・ウィンドウをフリーにして、システム再起動を実行することができる場合もあります。そうでない場合は、ハードウェア的な再ブートを実行する必要があります。

### 3.2.2 起動時に表示されるエラー・メッセージ

V1.2-4

次の場合、起動時に、例 3-1 のようなエラー・メッセージが表示されます。

- 共有可能アドレス・リンクを使用している場合 (省略時の設定)
- DECwindows が、システム起動後に起動された場合

このエラー・メッセージは、イメージを常駐させるために必要なグラニュラリティ・ヒント領域のメモリが不足しているために発生します。この場合、DECwindows の起動を完了させるため、イメージは共有アドレス・リンクを使用しないで常駐しないようにインストールされます。このため、共有アドレス・リンクを使用した場合に得られる性能およびメモリに関する優位な機能は失われます。

グラニュラリティ・ヒント領域のメモリ量は、システム・パラメータ GH\_RSRVPGCNT によって決定されます。DECwindows Motif V1.2-3 では、このパラメータは 512 に設定されており、これによって DECwindows は共有アドレス・リンクを使用して常に起動できるようになっています。ただし、大量の物理メモリを消費します。

メモリの消費を防ぐため、OpenVMS はシステム起動中にメモリの領域を一時的に拡大し、起動の完了後に未使用のメモリを解放します。DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.2-4 DECwindows Motif ではこの点を利用して、GH\_RSRVPGCNT がその省略時の値である 0 のままになるようにします。DECwindows のイメージは、省略時の設定であるシステム起動時の DECwindows の起動が設定されているかぎり、常駐イメージとしてインストールすることができます。

#### 例 3-1 メモリ不足のため表示されるエラー・メッセージ

```
%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint region

%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re

%RUN-S-PROC_ID, identification of created process is 00000092

%RUN-S-PROC_ID, identification of created process is 00000093

%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re

%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re

%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.
-SYSTEM-F-PAGOWNVIO, page owner violation
-SYSTEM-S-NORMAL, normal successful completion
-DEBUG-W-NOIOCHAN, no I/O channel available

%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re
```

(次ページに続く)

### 例 3-1 (続き) メモリ不足のため表示されるエラー・メッセージ

```
%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.  
-SYSTEM-F-VA_IN_USE, virtual address already in use  
-SYSTEM-S-NORMAL, normal successful completion  
-DEBUG-W-NOIOCHAN, no I/O channel available  
  
%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options  
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re  
  
%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.  
-SYSTEM-F-VA_IN_USE, virtual address already in use  
-SYSTEM-S-NORMAL, normal successful completion  
-DEBUG-W-NOIOCHAN, no I/O channel available  
  
%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options  
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re  
  
%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.  
-SYSTEM-F-VA_IN_USE, virtual address already in use  
-SYSTEM-S-NORMAL, normal successful completion  
-DEBUG-W-NOIOCHAN, no I/O channel available  
  
%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options  
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re  
  
%INSTALL-I-FAIL, failed to create shared linkage entry for DISK$ALPHASYS:<SYS0.  
-SYSTEM-F-VA_IN_USE, virtual address already in use  
-SYSTEM-S-NORMAL, normal successful completion  
-DEBUG-W-NOIOCHAN, no I/O channel available  
  
%INSTALL-I-NONRES, installed image non-resident with other specified options  
-INSTALL-E-NOGHREG, insufficient memory in the code or data granularity hint re
```

## 3.2.3 起動の性能向上

### VI.1

SYLOGIN.COM または LOGIN.COM コマンド・プロシージャが大き過ぎる場合、アプリケーションの起動が遅くなります。SYLOGIN.COM や LOGIN.COM で実行される処理の多くは DECwindows アプリケーションの起動にとって意味がありません。このため、SYLOGIN.COM および LOGIN.COM の両ファイルは、DECwindows アプリケーションの起動性能を高めるために条件付きに

する必要があります。DECwindows アプリケーションを起動するときには、SYLOGIN.COM および LOGIN.COM コマンド・プロシージャが最低限のコマンドのみを実行するようにします。

実行すべきコマンドとしては、DECW\$USER\_DEFAULTS がある場合はその再定義、DECwindows アプリケーションのコンテキスト内でユーザがその他の論理名を参照している場合はその論理名の定義などがあります。SYLOGIN.COM と LOGIN.COM 内の DECwindows に必要なコマンドの直後に、次の命令を挿入することが可能です。

```
$ mode = f$mode()
$ tt_devname = f$trnlrm("TT")
$ session_mgr_login = (mode .eqs. "INTERACTIVE") .and. -
    (f$locate("WSA",tt_devname) .ne. f$len(tt_devname))
$ session_detached_process = (mode .eqs. "INTERACTIVE") .and. -
    (f$locate("MBA",tt_devname) .ne. f$len(tt_devname))
$ if session_mgr_login .or. session_detached_process then exit
```

上記の各行を SYLOGIN.COM および LOGIN.COM ファイルに追加しなくても、アプリケーションは引き続き稼働します。

### 3.2.4 非 VGA モニタ用のシステムの調整

#### V1.2

グラフィックスを多用するアプリケーションおよび 3D アプリケーションではシステム・リソースを大量に必要とするため、DECwindows のサーバではこれらのアプリケーションに固有の調整が必要です。3D 用の高速化システムでは、サーバ・クォータの調整が必要です。ここでは、少なくとも 64 MB の物理メモリを持つシステム、および複雑なクライアント機能を実行するシステムに必要な最小値を示します。

AUTHORIZE ユーティリティを使用して、次のようにシステム・アカウントのクォータを表 3-2 の最小値に設定してください。

表 3-2 システム調整用の推奨されるクォータ値

パラメータ	値
FILLM	400
ENQLM	1024
WSDEF	10240
WSQUO	16384
WSEXTENT <sup>1</sup>	20480
PGFLQUO <sup>2 3</sup>	270000

<sup>1</sup>この値は WSMAX の値を超えることはできません。

<sup>2</sup>PAGEFILE.SYS はこの値に等しいか、それ以上でなければなりません。

<sup>3</sup>ZLX-E および ZLXp-E システムには 370000 を使用してください。

サーバは独自のクォータを持ち、SYSSCOMMON:[SYSMGR]DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM に設定されています。このファイルが存在しない場合は、SYSSMANAGER:DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.TEMPLATE ファイルを SYSSMANAGER: DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM にコピーして、次の値を設定してください。

クォータ	値
DECW\$SERVER_FILE_LIMIT	400
DECW\$SERVER_ENQUEUE_LIMIT	1024
DECW\$SERVER_WSDEF	10240
DECW\$SERVER_WSQUOTA	16384
DECW\$SERVER_WSEXTENT	20480
DECW\$SERVER_PAGE_FILE <sup>1</sup>	270000

<sup>1</sup>ZLX-E および ZLXp-E システムには 370000 を使用してください。

上記よりも大きな値を使用する場合は、AUTHORIZE ユーティリティで設定した SYSTEM アカウントの対応するクォータ値を変更する必要があります。

#### アニメーション・アプリケーションの調整

アプリケーションに大型モデルあるいはアセンブリを含む長時間のアニメーション・シーケンスが入っている場合は、次のワーキング・セット・クォータ値を設定することによって性能が向上する可能性があります。

パラメータ	値
WSDEF	10240
WSQUO	20480
WSEXTENT	32768

対応するサーバのクォータも次のように設定する必要があります。

クォータ	値
DECW\$SERVER_WSDEF	10240
DECW\$SERVER_WSQUOTA	20480
DECW\$SERVER_WSEXTENT	32768

#### 注意

少なくとも 128 MB の物理メモリがない場合は、パラメータ値を上方調整しないようにしてください。

#### 調整が必要かどうかの判断

パラメータをより大きな値に設定する必要があるかどうか判断するには、ディスプレイに最大の負荷をかけて使用している間に、サーバ・プロセスをモニタしてください。ワーキング・セットの使用量が WSEXTENT の最大値に近づいている場合は、値を調整する必要があります。ただし、必要がない場合は値を増やさないようにしてください。設定した値が大きすぎると性能が低下することがあります。DECwindows サーバの最適な性能は、アプリケーションが使用するリソース量により異なります。

MIN\_WSMAX は、ユーザ・アカウントに設定した WSEXTENT の最大値と少なくとも等しいことが必要です。詳細は、『OpenVMS システム管理者マニュアル』を参照してください。AUTOGEN で WSMAX に設定した値よりも大きな値にはしないようにしてください。AUTOGEN の警告を参照してください。

次に AUTOGEN を実行して再起動すると、新しい値が有効となります。また、サーバおよびクライアントの両方のページ・ファイル・クォータを収納できるよう、ページ・ファイルを拡大する必要があります。サーバのページ・ファイル・クォータは、システムのページ・ファイルから算出できることに注意してください。

最初に調整して使用しているうちに、サーバが正常に動作しない、応答が非常に遅いなどの状態が発生する場合は、サーバのメモリの不足あるいはメモリの断片化の可能性がります。リソースを大量に使用する特定のアプリケーションでは、サーバの PGFLQUO 値をさらに増加しなければならない場合があります。

サーバのエラー・ログ SYSSMANAGER:DECW\$SERVER\_0\_ERROR.LOG に xxx: Out of memory という記録がある場合は、サーバのページ・ファイル・クォータを増加してください。システム・クォータ PGFLQUO と DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM を変更して、この値を設定してください。

たとえば ZLX-E1 および ZLX-E2 などのマルチヘッド構成では、PGFLQUO および DEC\$SERVER\_PAGE\_FILE のパラメータをシステムの要求を満たすように増加する必要があります。

---

## 3.3 セキュリティと承認

この節では、システム・セキュリティに関する重要な問題や考慮事項について説明します。

### 3.3.1 セキュリティ・オプション設定時に誤った X 権限ファイルが参照される問題

#### V1.3

セッション・マネージャ (従来の DECwindows Desktop) やスタイル・マネージャ (New Desktop) を使用してセキュリティ・オプションを設定すると、誤った X 権限ファイルに変更を行うことがあります。これにより、それ以降クライアント・アプリケーションが X サーバにアクセスできなくなることがあります。

この問題は、次の順序で処理が行われた場合に発生します。

1. セッションが使用するディスプレイ・デバイスに、独自の X 権限ファイルが設定されている。
2. クライアント・アクセス制御方法が変更された。
3. 元の X 権限ファイルの設定が、後で変更されたか、クリアされた。
4. クライアント・アクセス制御方法が再度変更された。

この場合、セキュリティ・オプションに対する以降の変更により、新しく指定された X 権限ファイル(ステップ 3)ではなく、元の X 権限ファイル(ステップ 1)が変更されます。

従来の DECwindows Desktop を使用すると、セッション・マネージャにアクセスし、[利用可能ユーザ]リストを使用するようにクライアント・アクセス制御をリセットできます。ただし、New Desktop を使用している場合は、スタイル・マネージャにはアクセスできず、現在のセッションを終了するように強制されます。

どちらの場合も、現在のセッションを終了すると、サーバが省略時の状態に戻ります。

### 3.3.2 Kerberos を有効にしたときに認識できないコードのエラーが表示される

#### V1.3

Kerberos の論理名 (KRBSROOT) が適切に設定されていないと、DECwindows Motif デスクトップ、または KINIT を使用した DCL コマンド・ラインから Kerberos を有効にしようとしたときに、次のエラーが表示されます。

```
"Unknown code 6 while initializing krb5"
```

この問題を解決するには、Kerberos for OpenVMS Security Client ソフトウェアを構成し直します。この手順については、OpenVMS の Web サイト (<http://www.openvms.compaq.com>) にある『Kerberos for OpenVMS Installation Guide and Release Notes』を参照してください。

### 3.3.3 非トラステッド接続でアプリケーションを実行したときに不正なアトム・エラーが表示される問題

#### V1.3

セキュリティ・ポリシーが定義されていない非トラステッド接続で DECwindows Motif アプリケーションを実行しようとする、多くのアプリケーションは、起動されないか、起動後に終了します。非トラステッド接続は、SET DISPLAY /GENERATE コマンドまたは XAUTH GENERATE コマンドによって生成されたクッキーを使用して X サーバへのアクセスを認めることにより、作成されます。

多くの場合、この問題が発生すると、次のエラー・メッセージが表示されます。

```
X Error of failed request
BadAtom (invalid Atom parameter)
```

非トラステッド接続上でアプリケーション・エラーが発生する可能性を低くするには、DECW\$SECURITY\_POLICY シンボルに DECW\$EXAMPLES:DECW\$SECURITY\_POLICY.TXT を設定して、サーバを省略時のセキュリティ・ポリシー・ファイルで起動します。

ただし、次のアプリケーションは、セキュリティ・ポリシー・ファイルがあっても、非トラステッド接続上では正しく実行できません。

- ブックリーダー
- CDA ビューア
- 漢字端末エミュレータ
- DTPAD
- OpenVMS デバッガ
- ペイント
- 画面印刷
- スタイル・マネージャ

### 3.3.4 XINERAMA 拡張と SEC\_XAG 拡張が存在すると非トラステッド接続で実行されるアプリケーションが動作しない問題

#### V1.3

生成されたクッキーを使用して非トラステッドで X サーバに接続されたアプリケーションは、SEC\_XAG および XINERAMA のサーバ拡張が両方ともロードされている場合、動作しないことがあります。この問題は、サーバの起動時にこれらの 2 つの拡張が初期化される順序により発生します。

この問題を回避するには、XINERAMA と SEC\_XAG の両方をロードする場合、DECW\$PRIVATE\_SERVER\_SETUP.COM 内の DECW\$SERVER\_EXTENSIONS で、必ず XINERAMA を SEC\_XAG より前に定義してください。

たとえば、次のように定義します。

```
$ decw$server_extensions == "XINERAMA,SEC_XAG"
```

次の定義は使用しないでください。

```
$ decw$server_extensions == "SEC_XAG,XINERAMA"
```

### 3.3.5 非トラステッド・クライアントがサーバのアクセス制御を変更する問題

#### V1.3

非トラステッド・プロパティで生成された認証キーで接続を行うクライアント・プログラムが、サーバのアクセス制御を変更するような操作を実行する場合があります。これらの操作としては、XAddHost(s)、XRemoveHost(s)、XSetAccessControl、XEnableAccessControl、および XDisableAccessControl があります。

この現象は、ユーザ、ノード、およびクライアントのトランスポートに、認証キーを使用せずに接続してこのような変更を行うための権限が与えられている場合に発生します。通常、このような権限を与えられたアプリケーションは、DECwindows Motif にログインした特定のユーザによってローカルあるいは

DECnet トランスポートを通してローカル・ノードで実行するアプリケーションです。

### 3.3.6 Kerberos および TCP/IP がノード名 0 を解釈できない問題

#### V1.3

TCP/IP で Kerberos を使用している場合、ローカル・ノードを意味するノード名 0 は正しく機能しません。この問題は、Kerberos がサーバ認証ファイルから初期化されている場合にのみ発生します。次に例を示します。

```
$ SET DISPLAY/TRANSPORT=TCPIP/NODE=0
$ RUN DECW$EXAMPLES:ICO

Xlib: krb5_sname_to_principal failed: Hostname cannot be canonicalized
Cannot open display
: non-translatable vms error code: 0x182B2
%rms-e-rnf, record not found
```

この場合、ローカル・ホストのノード名 0 の代わりに TCP/IP アドレスを使用してください。

```
$ SET DISPLAY/TRANSPORT=TCPIP/NODE=11.22.33.44
```

### 3.3.7 サーバの X 権限ファイルから Kerberos の設定を初期化する際の DECwindows Motif ログインの使用禁止

#### V1.3

サーバの X 権限ファイルを使用して Kerberos の設定を初期化している場合、DECwindows Motif ログインは使用できません。これは、DECwindows ログインが特権付きのイメージであり、Kerberos ランタイム・イメージはインストールされたイメージではないためです。さらに、ログインによって実行されたクライアントは Kerberos の設定を扱います。このため、この構成ではセッション管理はサポートされません。

DECwindows ログイン・ボックスが表示されないようにするためには、次のように、SYSSMANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COMでDECW\$MAINAPPを定義します。

```
$ DECW$MAINAPP == " "
```

### 3.3.8 Kerberos ログイン・ボックスのヘルプの問題

#### V1.3

チケットの削除に関するオンライン・ヘルプの説明は正しくありません。正しい説明は『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

### 3.3.9 省略時の X 権限ファイルにおけるクッキーの生成

#### V1.3

省略時の X 権限ファイルにクッキーを書き込むとセッションのクッキーと干渉します。省略時の X 権限ファイルには、生成したクッキーを書き込まないことをお勧めします。生成したクッキーを省略時の X 権限ファイル書き込まないように設定するには、次の処理を行います。/XAUTH 修飾子を使用して、省略時のファイル以外の X 権限ファイルを指定してください。

```
$ SET DISPLAY/GENERATE=NOTIMEOUT/XAUTH=DISK$:[DIR]MYAUTHORITY.DECW$XAUTH
```

生成されたクッキーが省略時の X 権限ファイルに書き込まれた場合、現在のセッションを終了して通常の操作で復元できます。

DECwindows セッション以外で、生成されたクッキーをユーザの省略時の X 権限ファイルに書き込んだ場合、ログインの前に省略時の X 権限ファイルを削除する必要があります。

### 3.3.10 アクセス制御の有効化と無効化

#### *V1.0*

DECwindows Motif では、省略時の設定でアクセス制御は行わず、サーバのアクセス制御の設定に従います。DECwindows X11 ディスプレイ・サーバは、起動時にアクセス制御をオンに設定します。

DECwindows セッション・マネージャにログインするときにアクセス制御を明示的に有効または無効にするには、次の論理名のいずれかを定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE DECW$LOGIN_ACCESS_CONTROL ENABLE  
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE DECW$LOGIN_ACCESS_CONTROL DISABLE
```

論理名を定義しない場合、あるいは "SERVER" など他の値に定義した場合は、DECwindows ログインではアクセス制御を有効、無効のどちらにも設定しません。

通常、この論理名を定義する必要はありません。

---

## 3.4 デスクトップ管理

この節では、デスクトップ・アプリケーションの管理に関する重要な問題と考慮事項について説明します。

### 3.4.1 DECW\$EXAMPLES グローバル・シンボル移動時の DECW\$UTILS グローバル・シンボルの定義

#### *V1.2*

DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.2 では新しいシンボル DECW\$UTILS が導入されました。通常 DECW\$UTILS は DECW\$EXAMPLES のサブディレクトリを指します。DECW\$EXAMPLES グローバル・シンボルを DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COM コマンド・プロシージャで定義して、DECwindows プログラム例が入っているディレクトリを変更する場合は、

DECW\$UTILS を定義して、ユーティリティのディレクトリも必ず変更するようにしてください。

たとえば、DECW\$EXAMPLES と DECW\$UTILS の両方を再定義するには、下記の各行を SYSS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COM プロシージャに追加します。

```
$ DECW$EXAMPLES == "SYS$SYSROOT:[DECW$EXAMPLES]  
$ DECW$UTILS == "SYS$SYSROOT:[DECW$EXAMPLES.UTILS]
```

---

#### 注意

---

SYSS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COM ファイルが存在しない場合は、SYSS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.TEMPLATE ファイルから作成してください。

---

ここで、次のコマンドで DECwindows Motif を再起動します。

```
$@SYSS$MANAGER:DECW$STARTUP RESTART
```

### 3.4.2 DECwindows ログイン画面の色に関する問題点

#### V1.2

DECW\$LOGIN.DAT ファイルをカスタマイズしているシステムでは、[セッション起動]ダイアログ・ボックスの色が褐色ではなく青になるという問題が発生する場合があります。この状態が発生した場合は、SYSS\$COMMON:[DECW\$DEFAULTS.USER]ディレクトリからカスタマイズされた DECW\$LOGIN.DAT ファイルを探し、これを SYSS\$MANAGER に移します。SYSS\$COMMON:[DECW\$DEFAULTS.USER]に DECW\$LOGIN.DAT ファイルがある場合、"\*background:"リソースが定義されず、省略時の設定である青となります。

弊社提供の DECW\$LOGIN.DAT ファイルが、SYSS\$COMMON:[DECW\$DEFAULTS.SYSTEM]ディレクトリに置かれています。このファイルをカスタマイズしたものは、SYSS\$MANAGER にだけ置くようにしてください。

### 3.4.3 カスタマイズしたログイン・ロゴの表示

#### VI.1

省略時の設定では、SYSTEM アカウント用の DECwindows Motif ライセンスが登録されていない場合、DECwindows はユーザが作成したログイン・ロゴを表示しません。これは、DECwindows Motif の個人用のライセンスを使用しているシステムで、DECwindows ユーザ・リストに SYSTEM が含まれていない場合に問題となります。

SYSTEM アカウント用の DECwindows Motif のライセンスがない場合は、SYS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COM ファイルに次の定義を追加することにより、ユーザが作成したロゴを表示することができます。

```
$ DECW$LOGINLOGOSUB == "TRUE"
```

---

#### 注意

---

ファイルが存在しない場合は、SYS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.TEMPLATE ファイルからコピーしてください。

---

セットアップ・ファイルを編集した後、次のコマンドを使用して DECwindows Motif を再起動してください。

```
$ @SYS$MANAGER:DECW$STARTUP RESTART
```

DECwindows Motif にログインした場合、ロゴ・プロセスは独立プロセスではなくサブプロセスとして起動されます。ライセンス・チェックは、ロゴ・プロセスがログイン・プロセスの子プロセスであることを確認し、X 接続がオープンされます。

---

## 3.5 フォントとキーマップの管理

この節は、フォントとキーマップのサポートに関するリリース・ノートです。

### 3.5.1 ユーロ通貨記号の制限

#### V1.3

DECwindows Motif と、そのユーロ通貨記号のサポートに関して、次の制限事項があります。

- 異なるプラットフォーム (UNIX など) 上の他の X Window アプリケーションに、Compound Text フォーマットを使用してユーロ記号をペーストしたり送信した場合、その文字は他のプラットフォーム上ではユーロ記号として認識されないことがあります。
- ユーロ通貨記号は、DECwindows Motif で利用可能なスケーラブル・フォント・セットには含まれていません。スケーラブル・フォントを使用しているアプリケーションでは、ユーロ記号は表示できません。
- EDT を使用してユーロ文字をファイルに入力することはできますが、この記号は画面上には正しく表示されません。たとえば、Compose o x と入力すると、文字コードの A4 が表示されます。

### 3.5.2 Mode\_switch がオンの場合にマウスでウィンドウをGrabできない問題

#### V1.3

Mode\_switch が実装されている従来のキーボード・マップが、X キーボード・サーバ拡張 (XKB) が事前にロードされていないか、省略時の DECWSMWM リソース設定が変更されていない状態でロードされると、Mode\_switch がオンの間はマウスでウィンドウをGrabできません (日本語キーボードの場合、かなキーが該当します)。

たとえば、AUSTRIAN\_GERMAN\_LK401AG\_TW キーマップがロードされている場合、compose キーは、ワンショットのロックダウン修飾キーです。初めて compose を押すと、Mode\_switch がオンになり、ウィンドウがGrabできなくなります。再度 compose を押すか、ロックされた compose により影響される他のキー (たとえば、英字の "a") を押すと、Mode\_switch がオフになり、ウィンドウがGrabできるようになります。

CDE デスクトップ上でこの問題が発生するのを回避するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』で説明しているように X キーボード・サーバ拡張 (XKB) をロードし、サーバを再起動します。この操作により、これ以降起動されるすべての CDE セッションで問題が発生するのを防ぐことができます。
- キーマップを変更したら、CDE セッションからログアウトし再度ログインします。この操作により、現在のセッションで問題が発生するのを防ぐことができます。

従来のデスクトップで問題が発生するのを防ぐためには、次の操作を行った後、DECwindows Motif セッションを終了し再起動します。

- DECW\$SYSTEM\_DEFAULTS:DECW\$MWM.DAT ファイルを編集して `Mwm*ignoreModKeys` および `Mwm*ignoreAllModKeys` の値を TRUE に設定することにより、DECW\$MWM リソースを再定義してウィンドウのグラブを可能にします。

### 3.5.3 特定のキーマップでの性能の問題

#### V1.2-5

Austrian-German キーマップ (AUSTRIAN\_GERMAN\_LK401AG\_TW) 使用時に性能の問題が発生します。他のキーボードあるいは言語の変更の場合であっても、ユーザがキーボード・モディファイア・マップの `mod4` または `mod5` エントリに `Mode_switch` モディファイアを設定するキーボード・マップ/言語のシーケンスを選択すると発生する可能性があります。この問題は、[キーボード・オプション] ポップアップ・メニューで `Mode_switch` モディファイアを使用するキーボード・マップをユーザが選択することによって発生します。

キーボード・モディファイア・マップのどこに `Mode_switch` モディファイアがあるかを調べるには、次のコマンドを使用してください。

```

$ XMODMAP := $DECW$UTILS:XMODMAP.EXE
$ XMODMAP
xmodmap: up to 3 keys per modifier, (keycodes in parentheses):

shift      Shift_R (0xab), Shift_L (0xae)
lock       Caps_Lock (0xb0)
control    Control_L (0xaf)
mod1       Alt_L (0xac), Alt_R (0xb2)
mod2       Mode_switch (0xb1)
mod3       Multi_key (0xad)
mod4       Mode_switch (0x7a)
mod5       Help (0x7c)

```

回避策としては、DECW\$UTILS:XMODMAP.EXE ユーティリティを使用して、キーボード・マップを選択した後、モディファイア・マッピングを変更します。

1. XMODMAP に渡したときに、現在のキーボード・モディファイア・マップを消去し、Mode\_switch のマッピングをキーボード・モディファイア・マップ内の下位エントリに変更するファイルを作成します。

```

clear shift
clear lock
clear control
clear mod1
clear mod2
clear mod3
clear mod4
clear mod5
add shift = Shift_R Shift_L
add lock = Caps_Lock
add control = Control_L
add mod1 = Alt_R Alt_L
add mod2 = Multi_key
add mod3 = Mode_switch
add mod5 = Help

```

2. 次のコマンドを使用して、このファイルを XMODMAP に渡します。

```

$ XMODMAP := $DECW$UTILS:XMODMAP.EXE
$ XMODMAP XMODMAPRC.DAT

```

---

## 3.6 プロキシ・サーバの管理

以降の項は、LBX (Low-Bandwidth X) プロキシ・サーバと、関連のプロキシ・アプリケーションの管理に関するリリース・ノートです。

### 3.6.1 LBX プロキシ・サーバがあると一部のアプリケーションの信頼性がなくなる問題

#### *V1.3*

LBX プロキシ・サーバを通して DECwindows Motif ディスプレイ・サーバに接続すると、一部のアプリケーションで問題が発生することがあります。この問題には、DECwindows サーバや、プロキシ・サーバ、クライアントのハングなどがあります。

これらの問題を回避するには、LBX プロキシ・サーバ内で選択されているオプションを無効にします。具体的には、次のとおりです。

- XMAG や画面印刷などの、XGetImage 呼び出しを行うアプリケーションは、XINERAMA があるシステムではハングすることがあります。この問題を回避するには、NOIMAGE および NOGRAPHICS オプションを使用します。
- CDA ビューアなどの、大規模な要求を行うアプリケーションは、サーバをハングさせることがあります。この問題を回避するには、NOCOMP オプションを使用します。
- TAGS が有効な場合、アプリケーションによっては BADWINDOW あるいは BADLENGTH を返すものがあります。これを避けるには NOTAGS オプションを使用してください。

次のようなコマンドを使用します。

```
$ LBXPROXY /OPTIONS=(NOIMAGE,NOGRAPHICS,NOCOMP,NOTAGS)
```

LBX プロキシ・サーバ・オプションは、  
SYSS\$MANAGER:DECW\$LBXPROXY.DECW\$PMCFG 内で無効にできます。

### 3.6.2 プロキシ・マネージャ・プロセスが自動的に再起動しない問題

#### V1.3

DECwindows Motif がプロキシ・マネージャ・プロセスを自動的に再起動するように構成されていて、DECwindows Motif セッションが手動で再起動された場合、プロキシ・マネージャに関して次の問題が発生することがあります。

- プロキシ・マネージャが実行されていた場合、DECwindows Motif の再起動時に新しいプロセスが起動されない。
- プロキシ・マネージャが実行されていなかった場合、新しいプロセスが起動される。ただし、プロセスの所有者が、SYSTEM アカウントではなく、起動コマンドを入力したユーザになる。

これらの問題は、通常のシステム・シャットダウン (再ブート) の一環として DECwindows Motif が再起動された場合には発生しません。

プロキシ・マネージャを手動で再起動するには、DECwindows Motif を再起動する前に、アクティブなプロキシ・マネージャ・プロセスごとに次のコマンドを入力します。

```
$ STOP process-name
```

ここで、*process-name* はアクティブなプロセスの名前です (例: DECW\$PROXY)。

このコマンドは、アクティブなプロキシ・マネージャ・プロセスを停止するだけでなく、このプロセスが管理していたプロキシ・サーバ接続もすべて終了させます。

プロキシ・マネージャ・プロセスの所有者が確実に SYSTEM アカウントになるようにするには、DECwindows Motif を再起動するときには必ず SYSTEM でログインします。

### 3.6.3 プロキシ・マネージャ構成ファイルの制限事項

*V1.3*

プロキシ・マネージャでは、同じプロキシ・サービスに対して、管理対象または管理対象外のエントリを、構成ファイル内に複数指定することはサポートしていません。複数のエントリが存在する場合は、最初の1個だけが処理されます。

---

## 3.7 Xディスプレイ・サーバの管理

以降の項は、DECwindows X11 ディスプレイ・サーバの管理に関するリリース・ノートです。

### 3.7.1 サポートされていないサーバ拡張の組み合わせ

*V1.3*

現在、次の組み合わせのXサーバ拡張はサポートされていません。

XINERAMA と D2DX  
DBE と MULTIBUFFERING

これらの拡張は、同じDECwindows Motif システム上で同時に有効にすることができます。ただし、リソースや関数が衝突するため、これらの拡張を同じシステムで同時に使用することはできません。

### 3.7.2 XINERAMA を使用した垂直マルチヘッド構成で XMAG を実行しているときに余分な文字が表示される問題

*V1.3*

XINERAMA を使用しているマルチヘッド・システム上に XMAG を使用してイメージを表示する場合、画面が垂直に構成されていると、画面間に余分な文字の行が1ピクセル分表示されます。画面が水平に構成されている場合は、この問題は発生しません。

### 3.7.3 XINERAMA を使用したマルチヘッド構成でカスケード・メニューが誤った位置に表示される問題

*V1.3*

XINERAMA を使用するマルチヘッド構成では、DECwindows Motif のカスケード・メニューが正しい画面に表示されないことがあります。メニューは、誤った画面上の正しい位置に表示されます。現在、回避策はありません。

### 3.7.4 XINERAMA の 3D モードでのサポート

*V1.3*

3D アプリケーション (OpenGL など) を使用する X サーバで、XINERAMA 拡張を使用することはサポートされていません。この拡張は、2D 環境でのみ使用できます。



---

## プログラミングに関するリリース・ノート

この章は、DECwindows Motif 環境でのプログラミングに関するリリース・ノートです。

---

### 4.1 一般的なプログラミング

この節は、一般的な DECwindows Motif プログラミング環境に関するリリース・ノートです。

#### 4.1.1 OSF/Motif ツールキットのサポートと互換性

##### *V1.3*

次の表に、DECwindows Motif のリリースごとに、ベースとなっている OSF /Motif ツールキットと X Window System の最新バージョンを示します。

DECwindows Motif	OSF/Motif ツールキット	X Window System
バージョン 1.3	CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)	バージョン 11 リリース 6.6 (X11R6.6)
バージョン 1.2-6	CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)	X11R5
バージョン 1.2-5	CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)	X11R5
バージョン 1.2-4	CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)	X11R5
バージョン 1.2-3	OSF/Motif 1.2.3 ツールキ ット (共通デスクトップ環境 (CDE) 用の拡張あり)	X11R5

DECwindows Motif	OSF/Motif ツールキット	X Window System
バージョン 1.2	OSF/Motif 1.2.2 ツールキット	バージョン 11 リリース 5 (X11R5)
バージョン 1.1	OSF/Motif 1.1.3 ツールキット	X11R4
バージョン 1.0	OSF/Motif 1.1.1 ツールキット	バージョン 11 リリース 4 (X11R4)

日本語 DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.1 アプリケーションは、DECwindows Motif の現在のバージョンに変更を加えなくても継続して実行することができますが、ドラッグ・ドロップ機能やテア・オフ・メニューなどの V1.2 の機能を利用することができるのは、OSF/Motif リリース 1.2.2 ツールキットに対してビルドされているアプリケーションだけです。

OSF/Motif ツールキットに関する詳細な情報については、付録 B を参照してください。

#### 4.1.2 ランタイムおよびプログラミング環境

##### V1.3

DECwindows Motif V1.3 では、次のランタイムおよびプログラミング環境を提供します。

- CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)、OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキット、および X ユーザ・インタフェース (XUI) ツールキットには、ランタイム・サポートが用意されています。
- 開発サポートは CDE Motif 1.0 ツールキットだけに用意されています。

しかし、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS バージョン 1.2-4 を実際にインストールする前に、すでに使用しているシステムに入っている OSF/Motif リリース 1.1.3 プログラミング・ファイルをインストール中に保管することを

選択することができます。『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS インストール・ガイド』を参照してください。

- POLYCENTER Software Installation ユーティリティを使用してこのソフトウェアをインストールする際に OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットのプログラミング・ファイルが存在している場合は、OSF/Motif リリース 1.1.3 アプリケーションの開発に使用されたヘッダ・ファイルおよび UIL コンパイラの保存を選択することができます。このファイルの保存を選択した場合、インストール・プロシージャは[.DECWS113]と呼ばれるサブディレクトリを作成し、以前のプログラミング・ファイルはこの新しいディレクトリに移されます。

リリース 1.1.3 のプログラミング環境の保存についての詳細は、『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS インストール・ガイド』を参照してください。

- HP DECwindows Motif for HP OpenVMS Alpha 製品を使用したアプリケーション開発は、C++ ならびに Ada, Pascal, Fortran, C 用にアップデートされた Motif 言語バインディングでサポートされています。Ada 用の言語バインディングは、Ada Version 3.5A for OpenVMS (VAX および Alpha) レイヤー製品で提供されています。ただし、これらのバインディングには、DECwindows Motif V1.3 で追加された拡張は含まれていません。

#### 4.1.3 スタック要件の増加

##### V1.3

DECwindows Motif クライアント・ライブラリへの重要な新機能の追加により、実行時に DECwindows Motif が使用するスタック領域が増えることがあります。DECwindows Motif の関数をメイン・スレッド以外のスレッドから呼び出すクライアント・アプリケーションでは、スタック・オーバーフローが発生することがあります。

オーバーフローが発生した場合、生成されるスレッド用に大きいスタック・サイズを指定してアプリケーションを再構築してください。

この問題は、シングルスレッド・アプリケーションや、DECwindows Motifの関数をすべてアプリケーションのメイン・スレッドから呼び出すマルチスレッド・アプリケーションでは発生しません。

#### 4.1.4 ICE, プロキシ・マネージャ, およびLBXサーバ・プロセスに必要な特権

##### V1.3

ICE (Inter-Client Exchange), プロキシ・マネージャ, およびLBX (Low-Bandwidth X) プロキシ・サーバはそれぞれ, 独立したサーバ・プロセスを生成する機能を持っています。これらのサーバ・プロセスは, 1つ以上のトランスポート・インタフェースにアクセスし, クライアント・コネクションを管理するために, システム・リソースを必要とすることがあります。

次の表では, ネットワーク・トランスポート別に, 適切なリソースにアクセスするために必要な最小限の特権を示します。

トランスポート	特権
TCPIP	NETMBX
DECNET	TMPMBX, NETMBX, SYSNAM
LOCAL	PRMMBX, SYSGBL

#### 4.1.5 Display PostScript のサポート終了

##### V1.2-6

1998年8月1日から, Adobe Display PostScript ソフトウェアはサポートされなくなりました。これは, Adobe Systems 社が Display PostScript のサポートを打ち切ったことに伴う措置です。

この決定により, 弊社は契約上, DECwindows Motif ソフトウェアからすべての Display PostScript 機能を削除する義務を負います。これには, 関連する変換イメ

ージのサポートおよび次のプログラミング・リファレンス・マニュアルに記述されているすべての機能が含まれます。

- 『VMS DECwindows Display PostScript System Programming Supplement』
- 『Display PostScript System: Perspective for Software Developers』
- 『Display PostScript System: Client Library Reference Manual』
- 『Display PostScript System: Color Extensions』
- 『Display PostScript System: pswrap Reference Manual』
- 『PostScript Document Structuring Conventions Specification Version 2.1』

現在のところ、これに対する回避策はありません。DECwindows Motif 環境のアプリケーションに及ぼすおそれのある影響についての詳細は、以降の各項を参照してください。

#### 4.1.5.1 DECwindows Motif アプリケーションへの影響

DECwindows Motif から Display PostScript が削除されたことにより、PostScript フォーマットのグラフィックスやドキュメントの表示に Display PostScript の機能を使用するアプリケーションが影響を受けます。

なお、これには、CDA ビューアなど、弊社が開発したアプリケーションだけでなく、次のいずれかのファイルやライブラリに依存するサード・パーティ製やユーザ作成のアプリケーション、および変換した VAX のアプリケーションも含まれます。これらのアイテムはもう製品キットには含まれておらず、DECwindows Motif クライアント・ソフトウェアの以前のバージョンからアップグレードする際にシステムから削除されます。

- PSWRAP コマンド (DCL)
- Display PostScript (XPDS) ライブラリ
  - [SYSLIB]XDPS\$DPSBINDINGSSHR.EXE
  - [SYSLIB]XDPS\$DPSCLIENTSHR.EXE
  - [SYSLIB]XDPS\$DPSLIBSHR.EXE
- Display PostScript ヘッダ・ファイルおよびサンプル・プログラム

- 変換イメージ・サポート (TIS) ファイル

```
[SYSLIB]XDPS$DPSBINDINGSSHR_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]XDPS$DPSCLIENTSHR_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]XDPS$DPSLIBSHR_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]CDA$ACCESS_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]DDIF$VIEWSHR_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]DECW$BKRSRHR_TV_SUPPORT.EXE
[SYSLIB]DECW$MAILSHR_TV_SUPPORT.EXE
```

Display PostScript 削除の実際の影響は、アプリケーションでインプリメントされている範囲によって異なります。PSWRAP コマンドを呼び出すアプリケーションは、そのコマンドが呼び出される場所でのみ異常終了します。しかし、XPDS ライブラリにリンクしているアプリケーションまたは TIS イメージは、実行時に解決できないリンクがあるため全く実行できません。

このため、DECwindows Motif V1.3 環境で正常に実行できるようにするには、これらのファイルに依存している DECwindows Motif アプリケーションの該当箇所を変更する必要があります。

#### 4.1.5.2 Java アプリケーションへの影響

Java Development Kit (JDK) for OpenVMS V1.2.2-1 には、Display PostScript (XPDS) ライブラリにリンクする 2 つの共有可能イメージ (JAVASFONT\_MANAGER\_SHR.EXE および JAVASFONT\_MANAGER\_G\_SHR.EXE) が含まれています。このため、Display PostScript 機能を使用するこれらのキットでビルドされたすべての Java アプリケーションは、DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.2-6 環境では異常終了します。

この制限事項はバージョン 1.2.2-1 のキットにのみ適用されることに注意してください。1.1\*シリーズ用の Java マシンは、バージョン 1.2.2-1 以降のすべての JDK のリリース同様、Adobe Display PostScript ソフトウェアまたはそのライブラリに依存していません。

#### 4.1.6 DECW\$INCLUDE:INTRINSIC.H ファイル使用上の問題

V1.2-5

DECwindows のヘッダ・ファイル DECW\$INCLUDE:INTRINSIC.H は、  
/STANDARD=VAXC コンパイラ・スイッチが指定されているときでも、DEC C  
コンパイラ使用時に globalref マクロを extern として再定義します。これは、ユー  
ザ・アプリケーションに広範な影響を与える可能性があります。

INTRINSIC.H にこの再定義が要求されるのは、ユーザの作成したアプリケー  
ションが DECwindows 共有イメージにあるデータを参照するとき、必ず共有  
イメージのコンパイル時に使用したものと同一外部モデルを使用するように、  
DECwindows 側で保証する必要があるためです。

この問題を回避するため、アプリケーションでは変数に globalref と globaldef を使  
用しないで、次のプリプロセッサ命令を使用してください。

```
#pragma extern_model strict_refdef
```

この回避策には、厳密に ANSI に適合するという利点があります。この pragma  
命令は、『OpenVMS システム用 DEC C ユーザーズ・ガイド』に説明されていま  
す。

#### 4.1.7 DECW\$WML\_TOKENS.DAT を現在のディレクトリで検索する DECW\$WML.EXE

1.2-4

SYSS\$SYSTEM:DECW\$WML.EXE を使用して、UIL ファイルのオペランド解  
析をカスタマイズすることができます。DECW\$WML.EXE は、DECW\$WML\_  
TOKENS.DAT ファイルからトークン・リストを読み込みますが、DECwindows  
Motif の以前のバージョンでは、このトークン・ファイルは常に SYSS\$LIBRARY  
から読み込まれていました。日本語 DECwindows Motif V1.2-4 では、  
DECW\$WML.EXE がまず最初に現在ディレクトリ内でこのファイルを検索し  
てから、SYSS\$LIBRARY ディレクトリ内を検索します。これによりカスタマイズ  
したトークン・ファイルを使用することができます。

## 4.1.8 \_Xm ルーチンの使用

### VI.2

OSF/Motif ツールキットは、多くの「内部専用」ルーチンで実現されています。これらのルーチンは\_Xm で始まり、標準 Motif ウィジェットだけが使用するようになっています。API (Application Programming Interface) については文書化されておらず、OSF ではこれらのルーチンをサポートしていません。OSF 社は API を変更して新しい\_Xm ルーチンを追加し、現在の\_Xm ルーチンを削除し、あらゆる\_Xm の機能性の変更を警告や予告なしに行う権利を保有しています。

#### 警告

弊社では、\_Xm ルーチンを複製して、OSF/Motif リリース 1.2.2 ツールキットの共有可能イメージ転送ベクトルに置くことによって、\_Xm ルーチンへアクセスできるようにしています。弊社では、これらのルーチンについて、その使用、ドキュメント、またはサポートを保証していません。これらの機能を使用するユーザは、ご自分の責任で行ってください。

## 4.1.9 Fortran で記述したアプリケーションのコンパイル

### VI.1

OpenVMS Alpha システムで、DECW\$MOTIF.FOR ファイルなどの DECwindows Motif アプリケーションを Fortran で作成するために使用するインクルード・ファイルには、使用するコンパイラ・スイッチに応じてメモリ・レイアウトを変化させる構造体定義が含まれています。

次の処置のいずれかを行うことができます。

- Fortran プログラムが DECwindows Motif ランタイム・ライブラリで正しく動作するように、ソース・コード内で CDEC\$ OPTIONS を使用します。
  - ファイルをプログラムに組み込む前に、次の文を追加します。

```
CDEC$ OPTIONS /ALIGN=RECORDS=NATURAL
```

- INCLUDE 文の後に次の文を追加します。

```
CDEC$ END OPTIONS
```

例:

```
CDEC$ OPTIONS /ALIGN=RECORDS=NATURAL  
INCLUDE "DECW$MOTIF.FOR"  
CDEC$ END OPTIONS
```

- プログラムをコンパイルするときに、Fortran コンパイラ・スイッチ /ALIGN=RECORDS=NATURAL を使用します。

#### 4.1.10 C で作成したアプリケーションのコンパイル

##### V1.0

VAX C レイヤー製品のインストレーション・プロシージャでは、VAX C 定義ファイル (.h ファイル) を抽出するか、または .h ファイルをテキスト・ライブラリに残しておくかのいずれかを選択することができます。定義ファイルを抽出すると、次のフォーマットの #include 制御行を使用することができます。

```
#include <filename.h>
```

DECwindows ヘッダ・ファイルは、.h ファイルが抽出されていることを前提としています。ヘッダ・ファイルには、組み込まれたファイルの #include <module\_name.h> 記述が含まれています。また、DECwindows Motif プログラミング関連マニュアルでも同じことを前提としています。

このため、VAX C をインストールするときには、ライブラリ・モジュール抽出を選ぶ必要があります。

すでに VAX C をインストールしていて、.h ファイルを抽出しなかった場合は、DECwindows サンプル C プログラムは動作しません。この問題に対処するには、VAX C を再度インストールして .h ファイルを抽出してください。

DEC C では、DECC\$TEXT\_LIBRARY の論理名を次のように定義すれば、ヘッダ・ファイルをテキスト・ライブラリから抽出する必要はありません。

```
$ DEFINE DECC$TEXT_LIBRARY SYS$LIBRARY:DECC$RTLDEF.TLB
```

---

## 4.2 トランスポート・プログラミング

この節では、トランスポート・インタフェースの情報について説明します。

### 4.2.1 ローカル・エリア・トランスポート (LAT) とユーザ作成トランスポートが V1.3 環境ではサポートされない問題

#### V1.3

DECwindows Motif V1.3 では、ICE (Inter-Client Exchange) プロトコル、LBX (Low-Bandwidth X) プロキシ・サーバ、および入力システム・サーバの通信要件に対応するために、DECwindows Motif トランスポート・ライブラリに重要な変更が行われました。特に、サーバ接続に番号を割り当てる代替方法 (『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照) が追加されました。外部用として公開されるトランスポート関連機能は、論理接続番号 (LCN) インタフェースのサポートだけです。

DECnet、TCP/IP、およびローカル・ネットワーク・トランスポート・インタフェースはアップデートされており、バージョン 1.3 環境でも期待されているとおりに機能します。また、以前のバージョンのクライアント・ライブラリと互換性があります。ただし、ローカル・エリア・トランスポート (LAT) に対する DECwindows Motif のインタフェースは、以前のバージョンの DECwindows Motif に対して構築されたカスタマイズされたユーザ作成トランスポートと同じように、バージョン 1.3 環境では期待どおりに機能せず、サポートされません。次のファイルに対してビルドされリンクされたトランスポートがこれに該当します。

```
SYS$LIBRARY:DECW$XPORTCOM.H  
SYS$LIBRARY:DECW$XPORTCOM.MAR  
SYS$LIBRARY:DECW$XPORTCOM.R32  
SYS$LIBRARY:DECW$XPORTDEF.H
```

SYSS\$LIBRARY:DECW\$XPORTDEF.MAR

SYSS\$LIBRARY:DECW\$XPORTDEF.R32

『VMS DECwindows Transport Manual』はアーカイブ化され、新しいライブラリについてはドキュメントには記述されず、公には提供されません。

LAT トランスポートへの DECwindows Motif インタフェースを利用している X 端末アプリケーションを現在ご使用の場合は、DECwindows Motif Version 1.2-6 またはそれ以前にとどまることをお勧めします。

カスタマイズしたトランスポートを実装していて、このトランスポートを DECwindows Motif V1.3 環境に移行させる場合は、移行計画の策定について弊社のカスタマ担当者にご相談ください。

---

## 4.3 X Window System ライブラリ (Xlib)

この節では、X Window System ライブラリ (Xlib) の情報について説明します。

### 4.3.1 廃止されたエントリ・ポイントと変更されたエントリ・ポイント

#### *V1.3*

次のサポートされない Xlib エントリ・ポイントは、DECW\$XLIBSHR イメージから削除されました。

XCMSCIELAB\_VALIDSPEC  
XCMSCIELUV\_VALIDSPEC  
XCMSCIUVY\_VALIDSPEC  
XCMSCIEXYY\_VALIDSPEC  
XCMSCIEXYZ\_VALIDSPEC  
XCMSLRGB\_RGBI\_PARSESTRING  
XCMSLRGB\_RGB\_PARSESTRING  
XCMSTEKHVC\_VALIDSPEC

また、次のファイルは廃止予定になっており、OpenVMS の今後のリリースで削除されます。

これらの関数を使用しているアプリケーションは、変更が必要です。

### 4.3.2 XConnectionNumber と ConnectionNumber の意味の変更

#### V1.3

DECwindows Motif V1.3 では、XConnectionNumber 関数と ConnectionNumber マクロの意味が変更されました。

以前のバージョンの DECwindows Motif では、この関数とマクロのどちらも、イベント・フラグ番号 (EFN) を返していました。次のように一般的な方法で実装されている呼び出しでは、イベント・フラグは入力を受け取った時点で設定されました。

```
sys$clref (ConnectionNumber (dpy));
  while (XPending (dpy) != 0) XNextEvent (dpy);
  sys$waitfr (ConnectionNumber (dpy));
```

DECwindows Motif V1.3 では、XInitThreads の呼び出しによってマルチスレッドのサポートが有効になったときの、この関数やマクロの動作が変更されました。マルチスレッドが有効になっている場合は、この関数やマクロは論理接続番号 (LCN) を返すようになりました。

LCN は、サーバからの入力が存在する場合、読み取り設定状態にあります。LCN は、すべての出力バッファが使用中でなければ、書き込み設定状態にあります。これ以外の状態は、弊社で使用するために予約されています。

EFN の代わりに LCN を使用するには、上記の実装を、次のように変更します。

```
int readState;
while (XPending (dpy) != 0) XNextEvent (dpy);
  decw$lcn_select_one (ConnectionNumber (dpy), &readState);
```

LCN 状態はサーバからの入力を反映し、応答の処理中にキューイングされたイベントは含まないため、イベント・キューが空になった後に select 呼び出しを行わなければなりません。

DECW\_CONNECTIONNUMBER\_IS\_LCN マクロに true (1) を設定して XLIB.H をインクルードすることによって、ConnectionNumber マクロが LCN 値 (常に利用可能) を取得するように強制できます。例を次に示します。

```
#define DECW_CONNECTIONNUMBER_IS_LCN 1
#include <X11/Xlib.h>
.
.
.
```

これは、スレッドが初期化されているかどうかにかかわらず同様に機能しなければならない共有イメージやオブジェクト・ライブラリでこのマクロを使用する場合に便利です。

LCN インタフェースの詳細については、『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

### 4.3.3 OpenVMS システムでのロケールのサポート

#### V1.2-4

DECwindows Motif V1.2-4 for OpenVMS で提供されるロケール・サポートは、DEC C ランタイム・ライブラリでのロケール・サポートと互換性があります。このロケール環境で、これらの関数を使用して国際化アプリケーションを作成する場合は、次の手順に従ってください。

- Xlib アプリケーションでは、<X11/Xlocale.h>をインクルードします。<stdlib.h>をインクルードする場合は、<X11/Xlocale.h>をインクルードする前にインクルードしてください。
- Motif アプリケーションでは、<X11/Xlocale.h>は自動的にインクルードされません。

- 次のコンパイル・フラグをオンにしてください。

```
/define=(X_LOCALE,X_WCHAR,_WCHAR_T,XLIB_XPG4_FUNCS)
```

#### 4.3.4 XSelectAsyncEvent ルーチンと XSelectAsyncInput ルーチン

##### *V1.1*

XSelectAsyncEvent ルーチンと XSelectAsyncInput ルーチンは、AST 引き渡し情報記憶用のメモリを割り当てます。このメモリは次のいくつかの方法で解放されます。

- ディスプレイをクローズ (XCloseDisplay) すると、そのディスプレイのすべてのウィンドウに対応する AST 引き渡し情報が解放されます。
- ウィンドウを破棄 (XDestroyWindow) すると、そのウィンドウ用の AST 引き渡し情報が解放されます。

サブウィンドウ用の AST 引き渡し情報は、XDestroyWindow によっては解放されません。

所定のウィンドウ内のすべてのイベント・タイプの AST 通知をオフにし、AST 引き渡し情報も解放したいときには、クライアント・アプリケーションは、event\_mask 引数に -1 (全ビット・セット) を指定し、ast\_routine 引数に 0 を指定して XSelectAsyncEvent ルーチンあるいは XSelectAsyncInput ルーチンを呼び出してください。

#### 4.3.5 コマンド・プロシージャが .PEN ファイルを作成

##### *V1.0*

Pascal プログラムが Xlib 用と Motif 用の環境ファイルを利用できるように、SYSS\$LIBRARY:DECW\$PEN\_BUILD.COM コマンド・プロシージャを実行する必要があります。このコマンド・プロシージャは、DECW \$XLIBDEF.PEN ファイルと DECW \$MOTIF.PEN ファイルを生成します。Pascal プログラムへのコンパ

イルには、提供されている.PAS ファイルよりも.PEN ファイルの方が高速となります。

#### 4.3.6 パラメータ/プロトコルのデータ・サイズの不適合

##### V1.0

いくつかの Xlib ルーチンはロングワードのパラメータを受け付けますが、サーバへ送信される X プロトコル・メッセージにはその全体は含められません。それぞれの場合で、Xlib ルーチンは、パラメータ値の最下位 16 ビットのみを送出します。これは、X プロトコル・メッセージ内のフィールド・サイズにより受ける制約です。

表 4-1 は、16 ビット値としてのみ送み出されるルーチンの名前とロングワード引数のリストです。

表 4-1 16 ビット値としてのみ送み出されるルーチンの名前と引数

ルーチン名	引数
XAllocColorCells/ALLOC_COLOR_CELLS	nplanes,npixels
XDrawArc/DRAW_ARC	x,y,width,height, angle1,angle2
XDrawLine/DRAW_LINE	x1,x2,x3,x4
XDrawPoint/DRAW_POINT	x,y
XDrawRectangle/DRAW_RECTANGLE	x,y,width,height
XDrawString/DRAW_STRING	x,y
XDrawString16/DRAW_STRING16	x,y
XDrawText/DRAW_TEXT	x,y
XDrawText16/DRAW_TEXT16	x,y
XFillArc/FILL_ARC	x,y,width, height,angle1,angle2
XFillRectangle/FILL_RECTANGLE	x,y,width,height

---

## 4.4 X Window System ツールキット (Xt)

この節は、X Window System ツールキット (Xt) に関するリリース・ノートです。

### 4.4.1 複合クラス拡張レコードの実行時警告

*V1.3*

X11R6.6 では、新しいブール値オプション (`allows_change_managed_set`) が `CompositeClassExtensionRec` に追加されました。このデータ構造体に変更された結果、以前のバージョンの `CompositeClassExtensionRec` でビルドされたアプリケーションでは、次のような警告メッセージが実行時に表示されることがあります。

```
X Toolkit Warning: widget class Calc has invalid CompositeClassExtension record.
```

このメッセージが表示されないようにするには、DECwindows Motif V1.3 に含まれているアップデートされた `CompositeP.h` ファイルを使用して、アプリケーションをビルドし直します。新しいオプションの値が適切かどうか確認してください。メモリがゼロに初期化された場合、以前と同じように動作します。初期化されていない場合の動作は予測できません。

### 4.4.2 XtOpenDisplay ルーチンと大文字/小文字の区別

*V1.2-6*

`XtOpenDisplay` のアプリケーション名が、コマンド・ラインに入力されたアプリケーション名を表す `argv[0]` からきている場合があります。

この場合、大文字/小文字の区別が保持されなければならない環境 (大文字/小文字の区別を有効にして ODS-5 システムを参照したり、ユーザ定義の `argv` リストを渡す場合など) では、問題になることがあります。

---

## 4.5 X Window System の拡張とプロトコル

この節は、ディスプレイ・サーバへの X Window System の拡張に関するリリース・ノートです。

### 4.5.1 EVI 拡張とカラーマップの競合

*V1.3*

利用可能なビジュアルの情報を、EVI (Extended Visual Information) 拡張を使用して要求している場合、DECwindows Motif ディスプレイ・サーバはカラーマップの競合情報を返しません。返されるデータは、競合が存在する場合でも、カラーマップの競合が存在しないことを必ず示しています。

### 4.5.2 Dead Mouse のサポート

*V1.3*

以前は AccessX 拡張で利用可能だった Dead Mouse 機能が、DECwindows Motif V1.3 では X キーボード拡張 (XKB) で利用可能な機能サブセットに組み込まれました。この機能は、Mouse Keys と呼ばれるようになりました。

DECwindows Motif の以前のバージョンでは Dead Mouse 機能は X サーバの一部でもあったため、XKB 拡張が有効になっていなくてもこれらの機能は利用できます。

### 4.5.3 AccessX 拡張のサポート終了

*V1.3*

AccessX キーボード拡張のサポートが削除されました。この拡張のすべての機能 (スティッキ・キーなど) は、X キーボード拡張 (XKB) で利用できます。XKB の詳細については、『*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha New Features*』を参照してください。

#### 4.5.4 セキュリティおよびアプリケーション・グループの拡張でグループがチェックされない問題

*V1.3*

セキュリティ (SECURITY) 拡張とアプリケーション・グループ (XC-APPGROUP) 拡張では、グループのチェックは実行されません。グループ ID を XSecurityGenerateAuthorization に渡すことはできますが、この ID はチェックされません。グループ ID が何であっても、承認されます。

#### 4.5.5 オープン中の ICE 接続からの watch プロシージャの削除

*V1.3*

ICE 接続がオープン状態の間は、ICE の watch プロシージャを削除しないでください。オープン中の接続に watch プロシージャがメモリを割り当てていた場合、このプロシージャを削除すると watch プロシージャへのコールバックが適切に行われないため、メモリを解放することができません。

#### 4.5.6 ICE 使用時の BAD\_LOCAL\_NODE エラー

*V1.3*

DECwindows Motif で実装していたオリジナルのトランスポートでは、ネットワーク・トランスポートとして LOCAL を使用した場合に、ノード指定を無視していました。ICE プロトコルでは、ノード名は必ず、値 0 か、システム名からなる文字列でなければなりません。ICE は LOCAL トランスポートを使用するため、ICE がノード指定をチェックしようとしたときに、BAD\_LOCAL\_NODE 警告メッセージが表示されます。

#### 4.5.7 SmsGenerateClientId が ID を生成しない

*V1.3*

DECnet アドレスと TCP/IP アドレスのどちらも割り当てられていないシステムでは、XSMP 要求の SmsGenerateClientId はクライアント ID を生成できません。

#### 4.5.8 拡張 include ファイルの使用法

*V1.2*

拡張 include ファイルを含むプログラムを正しくコンパイルするためには、C の include ディレクトリ検索リストに論理名 DECW\$INCLUDE を追加してください。

この論理名を追加するには、次のコマンドを入力します。

```
$ DEFINE DECC$USER_INCLUDE DECW$INCLUDE
```

---

### 4.6 X Window System 国際化ライブラリ (XNL)

この節では、XNL ライブラリについて説明します。

#### 4.6.1 xnl\_parsedatetime

*V1.2-5*

xnl\_parsedatetime (およびその VAX バインディング、XNLSPARSE\_DATE\_TIME) は、入力の引数 XmString s (構文解析される日付時刻) に 2 桁または 4 桁の年数を受け付けます。2 桁形式での有効な年数の値は 70 ~ 99 の範囲で、1970 ~ 1999 年を意味します。値 00 ~ 69 は無効です。2000 年以降は 4 桁形式が必須です。

## 4.6.2 xnl\_langinfo

*V1.2-5*

xnl\_langinfo (およびその VAX バインディング, XNLSLANGINFO) は, item 引数に D\_FMT または D\_T\_FMT を指定すると, 日付時刻フォーマット用の文字列を返します。下記のロケールで, この関数は %y を含むフォーマット文字列を返します。%y は 2 桁年数形式を意味するので, このフォーマット文字列は 2000 年以降は慎重に使用する必要があります。

- es\_ES Spanish
- fr\_BE French Belgium
- fr\_CA French Canada
- iw\_IL Hebrew
- no\_NO Norwegian

---

## 4.7 Motif に対する DECwindows 拡張 (DXm)

この節では, Motif ツールキットに対する DECwindows 拡張について説明します。

### 4.7.1 DXmNlayoutDirection リソース定数リストの訂正

*V1.2-3*

『DECwindows Extensions to Motif』の第 2 章の「DXmNlayoutDirection リソース」の節に, 次の定数がリストされています。

- DXmLAYOUT\_LEFT\_DOWN
- DXmLAYOUT\_LEFT\_UP
- DXmLAYOUT\_RIGHT\_DOWN
- DXmLAYOUT\_RIGHT\_UP

現在、次の定数は DXmNlayoutDirection リソース用に使用できないことに注意してください。

- DXmLAYOUT\_LEFT\_UP
- DXmLAYOUT\_RIGHT\_UP

また、表 2-1 の説明が誤っていました。表 2-1 は、定数 DXmLAYOUT\_LEFT\_DOWN および DXmLAYOUT\_RIGHT\_DOWN の関数への影響について説明したものです。

#### *V1.2*

『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 拡張機能説明書』の第 2.2 節の DXmChildren の説明で、「ルーチンを使用して widget\_list の長さを知ることができます。」と記述しています。

この記述は間違いです。この部分は「DXmChildren によって返されるウィジェット・リストの長さは DXmNumChildren ルーチンを使用して知ることができます。」という意味です。

### 4.7.2 DXmFormSpaceButtonsEqually の制限

#### *V1.1*

ウィジェットやガジェットが XmLabel または XmLabelGadget のいずれかのサブクラスを持っている場合は、DXmFormSpaceButtonsEqually (便宜ルーチン) がすべて平等にそのサイズとスペースを決定します。しかし、ウィジェットやガジェットが XmLabel や XmLabelGadget のサブクラスではない場合は、結果は不確定です。

### 4.7.3 水平方向のライブ・スクロールをサポートしていない SVN ウィジェット

#### *V1.0*

水平方向のライブ・スクロールは、SVN ウィジェットではサポートされていません。

---

## 4.8 アプリケーション・プログラミング

この節は、DECwindows Motif 環境用のアプリケーションの開発に関するリリース・ノートです。

### 4.8.1 CDA ビューアのプログラミング

この項では、CDA アプリケーションおよびランタイム・サービスに関するプログラミング情報を説明します。

#### 4.8.1.1 SYS\$LIBRARY:DDIF\$VIEWSHR.EXE のイメージ ident の修正 V1.3

DECwindows Motif V1.2-6 の SYS\$LIBRARY:DDIF\$VIEWSHR.EXE には、誤ったイメージ ident が含まれています。V1.2-6 のイメージにリンクされているプログラムはロードできず、SHRIDMISMATCH エラーが報告されます。この問題が修正され、イメージ ident は元の値に戻されました。

DECwindows Motif の V1.2-6 のイメージをリンクしているアプリケーションは、修正後のイメージと再度リンクする必要があります。この事項は、DDIF (Notes for OpenVMS への DECwindows インタフェースなど) の V1.1-3 互換バージョンにリンクしているイメージにのみ影響し、現在の DDIF\$VIEWSHR12 イメージを使用しているイメージには影響しません。

#### 4.8.1.2 スタイル・ガイドのフォールバックのメッセージ V1.2

ローカルのスタイル・ガイドが見つからない場合は、次のメッセージが表示されません。

STYGDEFBK, Fallback to nonlocale-specific style guide: *file-spec*

レベル: 通知

説明: ロケール固有のスタイル・ガイドが見つからなかったため、ロケール固有ではないバージョンのスタイル・ガイドが代わりに使用されます。

#### 4.8.1.3 CONVERT コマンドでの論理名の使用

##### V1.2

ドキュメント変換中に、論理名を使用して 1 次ドキュメントのディレクトリを指定し、ドキュメント・ファイルの拡張子を省略すると、相対ファイル指定を含む外部参照によって変換が失敗します。

これは、フロントエンド・コンバータが入力ファイルをオープンするにもかかわらず、バックエンド・コンバータがコンバータ処理オプションを調べるために発生します。コンバータ・ソフトウェアは、フロントエンド・コンバータが適用する省略時のファイル拡張子を予測できないため、OpenVMS ファイル・サービスを使用して論理名を解決し、実際のファイル指定を見つける必要があります。こうすれば、ディレクトリのオペランド解析ができ、相対指定を展開することができます。

変換が失敗するのは、外部参照が次のようなフォーマットになっている場合だけです。

```
sys$login:mydoc
```

この場合参照は解決されません。次の例のように、これ以外の場合は、参照はすべて解決されます。

```
sys$login:mydoc.doc  
disk$:[smith]mydoc  
disk$:[smith]mydoc.doc
```

#### 4.8.2 漢字端末エミュレータ・プログラミング

この項では、漢字端末エミュレータ・アプリケーションと実行時サービスのプログラミングに関する情報を説明します。

#### 4.8.2.1 DECCRA シーケンス

*V1.2*

漢字端末エミュレータでは、DECCRA (Copy Rectangular Area — 方形領域複写) シーケンスに対するサポートには制限があります。ページ全体を一度に複写する必要があり、複写元のページも複写先のページも現在のページでなければなりません (たとえば、画面外のページを別のページに複写することはできません)。

#### 4.8.2.2 DECLFKC シーケンス

*V1.2*

漢字端末エミュレータには F5 (Break) キーを再定義するためのユーザ・インタフェースがありません。したがって、変更するキーを選択するために“0” (all keys) を使用すると、DECLFKC (Local Function Key Control — ローカル・ファンクション・キー制御) シーケンスで F5 キーが再定義されます。

---

## 関連ドキュメントに関するリリース・ノート

この章では、DECwindows Motif ドキュメントの訂正について、簡単に説明しています。DECwindows Motif ドキュメント・セットへの追加や変更の完全なリストについては、*hp DECwindows Motif for hp OpenVMS Alpha Documentation Overview*を参照してください。

---

### 5.1 『New Desktop 使用概説書』

この節では、『New Desktop 使用概説書』の記載の誤りを訂正します。

#### 5.1.1 ファイル指定の訂正

*V1.2-5*

『New Desktop 使用概説書』のコマンド・プロシージャのファイル指定の記述に誤りがあります。同マニュアルの第 3.4.9 項の 5 段落で、ファイル指定は次のように記載されています。

「DECwindows Notes などの、DECwindows のオプション・アプリケーションは、情報を提供しないため自動再起動されない場合があります。その場合、`disk$:[user.DT]SESSIONETC.COM` のコマンド・プロシージャを使用して、自動起動されないアプリケーションを起動することができます。このプロシージャは、従来の DECwindows 環境では `DECWS$LOGIN.COM` プロシージャに相当します。」

正確な記述は次のとおりです。

`disk$:[user.DT.SESSIONS]SESSIONETC.COM`

---

## 5.2 『DECwindows Motif for OpenVMS Applications Guide』

この節では、『DECwindows Motif for OpenVMS Applications Guide』の記載の誤りを訂正します。

### 5.2.1 ロゴの変更例の訂正

*V1.2*

『DECwindows Motif for OpenVMS Applications Guide』の「Changing Your Logo」に記載されている例は間違っています。手順 1 に出てくる次のコード例を変更してください。

```
$ COPY SYS$COMMON:[SYSMGR]DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.TEMPLATE -  
_ $ SYS$SPECIFIC:[SYSMANAGER]DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM/LOG
```

正しいコード例は、次のとおりです。

```
$ COPY SYS$COMMON:[SYSMGR]DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.TEMPLATE -  
_ $ SYS$SPECIFIC:[SYSMGR]DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM/LOG
```

---

## 5.3 『Using DECwindows Motif for OpenVMS』

この節では、『Using DECwindows Motif for OpenVMS』の訂正および補足事項について説明します。

### 5.3.1 [印刷終了]オプションの明確化

*V1.2-3*

『Using DECwindows Motif for OpenVMS』の漢字端末エミュレータに関する章の「印刷情報」の節では、[印刷]メニューについての情報を提供しています。「印刷終了」の節に記載されている情報をさらに理解するために、次のことに注意してください。

[印刷]メニューの[印刷終了]オプションを選択した場合、プリント・ジョブをクローズし、自動印刷モードを通常印刷モードに戻します。

### 5.3.2 アプリケーション・メニュー項目へのターゲット画面オプションの追加についての例の訂正

*V1.2*

『Using DECwindows Motif for OpenVMS』の「Adding Target Screen Options to Application Menu Items」に記述されている例は間違っています。最初に出てくる次の行を削除してください。

```
$ select_qualifiers:
```

---

## 5.4 『DECwindows Motif for OpenVMS Guide to Non-C Bindings』

この節では、『DECwindows Motif for OpenVMS Guide to Non-C Bindings』への補足と訂正を行います。

### 5.4.1 GET\_CHAR\_STRUCT 関数へのアクセスについての訂正

*V1.2-3*

『DECwindows Motif for OpenVMS Guide to Non-C Bindings』では、XLIB GET\_CHAR\_STRUCT 関数の char\_struct 引数に関するアクセスの記述が間違っていました。正しいアクセスは write (書き込み) です。

---

## 5.5 『DECwindows Motif Guide to Application Programming』

この節では、『DECwindows Motif Guide to Application Programming』への訂正について説明します。

## 5.5.1 OpenVMS DECburger サンプル・アプリケーションの UIL ソース・コードの位置

V1.2-3

『DECwindows Motif Guide to Application Programming』の第4章の「UIL による Help ウィジェットの作成」の節の説明では、OpenVMS DECburger アプリケーションの完全な UIL ソース・コードが OpenVMS システムの DECW\$EXAMPLES に含まれていることを明確に記述していません。

## 5.5.2 Help ウィジェットのドキュメントの訂正

V1.2-3

『DECwindows Motif Guide to Application Programming』には、次の訂正事項があります。

- 例 4-7 の「Help ウィジェットの實現 — C 言語モジュール」というタイトルには、次のように DECBURGER.C を追加してください。

「Help ウィジェットの實現 — C 言語モジュール (DECburger.C)」

- 例 4-8 のタイトルは次のように訂正してください。

「Help ウィジェットの實現 — コールバック (DECburger.C 続き)」

- 第 4.10 節の「ツールキットの Help ウィジェット作成ルーチンの使用」というタイトルは、この節の内容を正しく反映していません。このタイトルは、「UIL による Help ウィジェットの作成」と訂正してください。
- この節の例 4-9 「ツールキット・ルーチンによる Help ウィジェットの作成」についての説明は、不完全です。次の記述が正しい説明です。
- 「例 4-9 のコードは DECburger.C に入っていますが、コメント化されているため、サンプル・プログラムのビルド時にはコンパイルされません。」

この例は不完全です。例 4-7 および例 4-8 のいくつかのセクションが必要です。

---

## 日本語機能に関するリリース・ノート

この章では、日本語機能に関する新規機能および制限事項について説明します。

---

### 6.1 日本語 DECwindows Motif V1.3 の新機能

#### 6.1.1 X Window System Version 11 Release 6.6 のサポート

日本語 DECwindows Motif V1.3 は X Window System の最新の仕様である X Window System Version 11 Release 6.6 (X11R6.6) をサポートします。従来のバージョンの日本語 DECwindows Motif では X Window System Version 11 Release 5 (X11R5) をサポートしていました。

本バージョンの日本語 DECwindows Motif では XOpenOM(), XCreateOC(), XtOpenApplication() といった、X Window System Version 11 Release 6 (X11R6) 以降で新たに追加されたライブラリ関数を使用して日本語アプリケーションを開発・実行することができます。

一方 X11R6.6 は X11R5 からの上位互換が保たれているため、従来のバージョンの日本語 DECwindows Motif で開発した日本語アプリケーションは、再コンパイル・再リンクすることなく、そのまま本バージョンの日本語 DECwindows Motif 上で動作します。

#### 6.1.2 DEC 日本語入力サーバのアップデート

本バージョンでは DEC 日本語入力サーバ DECW\$JIM がアップデートされています。

- 国際化テキスト入力 (IM) プロトコルとして X11R6 標準の R6 XIM プロトコルをサポートします。従来の R5 DECXim プロトコルも引き続きサポートします。

- Off The Spot 入力スタイルのサポートが追加されました。
- リソースが変更されました。
- GUI が変更されました。
- 日本語入力時のキー定義は変更ありません。

詳しくは『日本語機能説明書』を参照してください。

### 6.1.3 日本語入力プロトコル

日本語アプリケーションは X ライブラリの国際化機能を使用して日本語入力サーバとの通信を行います。本バージョンの X ライブラリはテキスト入力 (IM) プロトコルとして X11R6 標準の R6 XIM プロトコルと Ximp IM プロトコルをサポートします。

これに対し本バージョンの DEC 日本語入力サーバは R6 XIM プロトコルと R5 DECXim プロトコルをサポートします。また WX3 for OpenVMS 日本語入力サーバは Ximp プロトコルをサポートします。

したがって、日本語アプリケーションは DEC 日本語入力サーバとは R6 XIM プロトコルで、WX3 for OpenVMS 日本語入力サーバとは Ximp IM プロトコルでそれぞれ通信します。

なお、日本語アプリケーションが日本語入力サーバとの接続を試みる場合、最初に R6 XIM プロトコルをサポートする日本語入力サーバとの接続を試み、続いて Ximp IM プロトコルをサポートする日本語入力サーバとの接続を試みます。従来のバージョンでは Ximp IM プロトコルを使用するには論理名 DECWSXVENDORLAYER の設定が必要でしたが、本バージョンからは必要ありません。

WX3 for OpenVMS 日本語入力サーバの詳細については、『WX3 日本語入力システム for OpenVMS (Alpha) ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

#### 6.1.4 ja\_JP.deckanji2000 ロケールのサポート

本バージョンから ja\_JP.deckanji2000 日本語ロケールが新たにサポートされました。本バージョンでサポートする日本語ロケールは次のとおりです。

```
ja_JP
ja_JP.deckanji
ja_JP.deckanji2000
ja_JP.eucJP
ja_JP.sdeckanji
```

#### 6.1.5 多国語対応

本バージョンの DECwindows Motif はひとつの DECwindows Motif 環境で日本語と中国語といった複数の言語を同時にサポートする多国語サポートに対応しています。

##### 6.1.5.1 キットの構成

多国語対応のため、本バージョンから日本語 DECwindows Motif は国際化キットと日本語キットという2つのキットで構成されます。国際化キットには各国語共通部分が、日本語キットには日本語固有部分が含まれています。

他の言語の DECwindows Motif も同様の構成となります。たとえば、中国語 DECwindows Motif は国際化キットと中国語キットで構成されます。

ひとつの国際化キット上に複数の言語キットをインストールすることができます。これによって多国語環境を実現することができます。

本バージョンの日本語 DECwindows Motif は次の手順でインストールします。

1. 標準版のインストール
2. 国際化キットのインストール
3. 日本語キットのインストール

詳しくは『インストレーション・ガイド』を参照してください。

### 6.1.5.2 システムのデフォルト言語

多国語環境では最後にインストールされた言語がシステムのデフォルト言語になります。以下の例では、最後にインストールされた中国語がデフォルト言語です。

1. 標準版のインストール
2. 国際化キットのインストール
3. 日本語キットのインストール
4. 中国語キットのインストール

インストール後にシステムのデフォルト言語を変更するには、コマンド・プロシージャ SYSSMANAGER:DECW\$SET\_LANG.COM を特権アカウントで実行します。

```
$ @SYSSMANAGER:DECW$SET_LANG.COM <言語>
```

<言語>には次のいずれかを指定します。

値	言語
JDECW	日本語
KDECW	韓国語
CDECW	中国語 (簡体字)
TDECW	中国語 (繁体字)

---

## 6.2 日本語 DECwindows Motif V1.2-6 の新機能

### 6.2.1 日本語 DECwindows Motif キットの PCSI 化

#### *V1.2-6*

日本語 DECwindows Motif V1.2-6 のキットは、従来のセーブセット形式から、標準版 Compaq OpenVMS Alpha の POLYCENTER ソフトウェア・インストール・ユーティリティ (PCSI) 形式のキットへ移行しました。これにより、より迅速かつ分かり易いインストール環境を提供します。

## 6.2.2 既知の問題点の解決

### V1.2-6

日本語 DECwindows Motif V1.2-6 では、次の問題点が解決されています。

#### 1. 日本語入力サーバ (DECWSJIM) の問題

- IMSPROFILE 論理名が不正な値に定義されたときに異常終了する問題
- TARO モードが正常に動作しない問題
- Over the spot 時の動作の改善

#### 2. 日本語キーマップの問題

LK411-AJ 日本語キーボードおよびキーマップ使用時に "カタカナ/ひらがな" キーが機能しない問題。

#### 3. 漢字端末エミュレータの問題

マウスで漢字端末エミュレータ・ウィンドウをクリックまたはドラッグするとウィンドウが縮む問題。

この問題を解決するため、以下のファイルを変更しました。従来通りの漢字端末エミュレータの環境を使用されたい方はこのファイルの autoResizeTerminal の前のコメントを削除してください。

```
DECW$SYSTEM_DEFAULTS_JA_JP:DECW$TERMINAL.DAT
```

---

## 6.3 日本語 DECwindows Motif V1.2-5A の新機能

### 6.3.1 日本語ファイル名サポート

#### V1.2-5A

日本語 DECwindows Motif V1.2-5A では、日本語 OpenVMS V7.2 から提供されている日本語ファイル名サポート機能を使用することによって日本語ファイル名を使用することができます。

以下のアプリケーションで日本語ファイル名を使用することができます。

- カレンダー
- テキスト・エディタ
- アイコン・エディタ
- メール
- ブックリーダー
- CDA ビューア
- カード管理
- ノートパッド

日本語 Motif V1.2-5A では、ODS-5 ディスク上で最長 40 文字の日本語ファイル名を使用することができます。日本語ファイル名の使用できる長さは、ファイルが存在するディレクトリの長さにも依存します。制限を超えた場合、ファイル名はファイル ID、ディレクトリ ID 形式に変換されます。

---

#### 注意

---

日本語ファイル名として使用できる文字は、ASCII 文字、JIS X0208-1983 漢字です。半角カナは使用することができません。半角カナを使用した場合、予期せぬ結果が生じる場合があります。

---

日本語 Motif V1.2-5A の日本語ファイル名サポート機能は、日本語 OpenVMS V7.2 以降で提供されている機能を使用しています。したがって、日本語 OpenVMS V7.2 より前の OS 上にインストールされた場合、日本語 Motif 1.2-5A のアプリケーションで日本語ファイル名を使用することはできません。

アプリケーションから RMS を使用してファイルの読み込みあるいは書き込みを行う場合、SDECKANJI コードでファイル名の指定あるいは取得を行うことができます。ウィンドウ・アプリケーションのファイル・セレクション等で、日本語ファイル名を使用することができます。

使用する場合は以下の論理名定義を行います。

```
$ DEFINE /SYSTEM JDECW$RMS_ENCODING SDECKANJI
```

また、使用を中止する場合は以下の論理名定義を行います。

```
$ DEFINE /SYSTEM JDECW$RMS_ENCODING DEFAULT
```

あるいは

```
$ DEASSIGN /SYSTEM JDECW$RMS_ENCODING
```

---

## 6.4 制限事項

この節では、日本語機能の制限事項について説明します。

### 6.4.1 ノートパッド

#### *VI.3*

ノートパッドには以下の制限事項があります。

- 128 文字以上の全角文字列を一度に入力すると確定文字列が欠けることがあります。
- ノートパッド上で Shift/Remove キーを使用してテキストを切り抜いた場合、貼り付け操作でそのテキストを貼り付けることができません。切り抜いたテキストを貼り付ける場合は、「編集」メニューから「切り抜き」を選択して切り抜き操作を行なってください。

なお Ctrl/Insert キーでテキストを複製した場合は、貼り付け操作で正しくテキストを貼り付けることができます。

## 6.4.2 スタイル・マネージャ

### V1.3

低解像度のディスプレイを使用している場合、大きいフォントを設定するとセキュリティのアイコンが消えてしまうことがあります。

セキュリティの設定を行う場合は、一旦小さいフォントを設定しアイコンを表示させてください。

## 6.4.3 セッション・マネージャ

### V1.3

DEC 漢字 2000 ロケールを選択した場合、以下のメニューを選択して表示されるダイアログ・ボックス内の選択リストの項目が正しく表示されません。

- 「セッション」 「自動起動」
- 「セッション」 「メニュー」

この場合、一旦他の日本語ロケールでログインし、これらの項目を設定してください。

## 6.4.4 CStext ウィジェット

### V1.3

CStext ウィジェットに値を設定 (SetValue) すると、メモリ・リークが発生することがあります。

この問題は将来のリリースで解決される予定です。

## 6.4.5 CSWB (Compaq Secure Web Browser) の日本語入力サポート

### V1.3

CSWB の日本語入力には以下の制限事項があります。

- CSWB における標準の入力スタイルは on-the-spot になっていますが、on-the-spot では日本語入力が正常に行われません。

この場合、入力スタイルを over-the-spot に設定することで日本語の入力が可能となります。

CSWB の入力スタイルの設定方法については以下の Web ページを参照してください。

[http://openvms.compaq.co.jp/products/internet/mozilla/jp\\_input.html](http://openvms.compaq.co.jp/products/internet/mozilla/jp_input.html)

- 設定されている入力スタイルに関係なく、CSWB の起動時に root-preedit スタイルの前編集ウィンドウが表示されます。ただしこのウィンドウが表示されても、over-the-spot あるいは on-the-spot を使用するよう設定されている場合は、それらの入力スタイルで正しく入力が行なわれます。

## 6.4.6 日本語 EVE の DECwindows インタフェース

### V1.3

日本語 EVE の DECwindows インタフェースを使用する際には以下の点に注意してください。

- コマンドラインから `/interface=decw` を指定して日本語 EVE を起動した場合、警告メッセージが表示されますが、エディタの使用に関しては特に問題ありません。
- 日本語 EVE を起動したとき、メニューの日本語表示が文字化けすることがあります。

この問題が発生した場合には、以下の手順でフォントサイズを設定し直すことにより回避することができます。

1. スタイル・マネージャを起動し、現在選択しているものとは別のフォントサイズを選んで、了解ボタンを押す。
2. 再びフォントを選択して、元々設定されていたフォントサイズを選んで了解ボタンを押す。

#### 6.4.7 日本語ファイル名使用時の制限

##### *VI.2-5A*

- New Desktop のファイル・マネージャでは、日本語ファイル名を使用することはできません。また、日本語ファイル名は表示されません。
- DECwindows アプリケーションのファイルビューでは、日本語ファイル名の表示はできますが、削除、複写、比較等の操作はできません。
- DECwindows アプリケーションのペイントでは、日本語ファイル名は使用できません。使用した場合、予期せぬ結果が起こる場合があります。
- DECwindows アプリケーションの日本語 EVE をコントロール・パネルから起動した場合、日本語ファイル名を使用することはできません。ただし、次のコマンドを使用して起動することによって、日本語ファイル名を使用することができます。

```
$ mcr jsy$control set rms /filename=sdeckanji  
$ edit /xtpu /interface=decwindows <filename>
```

---

## OSF/Motif リリース 1.2 リリース・ノート

本リリース・ノートは、OSF/Motif Release Note for Release 1.2 の第 3 章を基にしており、OSF/Motif アプリケーションを開発するプログラマ向けのその他いくつかの注意事項も記載しています。注意事項の大部分は OSF/Motif リリース 1.2 への変更についての説明です。最初の 2 つの注意事項では、性能向上と上位の互換性について説明します。

本リリース・ノートは、日本語 HP DECwindows Motif for HP OpenVMS Alpha 製品で現在提供されている OSF/Motif ソフトウェアに対応しています。

---

### A.1 性能向上

Open Software Foundation 社の目標は、OSF/Motif リリース 1.2 の性能を可能な限り向上させ、性能を最低でも OSF/Motif リリース 1.1 以下にはさせないことです。

性能テストが以下の 3 つの分野で行なわれました。

- エンドユーザに明白な部分
- データスペースの使用量
- メモリの漏れ

ダイアログ・ボックスやポップアップ・メニューの表示や消去のような、ユーザがすぐ気付くイベントの性能は、OSF/Motif リリース 1.1.4 の性能と匹敵するかあるいはそれ以上になっています。大量のテストを行なった結果、スクロール・テキスト領域内のスクロールが大幅に改善されています。

データ・スペースの使用量については、OSF/Motif ツールキット全体を通じて、特にテキスト・ウィジェットで改善されています。一部のケースでは、データ・スペース使用量は 40%も節減されています。またテキスト・ウィジェットでテキストに使われるメモリは、テキストがより少量のテキストに置き換えられたときは、正しく減らされるようになりました。

メモリ・リークは、ツールキット全部のウィジェットで生成と破壊を複数回行なっても、最低限に抑えられるようになりました。Motif テストでは、わずかなメモリ・リークがありましたが、OSF では、この程度の量のメモリは起動オーバーヘッドの一部として必要なもので、本当のメモリ・リークではないと考えています。

しかし OSF では実際に若干のメモリ・リークを発見しており、将来のリリースでは修正する予定です。例えば、File Selection Box、Command、Drawn Button の 3 つのウィジェットに、約 500 バイトのメモリ・リークがあります。

---

## A.2 下位の互換性

OSF では、OSF/Motif リリース 1.2 のリンク時間の互換性、表示と動作の面での互換性についてテストしました。

### A.2.1 表示と動作の面での互換性

OSF では、自動化されたテストを行って、現在の表示と OSF/Motif リリース 1.1.4 ライブラリを使用して記録されたものとを比較しました。リリース 1.2 とリリース 1.1.4 バージョンとの間の違いが解明されてから、表示はリリース 1.2 表示を使用して記録され、この新しく記録された表示がその後のテストで使用されました。

OSF の見解では Motif リリース 1.2 は、表示的にも動作的にもリリース 1.1.4 との互換性があります。ただし OSF は、Traversal and Geometry Management (移動・外形管理) アルゴリズムに大幅な改善を加えたため、両バージョンに違いができています。こうした違いには、以前のリリースでの欠陥を正そうとする努力が反映されています。

このような新しい改善方針のひとつの例として、アプリケーションのマネージャ・ウィジェットの初期サイズ設定が、ツールキットで完全なものになっていることがあげられます。OSF/Motif リリース 1.1 では、アプリケーションがマネージャ・ウィジェットのために初期サイズを設定しましたが、実際にはこのサイズを使用しませんでした。現在のリリース 1.2 では、Motif はこのサイズ設定を使い、これに対応して初期レイアウトが変更されるようになっています。

---

## A.3 OSF/Motif リリース 1.2 の変更と新機能

この節では、OSF が OSF/Motif リリース 1.2 に加えた変更と新機能について要約します。変更についてさらに詳しくは、Motif のリファレンス・ページと、下記の Motif リリース 1.2 改訂版を参照してください。

- 『OSF/Motif スタイル・ガイド』
- 『OSF/Motif プログラマーズ・ガイド』

以降の各項では、OSF/Motif リリース 1.2 で改善された点について説明します。

### A.3.1 ツールキットの全般的変更

この項では、OSF/Motif リリース 1.2 ツールキット全体に加えられた変更について説明します。

#### A.3.1.1 組み込みファイルの変更

OSF/Motif リリース 1.1 にあった下記の各ヘッダ・ファイルは、リリース 1.2 では廃止されています。

ExtObject.h  
Traversal.h  
VaSimple.h  
VendorE.h  
VendorEP.h

新しい共用ヘッダ・ファイルXmAll.hが OSF/Motif リリース 1.2 に加えられています。このヘッダ・ファイルは、すべてのドキュメント化ヘッダ・ファイルを含みません。

### A.3.2 XT 変換における変更

XT 変換コードの問題を解決した結果 (Patch 25 for X11 R5), Xt における変換は、現在では厳密に処理されて、もう以前のように見込みによる一致を受け付けません。この変更により、QATS および Motif VTS テスト・スーツの動作が変更されて、キーパッドで定義されている矢印キーがあるような特定のキーボードに対して、誤った仮定をするようになりました。他の Motif アプリケーションも同じような影響を受けることがあります。

問題となるキーについてバインディングを再定義するファイルを作成し、そのファイルを xmodmap ユーティリティに渡すことにより、この問題を回避することができます。

次の例は、矢印キーに一致するキーパッド・キー用のバインディングを変更して、キーパッドの数字ではなく、矢印キーだけを生成するようにします。この新しい定義を使用すると、アプリケーションは矢印キーとともに修飾子を使用できるようになります。

```
!  
! Always force:  
! KP_2 = Down  
! KP_8 = Up  
! KP_4 = Left  
! KP_6 = Right  
keycode 120 = Down  
keycode 76 = Up  
keycode 98 = Left  
keycode 100 = Right
```

### A.3.3 ANSI C 準拠

caddr\_tへの参照がすべてXtPointerに変更されました。この変更は、caddr\_tを参照するすべてのコールバック・ルーチンやその他のルーチンに影響します。OSFがこの変更をしたのは、OSF/Motif リリース 1.2 が、ANSI C 仕様に準拠するようにするためです。

### A.3.4 表示と画面特有のデータ

Motif には、各表示ごとにデータとリソースをサポートするXmDisplayオブジェクトが加わりました。また各画面ごとにデータとリソースをサポートするXmScreenオブジェクトも加えられています。

### A.3.5 ドラッグ・ドロップ

OSF/Motif リリース 1.2 では、データ交換用に「ドラッグ・ドロップ」メタファーをサポートしており、「ドラッグ・ドロップ」仕様はフルに実現されています。「ドラッグ・ドロップ」インタフェースについては、リリース 1.2 バージョンの『OSF/Motif プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

---

#### 注意

---

ポップアップ・メニューをポップアップさせるためにBtn2を使用すると、「ドラッグ・ドロップ」は正しく機能しません。この場合、ドラッグ・ドロップを無効にしなければなりません。

---

### A.3.6 「ティア・オフ」メニュー

「ティア・オフ」メニューを使用すると、ユーザは、表示領域にメニューを保留しておいて次の選択を行うことができます。個々の tear できる (引きはがせる) メニュー枠が「ティア・オフ」ボタンとなっています。「ティア・オフ」ボタンでマウスのドラッグ・ボタンを押すと枠が引きはがされてドラッグでき、マウスのドラッグ・ボタンを離れた場所に設置できます。ウィンドウ・マネージャは、「ティア・オフ」メニュー枠にメニュー・ボタンおよびタイトルを付けます。ティア・オフさ

れたメニューのウィンドウ枠へのフォーカスの移動は、標準的なウィンドウ・マネージャの場合と同様です。

ティア・オフ動作は、XmNtearOffModelリソースを、XmTEAR\_OFF\_ENABLEDに設定することで可能となります (省略時設定はXmTEAR\_OFF\_DISABLED)。

XmNtearOffModelによってあらかじめ登録されているリソース・コンバータがないことに注意してください。ティア・オフ機能をリソース・データベースを通じてオンにできるよう、アプリケーションは、XmRepTypeInstallTearOffModelConverter機能を使用して、XmNtearOffModelリソース用のアプリケーション自身のリソース・コンバータを登録しなければなりません。

コンバータが自動的にインストールされない理由は、メニュー内の項目の感度を動的に設定するために、多くのアプリケーションがマップやカスケードするコールバックを使用しているからです。ただし「ティア・オフ」メニューがマップされると、他のアプリケーションの状態の変更を反映するよう、メニュー項目の感度を直ちに変更しなければなりません。既存のアプリケーションが、このようにメニュー項目の感度を変更することはないでしょう。このため、メニューをティア・オフできるようにすると予期しない時に機能がオンとなることがあります。ユーザがこれらのメニュー項目のひとつをアクティブ化すると、アプリケーションがクラッシュしたり、不変データが損なわれることもあります。

### A.3.7 非依存表示

Motif では、構成要素がユーザからの入力に応答できるかどうかを示す表示が用意されています。以前の Motif リリースではラベルやボタンがこの動作をしていました。OSF/Motif リリース 1.2 ではこの動作は次のウィジェットに拡大されています。

```
XmArrowButton  
XmList  
XmScrollBar  
XmText  
XmTextField
```

### A.3.8 他の表示の変更

OSF/Motif リリース 1.2 では次の表示が変更されています。

- いくつかのピクセルの 3 次元斜面表現が変えられています。
- カラー生成ルーチンが若干変更されています。特に、新しいXmScreenオブジェクトには、省略時設定のカラー生成を調整できるようにするリソースが入っています。しきい値用の省略時の値の一部が、カラー・モニター上でよりコントラストを出すために調整されています。
- Motif は、List ウィジェットにフォーカスがあり、現在キーボード項目が見えないとき、List 内のすべての項目を囲む位置カーソルを加えています。
- 外形管理の調整のため、レイアウトが多少異なっています。

### A.3.9 フレーム用のタイトル

OSF/Motif リリース 1.2 では、Frame ウィジェットで Title ウィジェットを指定できます。リリース 1.2 には、Frame 内のタイトルの位置と配置の指定のための次の新しい制約リソースが加えられています。

```
XmNchildHorizontalAlignment  
XmNchildHorizontalSpacing  
XmNchildType  
XmNchildVerticalAlignment
```

### A.3.10 警告音

VendorShell の新しいリソースXmNaudibleWarningでは、警告メッセージに音をつけるかどうか指定できます。Text ウィジェットが、XmNaudibleWarningの値から、このリソース用の値を決定します。

### A.3.11 色の改良

次の3つのリソースがXmScreenウィジェットに加えられました。これはユーザが、省略時設定の背景色および影計算のためのしきい値を指定できるようにするためです。

```
XmNlightThreshold  
XmNdarkThreshold  
XmNforegroundThreshold
```

Motif には、指定のウィジェットの背景その他の色を変更する、XmChangeColor機能が加えられています。

### A.3.12 ベース行の位置合せ

Motif は、ベース行の位置合せ用の2つの機能を加えました。XmWidgetGetBaselines機能は、ウィジェットのテキスト・ベース行の位置を決定します。またXmWidgetGetDisplayRectは、ウィジェットの文字列用の境界ボックスのサイズと位置を決定します。

### A.3.13 拡大移動セット

OSF/Motif リリース 1.2 で、キーボードを使用した移動 (traverse) をサポートするウィジェットの数が増えました。例えばタブ・グループ内でユーザは、入れ子になったタブ・グループに含まれず、フォーカスを受ける資格を持つすべての派生制御に対して、たとえそれが直接の「子」ではない場合でも、矢印キーを使用して移動できるようになりました。

### A.3.14 2次元のメニュー内の移動

OSF/Motif リリース 1.2 では、左右、上下方向の移動矢印がメニュー枠の内部で動き回れるようになりました。上下方向の矢印キーがカラムの間をラップします。左右方向の矢印キーは、メニュー枠でカラムの右端かまたは左端で押されると、それぞれ前かまたは次のメニュー枠を表示します。

### A.3.15 入力フォーカス

OSF/Motif リリース 1.2 は、Manager クラスにXmNinitialFocusリソースを加えました。このリソースは、入力フォーカスを受ける最初のウィジェットを指定します。このリソースではウィジェットのみを指定でき、ポップアップメニュー、メニュー・バー、オプション・メニュー、プルダウンメニューについてはすべて無視されます。

### A.3.16 移動アクセス機能

OSF/Motif リリース 1.2 は、キーボードによる移動との対話サポートを向上するために次の新しい機能を加えています。

```
XmGetFocusWidget  
XmGetTabGroup  
XmGetVisibility  
XmIsTraversable  
XmIsVisible
```

次のことを行なうためにXmTrackingLocate機能が変更されました。

- ボタン押しだけでなくすべてのイベントをフィールドする。
- すべてのキーストロークまたはボタン押しで戻す。
- 非依存ウィジェットのために呼び出される。

さらに、XmTrackingEvent機能が加えられました。この機能は、X イベントに対してポインタを戻すこと以外は、XmTrackingLocateに類似しています。

### A.3.17 仮想キー

OSF/Motif リリース 1.2 では、XmTranslateKey機能を加えています。これによってアプリケーションは、省略時XtKeyProcをオーバーライドして Motif 仮想キーを扱うことができます。

Motif は、次の 2 つの新しい仮想keysymsを定義しています。

```
osfPageLeft
osfPageRight
```

これらの新しい仮想キーを使用するには、`/usr/lib/X11`に X11 リリース 5 XKeysymDBをインストールしておかなければなりません。インストールされていない場合は、アプリケーション起動時に警告メッセージが出ます。XKeysymDBファイルに次の情報を指定してください。

```
osfPageLeft      :1004FF40
osfPageUp        :1004FF41
osfPageDown      :1004FF42
osfPageRight     :1004FF43
```

OSF/Motif スタイル・ガイドに従うよう、`osfMenu` の省略時バインディングが、`<key>F4`から`Shift<key>F10`に変更されています。

X11 リリース 5 では、XKeysymDBファイル中の HP keysymsは、接頭語 `hp` をつけています。しかしこの接頭語は、`/bindings`ディレクトリの HP バインディング・ファイルには反映されません。X11 リリース 5 XKeysymDBファイルを使用している場合には、アプリケーション起動時に警告メッセージがでることがあります。こうした警告メッセージを取り除くためには、次のようにファイルの該当する行に接頭語`hp`を加えます。

```
osfDelete :          <key>hpDeleteChar
osfInsert :          <key>hpInsertChar
osfPrimaryPaste :    <key>hpInsertLine
osfQuickPaste :      <key>hpDeleteLine
```

OSF/Motif リリース 1.2 には、Motif アプリケーションが使用する仮想バインディングを設定する新しいクライアント`xmbind`があります。仮想バインディングは、Motif ウィンドウ・マネージャ (MWM) 起動時に自動的に設定されるため、`xmbind`を使用する必要があるのは MWM が使われてない場合か、または MWM を再起動しないで仮想バインディングを変更する必要がある場合だけです。

現在では仮想バインディングは、個々のベンダによって指定できるようになりました。`.motifbind`ファイルがホーム・ディレクトリにないときは、`xmbind.alias`ファイルを使用して、サーバ・ベンダ名からバインディング・ファイルへマッピングを提供できます。ユーザのベンダ・バインディングとシステム全体のベンダ・バインディングも設定することもできます。

### A.3.18 リソース管理

OSF/Motif リリース 1.2 には、表現タイプ管理用の次のような新しい機能があります。

```
XmRepTypeRegister  
XmRepTypeAddReverse  
XmRepTypeValidValue  
XmRepTypeGetRegistered  
XmRepTypeGetId  
XmRepTypeGetNameList  
XmRepTypeGetRecord
```

以上の機能は、列挙された値を使用する新しいリソース・コンバータの定義をした開発者にとって便利なものです。

### A.3.19 CUA および Windows 準拠の変更

OSF/Motif リリース 1.2 では、Return キーや`osfActivate`にバインドされているキー (通常は数字キーパッド上の Enter キー) を使用しても、メニューの外にあるボタンをアクティブ化できなくなりました。例えば、このようなキーを押しても、「オプション」メニューをポップアップしたり、ダイアログ・ボックスの切り替えボタンをアクティブ化したりしなくなりました。

アプリケーションに`XmBulletinBoard`に対応した省略時設定ボタンがある場合は、フォーカスが`XmBulletinBoard`にあるときに、Return キー (複数行`XmText`で以外)、Ctrl/Return キー、または`osfActivate`にバインドされたキーを押すことによって、省略時設定ボタンをアクティブ化できるようになりました。

---

## A.4 特定ウィジェットに関する変更と改善

この節では、OSF/Motif リリース 1.2 で行なわれた特定のウィジェットに対する変更について要約します。

### A.4.1 XmClipboard

OSF は、XmClipboard機能パラメータにいくつかの修正を加えました。これらの変更は、Motif の以前のリリースとのバイナリ互換性があります。ただしアプリケーション再コンパイルの際に、警告メッセージがでることがあります。この修正では、(char \*)がXtPointerに、intがlongに、そして(int \*)が(long \*)にそれぞれ変更されました。この修正によって、次の関連機能が影響を受けます。

- XmClipboardCopy
- XmClipboardCopyByName
- XmClipboardInquireCount
- XmClipboardInquireFormat
- XmClipboardRegisterFormat
- XmClipboardRetrieve
- XmClipboardStartCopy
- XmClipboardWithdrawFormat

### A.4.2 XmCommand

OSF/Motif リリース 1.2 で、XmCommandGetChildがXmDIALOG\_WORK\_AREAを子引数用の値として受け入れるようにするために、XmCommandGetChildが修正されました。

### A.4.3 XmList

リスト管理能力を高めるために、OSF/Motif リリース 1.2 に次の新しい機能が加えられました。

- XmListAddItemsUnselected
- XmListDeletePositions
- XmListGetKbdItemPos
- XmListIsPosSelected
- XmListPosToBounds
- XmListReplaceItemsUnselected
- XmListReplaceItemsPosUnselected
- XmListReplacePositions
- XmListSetKbdItemPos
- XmListUpdateSelectedList
- XmListYToPos

XmList ウィジェットに次の新しい翻訳が加わりました。

- <Copy>  
選択を clipboard にコピーします。

XmList に新しい動作が加わりました。

- ListScrollCursorVertically()  
入力率または y ポジションに基づいて、カーソルを縦にスクロールします。

---

#### 注意

---

OSF/Motif リリース 1.2 では、この動作に誤って ListScrollCursorVisible と名前が付けられましたが、今後の Motif のリリースでは訂正されます。

---

XmNvisibleItemCount リソースは、省略時の値が動的で、かつ項目カウントと高さに基づくよう修正されています。

OSF/Motif リリース 1.2 で、リストのselectedItemsおよびselectedItemCountの各リソースがリソース・ファイルで設定されると、位置カーソルがselectedItemsリストの最初の項目ではなく、最後の項目の上に現われます。

#### A.4.4 XmMessageBox

OSF/Motif リリース 1.2 では、MessageBoxは、MenuBar 1つ、作業領域 1つ、そして複数の子PushButtonの追加をサポートしています。

新しいダイアログ・タイプXmDIALOG\_TEMPLATEは、Separator 1つだけを含むMessageBoxを生成します。アプリケーションが追加の子を用意します。

XmCreateTemplateDialogは、DialogShell内にXmDIALOG\_TEMPLATE XmMessageBoxを生成します。

#### A.4.5 XmRowColumn とメニュー

OSF/Motif リリース 1.2 では、縦位置合せスタイルを指定する新しいリソースXmNentryVerticalAlignmentが加わっています。

もう 1 つのリソースXmNunpostBehaviorが、XmScreenオブジェクトに加えられています。このリソースを設定すれば、メニューを消去した後の外部ボタン・イベントのリプレイをオンにできます。

#### A.4.6 XmScrollBar

OSF/Motif リリース 1.2 では、XmScrollBarに次の新しい翻訳が加わっています。

- <Cancel>

現在のスライダ・ドラッグをキャンセルする。

#### A.4.7 XmScrolledWindow

OSF/Motif リリース 1.2 には、XmScrollVisible機能が加わっています。これは自動的にスクロールされたウィンドウをスクロールして、部分的または完全に隠れてしまったウィジェットを見えるようにする機能です。

もう1つのリソースXmNtraverseObscuredCallbackも加わっています。このリソースは、見えないウィジェットに移動イベントが要求されたときに呼び出されるコールバックのリストを指定します。新しいコールバック構造XmTraverseObscuredCallbackStructがこのコールバックをサポートするために加えられました。

#### A.4.8 XmSelectionBox , XmFileSelectionBox

OSF/Motif リリース 1.2 の、XmSelectionBoxウィジェットおよびXmFileSelectionBoxウィジェットは、子MenuBarと子PushButton、子作業領域の追加をサポートしています。

新しいリソースXmNchildPlacementが子作業領域の位置を制御します。

XmDIALOG\_TEMPLATEの値が、XmNdialogTypeリソースに加えられました。

省略時設定では、XmSelectionBoxDialogとそのサブクラスは、XmTextではなくXmTextFieldを使います。アプリケーションがXmSelectionBoxまたはそのサブクラスのいずれかを作成するときに、USE\_TEXT\_IN\_DIALOGSを定義すれば以前の動作に復帰できます。

#### A.4.9 XmText

OSF/Motif リリース 1.2 には、ウィジェットを更新変更するための2つの機能がXmTextに加わりました。これはXmTextDisableRedisplayとXmTextEnableRedisplayです。

さらに2つの機能、XmTextFindStringおよびXmTextGetSubstringにより、文字列がさらに操作しやすくなっています。

リリース 1.2 では、行き先カーソルは挿入カーソルに従うようになっており、独立しては動かせなくなりました。

XmTextには3つの新しい翻訳があります。

- <Backspace>  
ヌル以外のあらゆる1次選択を削除します。
- <Delete>  
ヌル以外のあらゆる1次選択を削除します。
- <LeaveWindow>  
時間遅延の後、選択動作をスクローリングによって続けます。

XmTextには次の2つの新しい動作があります。

- scroll-cursor-vertically()  
yポジションに基づいてカーソルを縦にスクロールします。
- toggle-overstrike()  
挿入と重ね打ちモードの間で切り替えます。

---

#### 注意

---

XmTextおよびXmTextFieldには問題が起こる可能性があります。文字上端がフォントの上に突き出るような文字を含んだフォントまたはフォント・セットで、文字列を表現する時です。このような文字を含んだテキストが強調表示されると、前の行の文字の下に突き出た部分が次の行の文字の上端(突き出た部分)とオーバーラップし、オーバーライトされてしまうことがあります。

---

### A.4.10 XmTextField

OSF/Motif リリース 1.2 のXmTextFieldウィジェットには新しいリソースXmNfocusCallbackがあります。このリソースは、ウィジェットが入力フォーカスを受け入れるときに呼び出されるコールバックを指定します。

もう1つの新しい機能 `XmTextFieldGetSubstring` は、長さによってサブ文字列をウィジェットから取り出します。

リリース 1.2 では、行先カーソルは挿入カーソルに従うようになり、独立しては動かせなくなりました。

`XmTextField` には2つの新しい翻訳があります。

- `<Backspace>`  
ヌル以外のあらゆる1次選択を削除する。
- `<Delete>`  
ヌル以外のあらゆる1次選択を削除する。

#### A.4.11 `XmToggleButton` , `XmToggleButtonGadget`

OSF/Motif リリース 1.2 では、`XmNindicatorOn` が偽のときに `XmNfillOnSelect` を真に設定すると、`XmToggleButton` セットの背景を `XmNselectColor` で満たすようになっています。

`XmNfillOnSelect` の省略時設定値は、`XmNindicatorOn` の状態に適合するような動的な値です。

---

## A.5 Motif ウィンドウ・マネージャの改良

この節では、Motif ウィンドウ・マネージャ (MWM) に対して行なわれた改良について要約します。

### A.5.1 MWM に対する変更

OSF/Motif リリース 1.2 では、MWM に対して次の改良が加えられています。

- 国際化された `.mwmrc` ファイル
- 国際化されたダイアログ・メッセージ

- 組み込み省略時ルート・メニュー
- .mwmrcファイルの<Return>継続文字 (\) のサポート
- XBMLANGPATHによるビットマップ・ファイルでの検索能力
- mwmメニューのポップダウンおよびイベント・リプレイ動作のサポート
- mwmで使われるウィジェット名の文書化
- アイコン・ボックス内のスクロール・オフされた子へのウィンドウ・スクロール移動のサポート
- <Alt>および<Meta>キー修飾子を2つの別個の修飾子として取り扱うようサポート
- SHAPE非長方形ウィンドウ拡張のサポート

## A.5.2 新規または改良された MWM リソース

OSF/Motif リリース 1.2 ウィンドウ・マネージャには、次の新規または改良されたリソースが含まれています。

- feedbackGeometry  
移動/サイズ変更・フィードバック・ウィンドウの位置を設定します。省略時の位置は画面の中央です。
- frameBorderWidth  
省略時の値が画面のサイズと解像度に基づくようになりました。
- iconPlacement  
各アイコン間にギャップをおかずに並べる自動アイコン配置を指定するtightの値が追加されました。
- maximumClientSize  
verticalおよびhorizontalの値を取れるようになりました。
- moveOpaque  
ウィンドウのイメージかそれともウィンドウのアウトラインだけを移動するかを制御します。

- `resizeBorderWidth`  
省略時の値が画面のサイズと解像度に基づくようになりました。
- `usePPosition`  
プログラムに指定されたポジションを使用するかどうか制御するために、`on`、`off`か`nonzero`の値を使います。

### A.5.3 新規および改良された MWM の諸機能

OSF/Motif リリース 1.2 には、新規および改良された次の MWM 機能があります。

- `f.lower`  
アプリケーションのスタック順序の中でウィンドウを動かすための`within`引数が含まれていますが、親ウィンドウが子の下というルールを保持しています。この機能はまた、`freeFamily`引数も含んでいます。これは局所ファミリー・スタックとは完全に無関係に、ウィンドウを移動させるためのものです。両方の修飾子とも局所ファミリー・スタックの中でウィンドウを移動させますが、ファミリー・スタックは動かしません。
- `f.minimize`  
アイコン・ボックス内のアイコンから使用できるようになりました。
- `f.raise`  
アプリケーションのスタック順序の中でウィンドウを動かすための`within`引数を含んでいますが、親ウィンドウが子の下というルールは保持しています。この機能はまた、`freeFamily`引数も含んでいます。これは局所ファミリースタックとは完全に無関係に、ウィンドウを移動させるためものです。両方の修飾子とも局所ファミリー・スタックの中でウィンドウを移動させますが、ファミリー・スタックは動かしません。
- `f.raise_lower`

アプリケーションのスタック順序の中でウィンドウを動かすためのwithin引数を含んでいますが、親ウィンドウが子の下というルールは保持しています。この機能はまた、freeFamily引数も含んでいます。これは、局所ファミリー・スタックとは完全に無関係に、ウィンドウを移動させるためのものです。両方の修飾子とも局所ファミリースタックの中でウィンドウを移動させますが、ファミリー・スタックは動かしません。

- `f.restore`  
ウィンドウを前の状態に復元します。ルート・アイコンでのダブルクリックで、`f.normalize`ではなく、この機能にバインドされます。
- `f.restore_and_raise`  
ウィンドウを前の状態に復元し、ウィンドウ・スタックのいちばん上に出します。アイコン・ボックス内のアイコンでのダブル・クリックで、`f.normalize`ではなく、この機能にバインドされます。
- `f.screen`  
`arg`によって指定された画面に移動します。`arg`の正当な値は、`next`、`prev`、`last`、または特定の画面番号です。

#### A.5.4 MWM の新しい動作

OSF/Motif リリース 1.2 には、新しい MWM 動作がひとつあります。

- `<Alt> <Esc>`  
このキー組み合わせは、`focusAutoRaise`の値に関係なくウィンドウが常に最前面に出されることを除けば、`f.next_key`と同様に動作します。

---

## A.6 ユーザ・インタフェース言語 (UIL) の変更

OSF/Motif リリース 1.2 では、ユーザ・インタフェース言語 (UIL) に次のような変更がされています。

- 新しいコマンド・フラグ `-s` は、`setlocale`の使用、およびローカル復号文字列の生成を可能にします。

---

## 注意

---

-s フラグがある二重引用符で囲まれた文字列の構文解析には重大な問題があります。二重引用符で囲まれた文字列の構文解析でこのフラグを使用する必要がある場合は、OSF からパッチを入手しなければなりません。

---

- 新しい UIL 構文が、フォント・セットとフォント・テーブルをサポートするようになりました。
- 新しい UIL 構文が、ワイドな文字列をサポートするようになりました。
- ウィジェット参照をコールバック・タグとして使用するサポートが追加されています。
- 新しい UIL 構文で、自動的に生成された子のリソースを指定します。
- ウィジェットのメタ言語 (WML:Widget Meta-Language) の構文変更により、複合ウィジェットから自動的に生成された子の定義が可能となっています。
- WML 情報を含むバイナリ・データベース (WML ファイル) を読むために、UIL で `-wmd file` フラグを使えるようになりました。
- Mrm には 2 つの新しい関数があります。
  - MrmOpenHierarchyPerDisplay  
この関数は、ディスプレイ指示子が明示的な引数として渡されることを除いて、古い MrmOpenHierarchy 関数と同じです。この関数が、MrmOpenHierarchy に代わります。
  - MrmFetchBitmapLiteral  
この関数は、深度 1 のビットマップ・リテラルをフェッチします。



# B

---

## OSF/Motif ツールキットに関する情報

この付録では、OSF/Motif ツールキットに関連する注意事項、制限事項、修正点について説明します。

---

### B.1 OSF/Motif リリース 1.2.2 と X11R5 またはそれ以降の共有可能ライブラリ

#### *V1.2*

OSF/Motif リリース 1.2.2 ツールキットと OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットの間にはバイナリ互換性がありません。アプリケーションはどちらか別々のツールキットでリンクする必要があります。OSF/Motif リリース 1.2.2 のアプリケーションのリンクには、OSF/Motif 1.2.2 および X11 R5 をベースとする共有可能ライブラリしか使用できません。また、OSF/Motif リリース 1.1.3 のアプリケーションのリンクには、OSF/Motif 1.1.3 および X11 R4 をベースにする共有可能ライブラリしか使用できません。

OSF/Motif リリース 1.2.2 をベースにする共有ライブラリと OSF/Motif リリース 1.1.3 をベースにする共有可能ライブラリの両方のライブラリを提供するために、リリース 1.1.3 をベースにするライブラリには DECwindows Motif バージョン 1.1 と同じファイル名が、リリース 1.2.2 をベースにするライブラリには後ろに "R5" または "12" の付くファイル名が使用されています。

OSF/Motif リリース 1.1.3 ツールキットまたは OSF/Motif リリース 1.2.2 ツールキットとともに使用される共有可能ライブラリのファイル名には、接尾辞は付きません。このようなライブラリには、次のものがあります。

V1.2-6

- CDA\$ACCESS.EXE
- DECW\$D2DXLIBSHR.EXE
- DECW\$XEXTLIBSHR.EXE
- DECW\$XLIBSHR.EXE
- XIE\$SHRLIB.EXE

Xt ツールキットのリリース 5 またはそれ以降とリンクされた共有可能ライブラリには、"R5"の接尾辞が付きます。XUI ツールキットをベースにするライブラリには R5 に相当するライブラリがなく、X11R5、X11R6.6、または OSF/Motif リリース 1.2.2 をベースにしたリンカ・オプション・ファイルに含めることはできません。これらのファイル名については表 B-1 を参照してください。

注意

DECW\$XLIBSHR.EXE ファイルは Xlib の X11R5 バージョンであり、X11R4 バージョンの Xlib ではありません。

表 B-1 X11R5 またはそれ以降をベースにする共有可能ライブラリの名称

R4 準拠ファイル名	R5 またはそれ以降の準拠ファイル名
DECW\$DWTLIBSHR.EXE	(なし)
DECW\$DWTSHR.EXE	(なし)
DECW\$XMULIBSHR.EXE	DECW\$XMULIBSHRR5.EXE
DECW\$XTRAPLIBSHR.EXE	DECW\$XTRAPLIBSHRR5.EXE
DECW\$XTSHR.EXE	DECW\$XTLIBSHRR5.EXE

リリース 5 またはそれ以降では DECW\$DWTLIBSHR.EXE または DECW\$DWTSHR.EXE に相当するファイルは用意されていません。リリース 5 またはそれ以降用に作成されたアプリケーションは、これらのファイルとリンクすることはできません。

OSF/Motif リリース 1.2.2 とリンクされた共有可能ライブラリには、"12"の接尾辞が付きます。これらのファイルは X11R5 または X11R6.6 および OSF/Motif リリース 1.2.2 と互換性のあるライブラリだけにリンクされる必要があります。これらのファイル名については、表 B-2 の一覧を参照してください。

表 B-2 OSF/Motif リリース 1.2.2 準拠の共有可能ライブラリ名

リリース 1.1.3 準拠ファイル名	リリース 1.2.2 準拠ファイル名
DDIF\$VIEWSHR.EXE	DDIF\$VIEWSHR12.EXE
DECW\$BKRSRHR.EXE	DECW\$BKRSRHR12.EXE
DECW\$DXMLIBSHR.EXE	DECW\$DXMLIBSHR12.EXE
DECW\$MAILSHR.EXE	DECW\$MAILSHR12.EXE
(なし)	DECW\$MRMLIBSHR12.EXE
DECW\$PRINTWGTSHR.EXE	(なし)
DECW\$TERMINALSHR.EXE	DECW\$TERMINALSHR12.EXE
DECW\$XMLIBSHR.EXE	DECW\$XMLIBSHR12.EXE
DGIT\$LIBSHR.EXE	DGIT\$LIBSHR12.EXE
IMG\$SHRLIB.EXE	IMG\$SHRLIB12.EXE
LWK\$DXMSHR.EXE	LWK\$DXMSHR12.EXE
XNL\$SHR.EXE	XNL\$SHR12.EXE

DECW\$PRINTWGTSHR12.EXE ファイルはありません。プリント・ウィジェットは DECW\$DXMLIBSHR12.EXE ファイルの一部です。

DECW\$MRMLIBSHR12.EXE ファイルは、以前には DECW\$XMLIBSHR.EXE の一部であった Motif Resource Manager (Mrm) ルーチンを含む新しいイメージです。OSF/Motif リリース 1.2.2 をベースにして、.UID ファイルにアクセスするために Mrm ルーチンを呼び出すプログラムはすべて、このライブラリとリンクする必要があります。

たとえば、OSF/Motif リリース 1.1.3 をベースにする典型的なリンク・オプション・ファイルは、次のようなものです。

```
SYS$SHARE:DECW$XLIBSHR/SHARE
SYS$SHARE:DECW$XTSHR/SHARE
SYS$SHARE:DECW$DWTLIBSHR/SHARE
SYS$SHARE:DECW$XMLIBSHR/SHARE
SYS$SHARE:DECW$DXMLIBSHR/SHARE
```

このプログラムを OSF/Motif リリース 1.2.2 とリンクするには、リンカ・オプション・ファイルを次のように変更します。

```
SYS$SHARE:DECW$XLIBSHR/SHARE
SYS$SHARE:DECW$XTLIBSHRR5/SHARE
SYS$SHARE:DECW$XMLIBSHR12/SHARE
SYS$SHARE:DECW$MRMLIBSHR12/SHARE
SYS$SHARE:DECW$DXMLIBSHR12/SHARE
```

このように変更することで、XUI ツールキット (DECW\$DWTLIBSHR.EXE) を参照せず、また、Motif リソース・マネージャ (DECW\$MRMLIBSHR12.EXE) とリンクします。

---

## B.2 OSF/Motif リリース 1.1.3 プログラミング・サポートと XUI

### V1.2-3

#### 制限事項

- 問題

以前 (リリース 1.1.3) のプログラミング環境を保存したうえで、DECwindows Motif V1.1 ターゲット・システム上で実行ファイルを実行して、DECwindows Motif V1.2 または V1.2-3 システムに作成されている OSF/Motif リリース 1.1.3 (Xlib リリース 4) プログラムを実行しようとする問題が発生します。つまり、DECwindows Motif V1.2 または V1.2-3 for OpenVMS システム上でアプリケーションを作成すると、省略時の設定によりイメージは Xlib リリース 5 にリンクされます。OSF/Motif リリース 1.1.3 がインストールされているシステムでこの実行ファイルを実行しようとする、結果は ident ミスマッチの致命的エラーになります。

また、OSF/Motif リリース 1.1.3 とリリース 1.2.2 の UIL コンパイラでは、異なる出力が生成されます。構造が異なり、したがって互換性はありません。該当する UIL を使用して、適正な UID ファイルを生成してください。

- 解決策

1. DECwindows Motif V1.1 の実行可能コンパイラ DECW\$UILMOTIF.EXE の名前を DECW\$UILMOTIF113.EXE に変更し、SYSS\$COMMON ディレクトリに保存します。これで、新しい V1.2-3 コンパイラの名前 DECW\$UILMOTIF.EXE が旧バージョンのコンパイラ名と競合しなくなります。

2. DECW\$XLIBSHR.EXE ファイル (Xlib リリース 4) を SYSS\$COMMON:[SYSEXE.DECW\$113]ディレクトリに移動します。

Xlib リリース 5 またはそれ以降のバージョンにも同じ名前のファイルがあります。しかし、プログラムのリンク時にリリース 4 バージョンを使用するように論理名が定義されています。DECwindows Motif V1.1 と DECwindows Motif V1.2 for OpenVMS の間の DECW\$XLIBSHR.EXE のマイナー ident の変更で、DECwindows Motif V1.1 システムとの下位互換性は失われました。

3. インストール時に以前のプログラミング環境を保存する場合は、次の 2 つのファイルを作成して、SYSS\$COMMON:[SYSEXE.DECW\$113]ディレクトリにコピーしてください。

- DECW\$UILCOMPILER113.CLD

このファイルは、DECW\$UILMOTIF113.EXE for OSF/Motif リリース 1.1.3 または DECW\$UILCOMPILER.EXE for XUI を選択している場合に、XUI または OSF/Motif リリース 1.1.3 用に、UIL/OSF Motif および UIL/XUI を使用できるようにします。

- DECW\$DEFINE113\_LOGICALS.COM

このファイルは、保存されているヘッダ・ファイルをポイントし、このヘッダ・ファイルが、次に Xlib リリース 4 バージョンの DECW\$XLIBSHR.EXE ファイルをポイントします。

4. 必ず、リンク元のバージョンと同じバージョン (以降) のオペレーティング・システムでアプリケーションを実行します。たとえば、VMS Version 5.4-3 システム上でリンクされているアプリケーションは、VMS バージョン 5.4-3 (以降) のシステムで実行します。

OpenVMS バージョン 6.1 システム用にコンパイルした DECwindows Motif V1.1 アプリケーションは、OpenVMS バージョン 6.1 システムでしか実行することができません。バージョン 6.1 より前のシステムでは実行できません。

## V1.2

日本語 DECwindows Motif for OpenVMS V1.2 ソフトウェアに付いてくる X Window と OSF/Motif ライブラリは、以前のバージョンで配布されたものとは互換性がありません。ランタイムの互換性は維持されていますが、プログラミング環境には互換性はありません。

DECwindows Motif の旧バージョンで提供されていた XUI あるいは Motif リリース 1.1.3 のプログラミング環境は、日本語 DECwindows Motif for OpenVMS V1.2 ではサポートされていません。しかし、インストールの際にすでに使用しているシステムに入っているプログラミング・ファイルを保管するオプションがあります。既存のプログラミング・ファイルの保管を選択する場合、これらのファイルはサブディレクトリに移され、プログラミングを行う際にアクセスすることができます。具体的にいうと、インストールの過程で、表 B-3 の表に記載された各ディレクトリに[.DECW\$113]というサブディレクトリが作成されて、既存のファイルをこの新しいサブディレクトリに移動します。

既存のプログラミング・ファイルの保管についての詳細は、『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS インストール・ガイド』を参照してください。

表 B-3 XUI, Motif 旧バージョンのプログラミング環境用ディレクトリ

ディレクトリ	内容	新しい位置
DECW\$INCLUDE	C ヘッド・ファイル	SY\$SYSROOT:[DECW\$INCLUDE.DECW\$113]
SY\$SYSTEM	UIL コンパイラ	SY\$SYSROOT:[SY\$EXE.DECW\$113]
SY\$LIBRARY	非 C 言語バインディング	SY\$SYSROOT:[SY\$LIB.DECW\$113]

これらのファイルを使用してプログラミングを行うには、新しい[.DECW\$113]サブディレクトリを各論理名の検索パスに含めます。次の例を参照してください。

- DECW\$INCLUDE の定義を次のように変更します。

```

$ SHOW LOGICAL DECW$INCLUDE
  "DECW$INCLUDE" = "SYS$SYSROOT:[DECW$INCLUDE]" (DECW$LOGICAL_NAMES)
    = "SYS$SYSROOT:[DECW$INCLUDE.EXTENSIONS]"

$ DEFINE/EXECUTIVE/TABLE=DECW$LOGICAL_NAMES DECW$INCLUDE -
  SYS$SYSROOT:[DECW$INCLUDE.DECW$113], -
  SYS$SYSROOT:[DECW$INCLUDE], -
  SYS$SYSROOT:[DECW$INCLUDE.EXTENSIONS]

```

今回のリリースで更新されたファイルには、[.DECW\$113]サブディレクトリに移されたファイルと同じ名前を持っているものも多くあります。したがって、まず検索リストに新しいサブディレクトリ[.DECW\$113]を入れます。これによって[.DECW\$113]の中のファイルをソフトウェア開発用に使用することができます。

SYS\$MANAGER:DECW\$PRIVATE\_APPS\_SETUP.COMのコマンド・プロシージャでDECW\$INCLUDEが再定義された場合は、それに従って上記の指示を変更してください。

XUIまたはOSF/Motifリリース1.1.3でUILコンパイラを使用するには、次のようにします。

1. SYS\$SYSROOT:[SYSEXE.DECW\$113]DECW\$UILCOMPILER.CLDというファイル名で、次のテキストを含むファイルを作成します。

```

define type trace_keywords
  keyword tokens
  keyword symbols

define type warning_keywords
  keyword nowarnings
  keyword noinformationals

define type version_keywords
  keyword V1, syntax=xui_uil
  keyword V2, syntax=xui_uil, default
  keyword MOTIF11, syntax=motif_uil

define syntax xui_uil
  image decw$uilcompiler

define syntax motif_uil
  image decw$uilmotif

```

```

define verb uil
  image decw$uilcompiler
  parameter pl, label=source_file,
    prompt="File", value(required,noconcatenate,type=$infile)
  qualifier trace, label=trace_qual,
    value(list,noconcatenate,type=trace_keywords), nonnegatable
  qualifier warnings, label=warnings_qual,
    value(list,noconcatenate,type=warning_keywords)
  qualifier list, label=listing_file,
    batch, value(type=$outfile)
  qualifier machine, label=machine_qual,
  qualifier output, label=resource_file,
    default, value(type=$outfile)
  qualifier version, label=version_qual, default,
    value(type=version_keywords),
    nonnegatable
  qualifier XUI, default, nonnegatable, syntax=xui_uil
  qualifier MOTIF, nonnegatable, syntax=motif_uil

  qualifier widget_meta_description, label=widget_qual,
    value(required, noconcatenate, type=$infile)

  disallow XUI and MOTIF

```

2. 次のように、DCL コマンド・テーブルを XUI UIL コンパイラ用に設定します。

```
$ SET COMMAND SYS$SYSROOT:[SYSEXE.DECW$113]DECW$UILCOMPILER.CLD
```

---

**注意**

---

UIL コマンドの定義を前の状態に戻すには、次のコマンドを実行します。

```
$ SET COMMAND SYS$LIBRARY:DECW$UILCOMPILER.CLD
```

---



---

## B.3 DECwindows OSF/Motif ツールキット

この節では、DECwindows OSF/Motif ツールキットの注意、制限、チューニングなどに関する事項を説明します。

### B.3.1 呼び出し可能 OSF/Motif UIL コンパイラ

*V1.2-6*

OSF/Motif リリース 1.2.2 Toolkit には、呼び出し可能 UIL (User Interface Language) コンパイラが含まれています。現在では、リンク・オプションに次の 1 行を含めると、このイメージに対してリンクすることができます。

```
SYSS$SHARE:DECW$UILSHR/SHARE
```

呼び出し可能インタフェースについての詳細は、Prentice Hall から出版されている『OSF/Motif Programmer's Guide』を参照してください。

### B.3.2 Motif テキスト・ウィジェットの変換

*V1.0*

仮想バインディングを実現するには、弊社が省略時の XmText および XmTextField の変換マネージャ構文を変更する必要がありました。特に、次の設定が削除されています。

```
Shift ~Ctrl ~Meta ~Alt <Key>osfDelete: cut-clipboard()
```

osfCut 仮想 keysym がバインドされていない仮想バインディングを使用すると、省略時の設定で、cut-clipboard 動作のキー・シーケンスはバインドされません。この制約に対処するには、DECW\$XDEFAULTS.DAT ファイルで XmText および XmTextField のトランスレーションをオーバーライドしてください。

### B.3.3 上位互換性

*V1.0*

DECW\$DWTLIBSHR, DECW\$DWTSHR, DECW\$XTSHR の各共有可能イメージの組み合わせは、以前の DECW\$DWTLIBSHR 共有可能イメージとの、バイナリで上位互換性があるようになっています。例外と考えられるのは、LIBS\_FIND\_IMAGE\_SYMBOL を使用してイメージ DECW\$DWTLIBSHR を動的に起

動するアプリケーションです。動的なイメージの起動の問題は、固有のセマンティクスが X ツールキット・イントリンシック・リリース 3 から、MIT X11 リリース 4 になるときに大幅に変わっていることです。以前リンクされた XUI アプリケーションは、X ツールキット・リリース 3 の固有のセマンティクスを使用する XUI 転送ベクトルのエントリを通じて呼び出しを行います。ただし、そのアプリケーションが再リンクされる (または動的に DECW\$DWTLIBSHR を起動する) とすぐに、MIT X ツールキット・イントリンシック・リリース 4 固有のセマンティクスを使用します。

動的に DECW\$DWTLIBSHR を起動するアプリケーションは、DECW\$DWTLIBSHR に対して直接にリンクするように変更する必要があります。DECW\$DWTLIBSHR は現在は小型薄層の共有可能イメージとなり、必要なときだけツールキットの大部分のコードを自動的に動的に起動します。このためアプリケーションが DECW\$DWTLIBSHR を動的に起動し続けることはありません。

今後弊社では、ツールキット共有可能イメージを動的に起動するアプリケーションに対するバイナリで上位互換性を保証できません。DECwindows ツールキット (XUI と Motif) は、弊社の管轄外の基準に基づいています。この基準に互換性のない変更が行われた場合は、弊社はそれに従うようツールキットを変更します。ただし、現在の実行可能イメージが変わらずに実行されるようにコードを追加していく意向です。

### B.3.3.1 Motif ウィジェットと XUI ウィジェットの混合に関する制約

#### *V1.0*

Motif ウィジェットと XUI のウィジェットの混合には制限があります。問題の原因は、XUI と Motif の両方がそれぞれ独自の Vendor Shell ウィジェット・クラスを持っていることにあります。アプリケーションが Motif ではなく XUI に対してリンクされると、XUI Vendor Shell ウィジェット・クラスが、DECwindows XUI との互換性を保つために使用されます。アプリケーションが Motif に対してリンクされたときは、Motif Vendor Shell ウィジェット・クラス使用されます。Motif ウィジェットは Motif Vendor Shell を必要とし、XUI ウィジェットは Motif Vendor Shell との互換性があります。問題が発生するのは、XUI 専用アプリケーションが Motif を使用する共有可能イメージを (LIBSFIND\_IMAGE\_SYMBOL を使用して) 動的に起動したときです。ツールキットが初期化されたときに、動的に起動された

共有可能イメージで Motif ウィジェットが動かない場合は、ツールキットは XUI Vendor Shell を使用するよう決定します。

この問題に対処するには、アプリケーション・イメージ名を DECW\$USE\_XM\_VENDOR\_SHELL 論理名に加える方法があります。この論理名には、ツールキットが Motif Vendor Shell を使用するイメージ名を、コンマで区切って並べてあります。DECW\$USE\_XM\_VENDOR\_SHELL 論理名の値は省略時の設定で NOTES\$MAIN となっています。さらにイメージ名をこの論理名に追加するには、次のコマンドを入力します。

```
$ DEFINE DECW$USE_XM_VENDOR_SHELL "NOTES$MAIN,-
_ $ yourimage1,yourimage2,..."
```

Motif を使用するアプリケーションは、すでに Motif Vendor Shell を使用しているため、DECW\$USE\_XM\_VENDOR\_SHELL の影響は受けないことに注意してください。

### B.3.4 Motif ヘッド・ファイルでのコンパイル時の非互換性

#### V1.2-3

OSF/Motif プログラミング・サポートで Motif ヘッド・ファイルからマクロ定義がいくつか削除されています。この変更は次のヘッド・ファイルに影響します。

- DECW\$INCLUDE:XMP.H

次の定義が削除されています。

- #define XmLONGBITS sizeof(Cardinal)\*8
- #define XmHALFLONGBITS (XmLONGBITS/2)

上記マクロに代えて、次のマクロが同じヘッド・ファイルに挿入されています。

- XmOFFSETBITS

XmOFFSETBITS マクロを呼び出すコードを更新してください。

- DECW\$INCLUDE:TEXT.P.H

次の定義が削除されています。

- #define MAXINT 2147483647  
/\* Biggest number that can fit in long \*/
- #define NODELTA MAXINT

MAXINT の定義はオペレーティング・システムに依存します。次のいずれかの方法でアプリケーションにこの定義を組み込んでください。

- 該当するシステム・ヘッダ・ファイルの include
- 定数の定義

---

## B.4 OSF/Motif のプログラム例

この節では、DECwindows Motif for OpenVMS Version 1.2 ソフトウェアに含まれている OSF (Open Software Foundation) のプログラム例について説明します。

### B.4.1 Cutpaste のプログラム例

*V1.2*

この例では、Motif のクリップボードの使用法が示されています。アプリケーションによって定義されたデータ・フォーマットは、XmClipboard API を使用してカット・アンド・ペーストを行うことができます。

2 つの cutpaste のクライアント・プログラムを実行して、グラフの値をプルダウン・メニューとポップアップ・メニューを使用して移動してください。

### B.4.2 DNDDemo プログラム例

*V1.2*

この例では、ドラッグ・ドロップ機能の典型的な使用法が示されています。

このプログラム例の起動時には、有効なドロップ先はありません。色をドラッグして移動するためのドラッグ元を示す異なったカラーの四角形がまず表示されます。ドロップ先は、次のようにして決めます。

- ポインターを (白の背景) を持つ描画領域に移動します。
- MB1 を押してドラッグすると、ラバーバンド効果が確認できます。
- 希望するところまでドラッグしたら、MB1 を離します。

黒の四角な囲みケイが現れます。この囲みケイの数には制限はありません。

描画領域の内側に作成された四角が色の有効なドロップ先です。たとえば黄色の四角からドラッグを開始して、描画領域の内側にある四角な囲みケイの1つまでドラッグしていき、そこでMB2を放すことで、これを確認することができます。

ドラッグを開始するには、ポインタをドラッグ元の上に移動し、BTransferを押したままマウスを移動します (BTransferは省略時の設定ではMB2になります)。カーソルがドラッグ元の四角の色と同じ色のパレットの形に変わったことを確認してください。

ドラッグ中には、次の点に注目してください。

- ルート・ウィンドウ上をドラッグしているときは、ドラッグ・アイコンはパレットだけになること。
- 描画領域内の四角な囲みケイのないところでは、ドラッグ・アイコンはパレットの上に "DO NOT ENTER!" (侵入禁止) の表示が現れること。
- 描画領域内の四角な囲みケイの内側をドラッグしているときは、"DO NOT ENTER!" (侵入禁止) の表示が絵筆の形に変わること。

ドロップを行うにはMB2を放します。描画領域内の四角な囲みケイの外側やルート・ウィンドウ上でMB2を放すと、ドラッグ・アイコンは一瞬ドラッグ開始のためのポインタに変わってから、消えます。これによって実行しようとしたドロップが失敗したことが分かります。ポインタが描画領域内のいずれかの四角な囲みケイの内側にあるときに、MB2を放すと、ドラッグ・アイコンは背景に吸い込まれるように消えます。これによってドロップが成功したことが分かります。ドロップが実行された四角な囲みケイの中は、ドラッグされた色で塗りつぶされます。

描画領域内の四角な囲みケイの中は、ドラッグ元として使用することができます。ポインタをいずれかの四角な囲みケイの中からドラッグを開始すると、カーソルが四角形に変わります (四角形の大きさは X カーソルのサイズ制限内で、囲みと同じ大きさか、より小さいものになります)。四角形のカーソルをドラッグして、描画領域内の別の場所にドロップしてください。このようにして元の四角形を新しい場所に移動することができます。

四角形を新しい場所に複写する場合は、ドラッグ中またはドロップを行うときに、適切な変更キーを使用します (現在のところは、Ctrl キーが複写への変更キーとして設定されています)。四角形を変更キーを押さないでドラッグした場合、または Shift キーを押した場合には、ドラッグを開始した塗りつぶされた四角形は、点線の囲みケイに変わります。この状態は、ドラッグを行っている間中、または Ctrl キーを押して複写モードに変更するまで続きます。Ctrl キーが押されると点線の囲みケイは、元の四角形に戻ります。

---

#### 注意

---

ドラッグ中に取消キー (F11) を押すと、ドラッグを中止することができます。また、Help キーを押せば、ドロップの成否や可能なドロップ操作についての情報が表示されます。

---

### B.4.3 Dogs プログラム例

#### VI.1

このプログラム例では、Dog ウィジェットおよび Square ウィジェットを使用します。これはユーザ定義機能を使用して新しいウィジェットを UIL ソースに組み込む方法を説明します。

Dogs プログラム例によって、DogNwagTime および SquareNmakeSquare リソースを動的に変更できるようになります。

サウンド発生機能を持ったシステムをお持ちの場合は、吠えるコールバックを XBell()以外のものにすることもできます。

### B.4.3.1 dog ウィジェット

#### V1.1

dog ウィジェット (DogWidget) は、将来のバージョンの Motif とのバイナリ互換性を保つ基本ウィジェットをサブクラスに分ける方法を示すデモです。これは、`mResolvePartOffsets()` および対応するマクロを使用して、`XmResolvePartOffsets` マニュアル・ページにある勧告をすべて実行します。

dog ウィジェットは、`XmPrimitive` のサブクラスで、吠えたり尾を振ったりできます。もっと面白いしかけが欲しいときは、サブクラスに分けるか、または `up.bm`、`down.bm`、`bark.bm` をより高度なビットマップに置き換えてください。

dog ウィジェットには、次のリソースがあります。

- `DogNwagTime`: 尾を振る間隔 (ミリ秒単位)
- `DogNbarkTime`: 吠えるグラフィックスを表示する時間 (ミリ秒単位)
- `DogNbarkCallback`: 吠える動作によって呼び出されるコールバック

dog ウィジェットには次のような変換があります。

- `osfActivate/Return/Space/MB1` = Bark (吠える)
- `W/MB2` = Wag Tail (尾を振る)
- `S/Shift-MB2` = Stop wagging tail (尾を振るのをやめる)
- `osfHelp` = Help (ヘルプ)

### B.4.3.2 square ウィジェット

#### V1.1

square ウィジェット (SquareWidget) は、将来のバージョンの Motif とのバイナリ互換性を保つ制約ウィジェットをサブクラスに分ける方法を示すデモです。これは、`XmResolveAllPartOffsets()` および対応するマクロを使用して、`XmResolveAllPartOffsets` マニュアル・ページにある勧告をすべて実行します。

square ウィジェットは `XmBulletinBoard` のサブクラスで、制約リソースを使用して強制的に子を square (正方形) にします。

square ウィジェットには SquareNmajorDimension というリソースがあります。このリソースは、子の新しいサイズに使用する寸法を決定します。値は、SquareWIDTH または SquareHEIGHT です。

square ウィジェットには SquareNmakeSquare という制約リソースがあります。このリソースは、子を強制的に正方形にするか、好きな形に設定するか決定します。

#### B.4.4 Helloint プログラム例

##### V1.2

このプログラム例は、1つのラベルと1つの押しボタンとからなる簡単な UIL/Xm プログラムです。

本バージョンでは、実行時に kanji (日本語)、hebrew (ヘブライ語)、french (フランス語)、english (英語) のインタフェースを選択することができます。

このプログラムでは、言語特有のインタフェースについてはすべて LOCALSTRINGS.UID ファイルを使用します。言語を変更するには、LOCALSTRINGS\_\*.UID の各ファイルを DECWS\$USER\_DEFAULTS: LOCALSTRINGS.UID に複写します。続いて、DECWS\$USER\_LANG あるいは xnlLanguage リソースを使用してロケールを設定します。LOCALSTRINGS 接頭辞およびロケール名には次のもののいずれかを設定してください。

ロケール	インタフェース・タイプ
Japan	漢字
Hebrew	ヘブライ語
French	フランス語
English	標準英語

xnlLanguage リソースを定義するには、DECWS\$XDEFAULTS.DAT ファイルに次の行を追加してください。

```
*xnlLanguage: locale
```

helloint プログラム例には次のフォントが必要です。

Locale	Font Name
French	-adobe-helvetica-medium-r-normal-12-120-75-75-p-67-iso8859-1
English	-adobe-times-medium-r-normal-14-100-100-100-p-74-iso8859-1
Hebrew	-Misc-Fixed-Medium-R-Normal-13-120-75-75-C-80-ISO8859-8
Japan	-*.JISX0208.1983-1 -*.JISX0201.1976-0

上記のフォントがシステムにインストールされていない場合は、他のフォントを参照するように UIL ファイルを変更するか、DECW\$EXAMPLES ディレクトリに入っている\*.DECW\$BDF フォントをインストールしてください。新しいフォントをインストールする方法については、『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 環境設定の手引き』を参照してください。

#### B.4.5 Hellomotif プログラム例

##### *V1.2*

このプログラム例は、1つのラベルと1つの押しボタンとからなる簡単な UIL/Xm プログラムです。

#### B.4.6 Motifanim プログラム例

##### *V1.1*

Motifanim プログラムは、OSF/Motifの次の機能を示すプログラム例です。

- ビジュアル間の移植性のための UIL を使用したアイコン/ビットマップの宣言
- Mrm を使った UIL と C の間の値の交換
- Motif フォーム・ウィジェットの使用
- クライアント・プロセスが入力待ちの間に実行する背景プロシージャ (Xt インタリンシック機能)

Motifanim では、X Window でピクスマップを動画表示できます。ピクスマップは、motifanim によって固定されるのではなく、起動時に既存の UID ファイルから読み込まれます。

すべての animation.uid ファイルの構文は、motifanim を使用して動画表示するピクスマップを簡単に追加することができます。動画データ・ファイルのいくつかのツリーの例には次のようなものがあります。

```
dog.uid  
plane.uid
```

省略時の動画は dog です。他の動画のデモを実行するには次のコマンドを使用してください。

```
$ SET DEFAULT DECW$EXAMPLES  
$ motifanim := "$DECW$EXAMPLES:motifanim"  
$ motifanim -anim plane
```

motiflogo.uid、motifanim.uid、motifanim.c の各ファイルは、プログラムの中核となる構成要素です。

## B.4.7 MOTIFGIF および PICT 表示プログラム

### V1.2

次の.gif ファイルが提供されています。

- TOUCAN.GIF  
熱帯の鳥の写真です。
- CHALLENGER.GIF  
スペース・シャトルのチャレンジャーの写真です。

### V1.1

motifgif および pict はともに作動して、.gif フォーマットされた絵を表示するプログラムです。motifgif プログラムは Motif 構造内で.gif ファイルを表示します。motifgif プログラムは現在のディレクトリで.gif ファイルを探します。

motifgif には次の 3 つの重要な構成要素があります。

- motifgif

このディレクトリのソースおよび実行可能コードが .gif の絵をディスプレイに表示する Motif の駆動プログラムです。

- pict

.gif による絵のファイルをビットマップで表示するために、motifgif によって呼び出されるプログラムです。このプログラムは以前は xgif でしたが、Motif に変換されました。

motifgif には次のような問題があります。

- 絵のサイズは変更できません。
- pict を呼び出すとき -d オプションが使用されないため、遠隔ディスプレイでは DISPLAY 環境変数を設定しなければなりません。

## B.4.8 Motifshell プログラム例

### V1.2

motifshell プログラムは、Motif を使用して作成された環境を示す一例です。プログラム例の目的は、Motif をスタンドアロンの環境で使用する場合、どのように他のプログラムやユーティリティをタスク指名するかを示すことです。

motifshell プログラムは C コードで書かれています。UIL は参照しません。

---

#### 注意

---

ファイルの一覧や処理状態を表示するのは、多少時間がかかります。これらの操作は、SPAWN により DCL コマンドを起動し、出力をファイルに保管してから、そのファイルを読むことで行われます。

省略時のフォントはプロポーショナル・スペースが使用されています。一覧表の中には、クーリエのような固定スペースを使ったほうが読みやすい場合もあります。別のフォントを選択するには、フォント・オプションを使用します。

---

## B.4.9 Periodic プログラム例

### V1.2

periodic プログラムには、Motif の表示可能なウィジェットの例が示されています。このプログラムにより Motif のウィジェットを周期チャート形式で表示します。

## B.4.10 Textedit プログラム例

### V1.2

textedit プログラムは、XmNsource リソース・ファイルを使用する Motif XmText ウィジェットに基づく、基本的なテキスト・エディタで、重なっている同一テキストを複数表示することができます。

表 B-4 の表で、使用可能な表示メニューのオプションを説明します。

表 B-4 表示メニューのオプション

オプション	説明
Split Pane	テキストの独立したスクロールが可能な新しい表示画面を追加します。
Remove Pane	指定画面を消去します。
One Pane	指定画面以外の画面をすべて消去します。

指定画面は次のようにして決定します。

- 明示 (explicit) フォーカス方法を使用している場合には、最後にフォーカスされた画面。
- ポインタによるフォーカス方法を使用している場合には、ユーザが最後に操作を行った画面。

編集メニューでペーストを選択した場合に、クリップボードの内容のペーストが行われるのも指定画面です。

textedit のソース・ファイルは独立した層として別れています。textedit に含まれるソース・ファイルは表 B-5 に一覧が掲載されています。

表 B-5 Textedit ソース・ファイル

ファイル名	説明
tfile.c	ファイルの読み込み、書き込み、削除のためのコード。オペレーティング・システムまたはファイル・システムに対する依存を隠します。
app.c	tfile.c を使用してファイル操作およびこれに関連するバッファのためのあらゆるコードを提供します。このファイルはツールキットに依存します。
tk.c	Xm ツールキットへの依存を切り離します。 このファイルの前半では、ユーティリティのルーチンおよびツールキットから独立した(しかし特定のアプリケーションに限定された)インタフェースを提供します。このインタフェースは、アプリケーションのツールキットに依存しないダイアログ層を使用することができます。 ファイルの後半では、すべてのコールバック・ルーチンを定義しています。コールバック・ルーチンの多くは、この層内部の状態更新に使われ、残りが追加動作を行います。これらの動作は、ファイルの前半で定義された特定のツールキットの動作ルーチンとの間に明白に関連しています。明白ではない場合、行うべき動作を決定するために、ツールキットに依存しないダイアログ・層に対してアップコールが行われます。
dlg.c	ユーザとの対話を管理するために tk.c を使用します。このコードはツールキットに依存しません。
textedit.c	アプリケーションを初期化し、ウィジェットの階層の実例を示します。このコードにより UIL および Mrm の使用を他のアプリケーションから隠します。

---

### 注意

---

ファイルの移動と削除の手段は、現在のところ用意されていません。

---

## B.4.10.1 追加のトランスレーション

### V1.2

次のトランスレーションを DECWSXDEFAULTS.DAT ファイルに追加しておく  
と、emacs を使い慣れたユーザには便利です。

```
*XmText.translations:      Mod1<Btn3Down>: scroll-cursor-vertically()\n                             Mod1<Btn3Motion>: scroll-cursor-vertically()\n                             Ctrl<key>a: beginning-of-line()\n                             Ctrl<key>b: backward-character()\n                             Ctrl<key>d: delete-next-character()\n                             Ctrl<key>e: end-of-line()\n                             Ctrl<key>f: forward-character()\n                             Ctrl<key>g: beep()\n                             Ctrl<key>h: delete-previous-character()\n                             Ctrl<key>i: cut-primary()\n                             Ctrl<key>j: newline-and-indent()\n                             Ctrl<key>k: set-anchor() end-of-line() key-select() cut-clipboard()\n                             Ctrl<key>l: redraw-display()\n                             Ctrl<key>m: newline()\n                             Ctrl<key>n: next-line()\n                             Ctrl<key>o: newline-and-backup()\n                             Ctrl<key>p: previous-line()\n                             Ctrl<key>v: next-page()\n                             Ctrl<key>w: cut-clipboard()\n                             Ctrl<key>y: paste-clipboard()\n                             Ctrl<key>z: scroll-one-line-up()\n                             Mod1<key>b: backward-word()\n                             Mod1<key>d: delete-next-word()\n                             Mod1<key>f: forward-word()\n                             Mod1<key>h: delete-previous-word()\n                             Mod1<key>i: copy-primary()\n                             Mod1<key>k: delete-to-end-of-line()\n                             Mod1<key>v: previous-page()\n                             Mod1<key>w: copy-clipboard()\n                             Mod1<key>z: scroll-one-line-down()\n                             Mod1 Shift<key>greater: end-of-file()\n                             Mod1<key>less: beginning-of-file()\n                             Mod1<key>]: forward-paragraph()\n                             Mod1<key>[: backward-paragraph()
```

## B.4.11 View プログラム例

### V1.2

view プログラムは、Motif の国際化サポートを使用した DCL コマンドの TYPE /PAGE と似ています。このプログラムによって、ファイルを数カ国語で表示することができます。

用意されているコマンド・ファイル DECW\$EXAMPLES:FILEVIEW.COM を使用して、各国の言語を選ぶことができます。有効な言語は、フランス語、英語、およびドイツ語です。言語を選択するには、次のコマンドを実行してください。

```
$ SET DEFAULT DECW$USER_DEFAULTS
$ @DECW$EXAMPLES:FILEVIEW language
```

このコマンド・ファイルでは、.UID および.DAT の各ファイルを現在のディレクトリに複製するとともに、適切なロケールを設定し、ファイル表示のための view プログラム例を実行します。

アプリケーションが起動されると、1 次の最上位のシェルが作成されます。1 次の最上位のシェルから、2 次シェルを作成することができます。

各最上位のシェルはメイン・ウィンドウの親に当たります。メイン・ウィンドウの作業領域が PanedWindow です。

メニュー・バーには、次のエントリがあります。

- File  
ファイルのオープンとクローズ、新しいシェルの作成、ならびに終了。
- View  
ウィンドウ・パネル内の作業領域の制御。

#### ファイル・メニュー

ファイル・メニューには次のオプションが含まれています。

- 新しいファイルをオープン

ファイル選択ボックスは、ファイル選択用にマッピングされています。OpenFile が正常に実行されると、現在のファイルがクローズされて、既存の作業領域はすべて破壊され、新しいファイルが表示されます。

- 新しいシェルをオープン

1 次シェルに類似した 2 次シェルを作成します。ファイルは、各シェルごとに別々に表示することができます。

- クローズ

このエントリは 2 次ウィンドウにだけあります。これによって最上位のシェルを破壊し、ファイルをクローズします。

- 終了

このエントリは 1 次シェルにだけあります。これによってファイルおよびシェルをクローズします。

#### 表示メニュー

表示メニューには、次のオプションが含まれています。

- 新しい作業領域

ウィンドウ・パネルの中に新しい作業領域を作成します。

- 作業領域の削除

現在の作業領域を削除します。

- 検索

[検索]により、ファイル内のテキストを検索するためにダイアログ・ボックスがポップアップ表示されます。ダイアログ・ボックスの[了解]のコールバックで文字列の検索を行います。検索する文字列が見つかったら現在の作業領域に表示されます。その文字列が見つからない場合は、ダイアログ・ボックスがポップアップ表示されます。

1つのウィンドウ内でもう1つ別のファイルを開こうとすると、アプリケーションは突然終了します。この場合、表示メニューは正常に作動しません。

## B.4.12 Xmpiano プログラム例

### V1.2

xmpiano プログラムはMIDI (Motif Interface to Dumb Instruments) アプリケーションの書き込み方法を示します。譜表は、楽譜を書くためにも、キーボードのためにも使用することができます。

ウィンドウの下部には、譜表上で使用するための音符のセットがあります。音符ボタンの1つを選択すると、それに従って使用される音符が変わります。選択した音符は、マウスのカーソルとして表示されます。

選択できる音符の種類は制限されたものですが、自然音階のほかに、シャープも選択可能です。プログラムのインターフェースは、フラットの音階をサポートしていません。譜表は、音符が書き加えられて右端を超えると自動的に延長されます。右端を超えたところにある音符は、必要に応じて楽譜のウィンドウをスクロールすることで表示できます。

このアプリケーションを使用するには、表示された譜表の上でマウスの右ボタンを押します。これによって次のメニュー項目が表示されます。

- 音声追加 (Add Voice)

新しい譜表に別のディスプレイを接続します。このコマンドを選択すると、接続すべきディスプレイを求めるプロンプトが出ます。新しい譜表に書かれた楽譜は、このディスプレイで演奏されます。新しい譜表上でマウスの右ボタンを押すと、メニュー・タイトルにこのディスプレイの名前が表示されること、また、メニュー・バーのメニュー・コマンドは表示されている譜表に関連したものであることに注意してください。

- 音声削除 (Remove Voice)

接続されたディスプレイとともに譜表を削除します。このコマンドには、取消はありません。したがって、この譜表に書かれた楽譜はすべて削除されます。

- 音声消去 (Clear Voice)

譜表上の音符をすべて消去します。ディスプレイとの接続は、これによって影響されません。

- 音声演奏 (Play Voice)

マウスの右ボタンを譜表の上で押すと、その譜表に記入された音声を演奏します。音声 ローカル・ホストと同一の場合、音符が演奏されるのにつれて音符に対応するキーボード上のキーが押されたかのように表示されます。キーボードに、同時に複数の音声を組み合わせた演奏をさせることも可能ですが、このためには -DCHORDS オプションを使用してコードをコンパイルしなければなりません。これによって多くのサーバのアプリケーション処理が著しく遅延することに注意してください。

- 全部の演奏 (Play All)

指定された各ディスプレイのすべての音声を同時演奏します。

- 音声保管 (Save Voice)

対応する音声をファイルに保管します。その音声を保管するファイル名入力のプロンプトのためにファイル選択ダイアログ (FileSelectionDialog) が表示されます。ディスプレイ接続関係の情報は保管されません。

- 音声のロード (Load Voice)

すでに保管されている音声を対応する譜表にロード (追加) します。

- 終了 (Quit)

このプログラム例を終了します。

本バージョンでは、音符を操作して編曲することはできません。編曲するには、譜表を消去して再度入力するか、保管ファイルからデータを読み込みます。

音符の色を設定するには、アプリケーションの前景色を変更します。このためにはコマンド・ラインで -fg オプションを使用します。次の例を参照してください。

```
$ xmpiano := $DECW$EXAMPLES:xmpiano
$ xmpiano -fg blue
```

## B.4.13 Motif サンプル・プログラム

### V1.2

表 B-6 の表には、Motif ツールキットのさまざまな機能の一覧が掲載されています。

表 B-6 Motif サンプル・プログラム

ファイル名	説明
xmdialogs.c	ダイアログ・サンプル
xmfonts.c	フォント検索用
xmeditor.c	テキスト・エディタ
xmllist.c	例の一覧表示用
xmprotocol.c	ウィンドウ・マネージャ・プロトコルの例
xmter.c	図形とアニメーションの例
xmform.c	フォーム・アタッチメントの例
xmforc.c	フォーム・アタッチメントと行・列の例
xmmap.c	描画領域とスクロールされたウィンドウの例
xmgetres.c	リソース取り出しの例
xmapdef.c	app の定義によるスクロールされたウィンドウの例

これらのサンプル・プログラムには、次の項目が適用されます。

1. xmfonts プログラムは、省略時の設定では字数が 10 文字以下のフォント名だけを表示します。システムによっては、フォント・パスには長い XLFD フォント名しか含まれていないものもあります。したがって、XMFONTS\*maxLenのリソースをより大きな数字 (80) に設定するか、numColumns のリソースを 1 に指定する必要があります。
2. xmter プログラムを Motif ウィンドウ・マネージャ以外のウィンドウ・マネージャで実行する場合、そのウィンドウ・マネージャは (たとえばマツのような) ウィンドウの装飾をすべて削除する必要があります。xmter プログラムから Motif ウィンドウ・マネージャに対して、ウィンドウの装飾を削除するように指示が出されます。

3. `xmform` プログラムでは、Form に組み込まれた Motif ウィジェットで構成された文字列を表示できます。このためには次のコマンドを使用してください。

```
$ xmform := $DECW$EXAMPLES:xmform
$ xmform string
```

`string`の変数はオプションです。`string`を指定する場合に使用できる文字は、F,I,M,O,T です。使用する文字列は必ず大文字で、引用符 (" ") で囲まなければなりません。`string`が省略された場合、`xmform` は "MOTIF"に戻ります。

4. `xmgetres` プログラムは、`XmGetSecondaryResourceData` の使用法を示す例です。`xmgetres` を起動するには次のコマンドを使用します。

```
$ xmgetres := $DECW$EXAMPLES:xmgetres
$ xmgetres WidgetClass
```

`WidgetClass`の変数はオプションです。`WidgetClass`が省略された場合、“Widget”という省略時のクラスに戻ります。“All”のクラスも使用できます。この設定では Xt と Motif のすべてのウィジェットに対するリソースが表示されます。

## B.4.14 Xmtravel プログラム例

### V1.2

`xmtravel` プログラムは、旅行代理店関係やフライト・データベース向けのプログラム例です。このプログラムによって、『OSF/Motif スタイル・ガイドリリース 1.2』に準拠した様々なユーザ・インタフェースの設計概念を知ることができます。

このプログラムはほんの一例に過ぎず、装備されていない機能も多く、使用を目的とした定義済設定も行われていません。

## B.4.15 プログラム例のリソース・ファイル

### V1.2

プログラム例の多くには、それらの表示属性を定義する関連リソース・ファイルがあります。これらのリソース・ファイルを使用するには、DECW\$EXAMPLES ディレクトリからユーザの DECW\$USER\_DEFAULTS ディレクトリに複写を行うか、あるいはファイルの内容をユーザの DECW\$XDEFAULTS.DAT ファイルに追加します。

プログラム例ファイルおよびその関連リソース・ファイルの一覧を次の表に示します。

プログラム例	リソース・ファイル
DECW\$CDPLAYER.EXE	DECW\$CDPLAYER.DAT
FILEVIEW.EXE	FILEVIEW.DAT
PERIODIC.EXE	PERIODIC.DAT
MOTIFANM.EXE	MOTIFANIM.DAT
XMAPDEF.EXE	XMDEMOS.DAT
XMDIALOGS.EXE	XMDEMOS.DAT
XMEDITOR.EXE	XMDEMOS.DAT
XMFONTS.EXE	XMDEMOS.DAT
XMFORC.EXE	XMDEMOS.DAT
XMFORM.EXE	XMDEMOS.DAT
XMGETRES.EXE	XMDEMOS.DAT
XMLIST.EXE	XMDEMOS.DAT
XMMAP.EXE	XMDEMOS.DAT
XMPROTOCOL.EXE	XMDEMOS.DAT
XMTER.EXE	XMDEMOS.DAT
XMTRAVEL.EXE	XMTRAVEL.DAT

リソース・ファイルが見つからない場合には、プログラム例は実行されますが、正しく表示されないこともあります。

## B.4.16 プログラム例用 UID ファイル

### *V1.2*

プログラム例が使用する UID ファイルは、現在のディレクトリまたはユーザの DECW\$USER\_DEFAULTS ディレクトリに入れておかなければなりません。UID ファイルが見つからない場合、アプリケーションは正常に起動することができません。UID ファイルは DECW\$EXAMPLES ディレクトリから複写することができます。

---

## B.5 OSF/Motif の既知の問題のリスト

DECwindows Motif ソフトウェアには、OSF/Motif の既知の問題について記述した OSF ファイルが含まれています。このファイルは、インストール中にキットから SYS\$HELP:DECW\$MOTIF\_OSF\_BUGLIST\_V12.TXT にコピーされます。



## 索引

### A

AccessX 拡張 ..... 4-17

### C

#### CDA ビューア

CONVERT での論理名 ..... 4-23

Display PostScript のサポートの終

了 ..... 2-20

eXcursion による大きな DDIF ファイルの表

示 ..... 2-20

アプリケーション ..... 2-19

イメージ ident ..... 4-22

スタイル・ガイドのメッセージ ..... 4-22

「テア・オフ」メニューのサポートがな

い ..... 2-7

#### CD プレーヤ

必要な特権 ..... 2-32

Compose character ..... 2-39

C ヘッダ・ファイル ..... 4-9

### D

#### DECTPU

問題 ..... 2-4

#### DECW\$CDPLAYER

CD プレーヤを参照

#### DECW\$COMPARE\_VERSIONS ファイ

ル ..... 3-3

#### DECW\$INCLUDE:INTRINSIC.H ヘッダ・フ

ァイル ..... 4-7

#### DECW\$INCLUDE:TEXT.P.H ヘッダ・ファイ

ル

定義の変更 ..... B-12

#### DECW\$INCLUDE:XMP.H ヘッダ・ファイル

ヘッダ・ファイルも参照

削除された定義

XmHALFLONGBITS ..... B-12

XmLONGBITS ..... B-12

変更 ..... B-12

#### DECW\$UTILS グローバル・シンボ

ル ..... 3-16

#### DECwindows

起動の遅れ ..... 3-4

起動の性能向上 ..... 3-6

#### DECwindows OSF/Motif ツールキット

ツールキットを参照

#### DECwindows X11 ディスプレイ・サーバ

X サーバを参照 ..... 3-7

#### DECwindows デスクトップ

Mode\_switch に関するマウスの問

題 ..... 3-19

#### DECwrite

アイコンでプログラムが起動しな

い ..... 2-11

#### Display Postscript

サポートの終了 ..... 2-6

#### Display PostScript

サポート終了 ..... 4-4

#### DTPAD

ファイル名表示 ..... 2-8

dximageview ..... 2-12

#### DXmFormSpaceButtonsEqually ルーチン

ウィジェットの拡大縮小および配

置 ..... 4-21

#### DXmLAYOUT\_LEFT\_DOWN 定数

DXmNlayoutDirection リソース ... 4-20

#### DXmLAYOUT\_LEFT\_UP 定数

DXmNlayoutDirection リソース ... 4-20

DXmLAYOUT\_RIGHT\_DOWN 定数  
DXmNlayoutDirection リソース . . . 4-20  
DXmLAYOUT\_RIGHT\_UP 定数  
DXmNlayoutDirection リソース . . . 4-20  
DXmNlayoutDirection リソース  
定数 . . . . . 4-20

## E

---

EVI 拡張  
カラーマップの競合 . . . . . 4-17

## F

---

Fortran  
アプリケーションのコンパイル . . . . . 4-8

## G

---

GET\_CHAR\_STRUCT 関数  
アクセス . . . . . 5-3

## I

---

ICE (Inter-Client Exchange) プロトコル  
BAD\_LOCAL\_NODE エラー . . . . . 4-18  
watch プロシージャの削除 . . . . . 4-18  
サーバ・プロセスに必要な特権 . . . . . 4-4

## J

---

Java Development Kit  
Display Postscript のサポート . . . . . 4-6

## K

---

Kerberos  
認識できないコードのエラー . . . . . 3-11

## L

---

LBX プロキシ・サーバ  
サーバ・プロセスに必要な特権 . . . . . 4-4  
制限事項 . . . . . 3-22

## M

---

MIT X11  
リリース 3 固有のメッセージ . . . . . B-10  
リリース 4 固有のメッセージ . . . . . B-10  
Motif ウィジェットと XUI ウィジェット  
混合 . . . . . B-11  
Motif ウィンドウ・マネージャ  
アイコン・ボックスの画面外への移動 . . . . . 2-42  
カスタマイズ  
マルチヘッド・システムでの  
色 . . . . . 2-42  
カラー・カスタマイズ . . . . . 2-40  
構成ファイル . . . . . 2-40  
再起動 . . . . . 2-41  
マルチライン・アイコン・タイトルの行のセンタリング . . . . . 2-42  
モノクロ・モニタのカスタマイズのサポート . . . . . 2-41  
Motif に対する DECwindows の拡張 . . 4-20  
MWM  
Motif ウィンドウ・マネージャを参照

## N

---

New Desktop  
ToolTalk アクション定義の未サポート . . . . . 2-14  
アプリケーションの保存および復元 . . . . . 2-14  
省略時の背景 . . . . . 2-18  
フォント選択 . . . . . 2-17  
フロントパネルの時計 . . . . . 2-14  
ホーム・セッションを設定するとアプリケーションが消える . . . . . 2-9

## O

---

OpenVMS デバッガ  
漢字端末エミュレータへのリダイレクト . . . . . 2-29  
正しく動作しない . . . . . 2-3

OSF/Motif ツールキット	
既知の問題	B-31
プログラム例	B-13
cutpaste	B-13
dnddemo	B-13
Dogs	B-15
dog ウィジェット	B-16
helloint	B-17
hellomotif	B-18
MOTIFANIM	B-18
MOTIFGIF	B-19
motifshell	B-20
Motif サンプル・プログラム	B-28
periodic	B-21
PICT	B-19
square ウィジェット	B-16
textedit	B-21
view	B-24
xmpiano	B-26
xmtravel	B-29
プログラム例のリソース・ファイ ル	B-30
プログラム例用 UID ファイ ル	B-31

## P

.PEN ファイル	
Pascal プログラムで使用	4-14

## S

SET DISPLAY コマンド	
終了時にデバイスが削除されない	2-3
生成された cookie の破棄によるエラ ー	2-2
Structured Visual Navigation	
SVN を参照	
SVN ウィジェット	
水平方向のライブ・スクロール	4-21
System menu bar	
メッセージ	2-7

## U

UIL ソース・コード	
ドキュメント	5-4
UIL ファイル	
解析	4-7
コンパイル	B-10

## X

xauth	
X 権限ユーティリティを参照	
XINERAMA 拡張	
SEC_XAG 拡張前のロード	3-13
カスケード・メニューの配置	3-25
モードの制限事項	3-25
余分な文字が表示される	3-24
Xlib	
ConnectionNumber の変更	4-12
Pascal プログラム用ファイル	4-14
XConnectionNumber の変更	4-12
廃止されたエントリ・ポイント	4-11
パラメータのデータ・サイズの不 一致	4-15
ルーチン	
XSelectAsyncEvent	4-14
XSelectAsyncInput	4-14
ロケール	4-13
xnl_langinfo	
西暦 2000 年問題	4-20
xnl_parsedatetime	
西暦 2000 年問題	4-19
XNL ライブラリ	
xnl_parsedatetime	4-19
xnl_xnl_langinfo	4-20
XSelectAsyncEvent ルーチン	
メモリ割り当て	4-14
XSelectAsyncInput ルーチン	
メモリ割り当て	4-14
XSMP	
X セッション管理プロトコル	
X キーボード拡張 (XKB)	
Dead Mouse のサポート	4-17

X 権限ユーティリティ (xauth)	
ファイル名の指定	2-43
ファイル・ロック	2-43
X サーバ	
サポートされていない拡張	3-24
非 VGA デバイスの調整	3-7
X セッション管理プロトコル	
SmsGenerateClientId	4-19
X ツールキット	
ツールキットを参照	
X ライブラリ	
Xlib を参照	

## ア

アクセス制御	3-16
アプリケーション	
Fortran のコンパイル	4-8
クローズ前の一時停止	2-5
アプリケーション・グループの拡張	
グループのチェック	4-18
アプリケーションのコンパイル	
アプリケーションも参照	
Fortran	4-8

## イ

[印刷終了]オプション	
漢字端末エミュレータ	5-2
インストール	
共有可能リンクを使用したイメージのインストール	3-2
ファイル比較の制限	3-3

## ウ

ウィジェット	
Motif ウィジェットと XUI ウィジェットも参照	
DXmFormSpaceButtonsEqually を使用した拡大縮小および配置	4-21

## オ

オート・リピート設定	
漢字端末エミュレータでの変更	2-24

## カ

開発サポート	4-2
拡張	
AccessX	4-17
EVI 拡張	4-17
include ファイルの指定	4-19
XINERAMA	3-13, 3-24, 3-25
X キーボード拡張 (XKB)	4-17
アプリケーション・グループ	4-18
サポートされていない組み合わせ	3-24
セキュリティ	4-18
仮想端末のサポート	2-30
画面印刷	
「テア・オフ」メニューのサポートがない	2-7
漢字端末エミュレータ	
DECCRA シーケンス	4-24
DECLFKC シーケンス	4-24
/PROCESS の問題	2-31
ReGIS ロケータ・レポート	2-31
[印刷終了]オプション	5-2
ウィンドウが縮む	2-22
ウィンドウ・サイズの報告	2-24
ウィンドウ数の上限	2-23
ウィンドウの配置	2-24
オート・リピート設定の変更	2-24
仮想端末のサポート	2-30
画面印刷サービス	2-26
画面ホールドの応答時間	2-27
グラフィックス	2-27
診断クラッシュ・ファイル	2-29
端末エミュレータ	2-30
端末のサイズ変更	2-23
著作権についての注意書きの表示	2-24
デバッガの使用	2-29
フォントの選択	2-25
マルチヘッド・システムでのテキスト表示	2-21

漢字端末エミュレータ (続き)	
ユーロ通貨記号の制限事項	2-21
リソース使用	2-28
リソース・ファイル名	2-22
論理名	2-25

## キ

キー・バインディング	2-39
キーマップ	
AUSTRIAN_GERMAN_LK401AG_TW で	
の問題	3-20
共有可能イメージ	
互換性	B-10
上位互換性	B-10
共有可能リンク	
イメージのインストレーションでの使	
用	3-2

## ク

グラフィックス・カード	
Powerstorm の制限	3-4
グローバル・シンボル	
DECWSUTILS	3-16

## コ

互換性	
共有可能イメージ	B-10

## サ

最初の画面	
文字が表示されない	2-17

## ス

スタイル・マネージャ	
マルチヘッド・システムで誤ったセキュリテ	
ィ・オプションが表示される	2-8

## セ

セキュリティ・オプション	
誤った X 権限ファイルの使用	3-10
セッション・マネージャ	2-35
セキュリティ拡張	
グループのチェック	4-18
セッション起動	
青のログイン画面	3-17
セッション・マネージャ	
アプリケーションの起動	2-36
カラー・カスタマイザ	2-36
既知の問題	
プライベート・ロゴ	2-37
プロセスの停止	2-38
[ユーザの構成]へのノード名の指	
定	2-35

## チ

著作権についての注意書き	
漢字端末エミュレータでの表示	2-24

## ツ

ツールキット	
Motif ウィジェットと XUI ウィジェットの	
混合	B-11
OSF/Motif リリース	4-1
UIL コンパイラ	B-10
XmText および XmTextField 変換マネージャ	
構文の変更	B-10
_Xm ルーチンの使用	4-8
拡張	
CompositeClassExtensionRec	
	4-16
互換性	4-2
OSF/Motif リリース 1.2.2 と X11R5 ま	
たはそれ以降の共有可能ライブラリ	
の名称	B-1
プログラミング環境の保存	B-4
リリース 1.1.3 アプリケーションの異常終	
了	2-7
ルーチン	

ツールキット	
ルーチン (続き)	
XtOpenDisplay	4-16
ツールキットの共有可能イメージ	
共有可能イメージを参照	

## テ

「テア・オフ」メニュー	
サポートの制限	2-7
テキスト・エディタ	
制限事項	2-13
電子メール	
メールを参照	

## ト

トランスポート	
LAT とユーザ作成は V1.3 ではサポートされない	4-10

## ノ

ノートパッド	
「テア・オフ」メニューのサポートがない	2-7
リリース 1.1.3 ツールキットとのリンク	2-34

## ハ

パラメータのデータ・サイズ	
不一致	4-15

## ヒ

非トラステッド接続	
アプリケーションの実行	3-12

## フ

ファイルビュー	
アプリケーションの起動	2-36
プライベート・ロゴ	2-37
ファイル・マネージャ	
拡張ファイル指定の制限事項	2-10
検索の制約	2-15
フォントの制約	2-17
ブックリーダー	
DECW\$BOOKSHELF ファイルでのコマンドの使用	2-19
Display PostScript のサポートの終了	2-19
ファイル名中のセミコロンでハングする	2-18
ブラウザのサポート	
Secure Web Browser	2-5
プロキシ・マネージャ	
構成ファイルの制限事項	3-24
再起動の問題	3-23
サーバ・プロセスに必要な特権	4-4
プログラミング環境	4-2
プログラミング・サポートと XUI	B-4

## ヘ

ペイント	
基本的な操作での性能の向上	2-35
個人のカラーマップの作成	2-35
ヘッダ・ファイル	
DECW\$INCLUDE:INTRINSIC.H	4-7
DECW\$INCLUDE:TEXT.PH	B-12
DECW\$INCLUDE:XMP.H	B-12
変換イメージ・サポート	4-4

## ホ

保存および復元のプロトコル	2-14
---------------	------

## メ

---

- メール
  - Display PostScript のサポートの終了 ..... 2-32
  - カラー・カスタマイザ ..... 2-34
  - 選択肢の強調表示 ..... 2-33
  - ダイアログ・ボックスのプッシュ・ボタンのアクティブ化 ..... 2-33
  - メッセージのペースト ..... 2-33

## ユ

---

- ユーロ記号制限 ..... 3-19

## ラ

---

- ランタイムのサポート ..... 4-2

## ロ

---

- ログイン画面
  - テキスト・フィールド間の移動 ..... 2-17
  - 認識されない制御文字 ..... 2-16
  - パスワード入力 ..... 2-17
- ロケールのサポート ..... 4-13
- ロゴ
  - カスタマイズ ..... 3-18

## ワ

---

- ワークスペース ..... 2-18



日本語 hp DECwindows Motif for hp OpenVMS リリース・ノート

---

2003年3月 発行

日本ヒューレット・パカード株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)

---

